27
273

圓城寺清著

韓國之實情

全

東京
樂世社

27-272
帝國圖書館藏

韓國之實情 全

圓城寺 清著

東京 樂世社

明治
30 9 19
内交

小引

昨年六月の初、余は原田十衛君と共に國民後援會から派遣せられて韓國視察の途に上つた、仝月の月末までに門司に歸着して大岡育造、上島長久兩君と落合ひ、此處より更に滿洲に向ふべき豫約ありしと、一は韓京到着の翌朝、始めて米國大統領の仲介に依りて日露講和問題の起りし事を聞知して氣が氣でなかりしとに由り、南韓のみを視察して一先つ歸京することゝ爲つた、視察の要領は越えて七月十四日、國民後援會午餐會の席上で報告したが、其の中で聊か一般の參考にもと思ふ事柄は、後援會の認諾を得て余が從事しつゝある萬朝報の紙上に續載した、處が、諸方の知人若くは未知人より之を一纏めにして公刊したらばどうかと言ふタッての勸めもあつたから、成程、さうしたらば今後韓國に渡航するものゝ

爲めに多少の便宜にもならうと思ひ、延引ながら出版したのが此の一册子である

余は韓國には始めての渡航である、其の上、釜山に上陸してから更に釜山を去るまで、精しく言へば六月の十日に始めて釜山に上陸し、翌十一日夜、京城に入り、次て仁川に赴き、歸途、太田に立寄り、大邱に一泊し、一旦釜山に歸着して夫れから馬山浦に赴き、再たび釜山に歸りて愈〻釜山を去つたのが、同し六月の二十八日であるから、其の間僅かに十七ヶ日の短時日に過ぎない、釜山着發の日を加へても韓國滯在の日數十九日間に過ぎない、ドウして迚も十分の視察調査が出來やう筈がない、隨つて國民後援會に報告し、次て世上に公表した事實や論議も、必らず疎漏を極め、又は遼東の豕たる譏を免かれざるに相違ない、が、是等は今、述べた通り、始めての渡航の上に、視察の時日が至つて短かゝつた結果であると言ふことを察して之を諒として貰ひたい、尙ほ疎漏の點や、間違つた所などは遠慮なく之を指摘し、是正を加へられんことを切望する

此の册子は大體に於て國民後援會で報告したまゝ、萬朝報に掲載したまゝの事實及び順序に依りて編纂出版することに仕た、夫れゆえ卷中に掲ぐる事實で多少變つたものもあり、斯くあれがしと論議した事柄で既に解決を告げたものもある、例之へば、船車の聯絡に關すること、船の運賃に關すること、軍用鐵道の普通客搭乘に關することなどは、不十分ながら余の希望通り既に夫れ〳〵實行せられて居る、又對韓政策の上に於ては外交の權を我に收め、伊藤侯が新たに統監の地位に就かれた爲め、是れ亦不十分ながら面目を一新したのである、で、此の册子に掲ぐる所の事實若くは論議中、所謂六日の菖蒲、十日の菊たる觀あるものなきにしもあらずであるが、左ればとて其の儘に存して置いても、尙ほ全く參考にならら

ぬと言ふほどでも無し、且は余が韓國視察其の儘を紀念するため、別段補訂改竄を加へなかつた、此の點に就ても豫じめ讀者の諒察を乞ふて置きたい

明治卅九年一月東京牛込の僑居に於て

天山識

韓國の實情

圓城寺清著

韓國渡航上の不便

韓國に渡航する上に於て、第一の不便は船舶の往來出入意の如くならざることである

論より證據、我れ〳〵が實地に經驗したる所を擧ぐれば、我れ〳〵は昨卅八年六月の五日に東京を出て、越えて七日の朝、門司に着した、先を急ぐ旅ゆゑ、直ちに其の日にも渡航したいと思ふたが、生憎、其の日には船が無い、其の翌日にも無い、翌々九日の夕刻に爲つて始めて船が出ると言ふことで、餘儀なく貴重の日子を前後三日間も用なき所に空過しなければならぬことに爲つた、尤も是れは我れ〳〵が東京を立つ時、精密に船の出る日時を調べて行かなかつた結果でもあらふが、所謂一衣帶水で、呼はゝ應へん許りの對岸まで渡航するに、二日も三日も便船が無いなどと言ふことは、慥に

帝國圖書館藏

大なる一の不便に相違ない

是れは我れ〳〵が向ふへ行く時の事實であつたが、還る時にも亦同樣の、否、同樣以上の不便に出會つた、我れ〳〵が京城、仁川を始めとし、京釜鐵道沿傍の要地を視察して釜山に歸着したのは、同じ六月の廿三日の夜であつた、廿四日一日は釜山の見聞に時を費す積りであつたから、別に船の出入に注意も仕なかつたが、其の後の都合を聞き合せると、翌廿五日には我が馬關、門司に向ふ船が無い、更らに其の翌廿六日に至つてフィドー號と言へる傭入れの外國船が出帆する豫定であるとのことであつた、それでは其の間、釜山で無益に日を送るよりも、廿四日の午前、馬山浦へ船便のあるのを幸ひ、馬山浦の見物に出懸けることに決し、船上、新らしき紀念を有する鎭海灣の前面を手に取るごとく眺めて過ぎ、數知れぬ我が艦艦が威容堂々たる有樣に、滿船の客覺えず拍手喝采などする間もなく、馬山浦に入り、此處に一泊して翌二十五日、鐵路釜山に歸れば、其の翌廿六日出帆の豫定なりしフィドー號は、今正に盛んに煙を揚げ錨を拔きつゝある時であつた、旅館の召使を叱り飛ばしても、埠頭に走り出てゝ、問いて見ても、最早間に合はぬから詮方なしと諦らめて後の船を待つことに仕た、後の船と言へば、蒼龍號とか言へる傭入れの朝鮮船が翌二十六日に出帆するとのことであつて、

一たびは乘船を申込んだが、段々話を聽くと、同號は至つて小形の古船であるさうて、現に之れを傭入れて居る大阪商船會社の釜山支店の重立つ人でさへ、イヤあれはお話に爲りませんと言ひ、又現に之に乘込んだことのある人は是れまで隨分南京蟲に喰はれたが、劇しい熱の出るほど喰はれたのはアノ船が初めてゞす、などゝ言はれるほどであつたものだから、それでは何も物好にそんな船に乘るにも及ぶまい、更に一日待てば、オハヨー號と言へる傭入の外國船で、韓國通ひとしては殆んど第一等の船が出るとのことであるから、それに乘らふと言ふことに極めて、之を待つことに仕た、所が廿六日から稍や崩れはじめた天氣は廿七日に入りて豪雨と爲り、風も加はり、濠氣も籠り、待てども〳〵オハヨー號は入港せぬ、待ち明して翌廿八日に至りて天氣の晴れるに連れて漸く入港して來た、それで同日の夕刻之に乘込み、翌廿九日の朝、關門海峽に這入たけれども、三等船客中、天然痘患者があると言ふ騷ぎで、六連島及び彦島で二度も檢疫を受け、ヤット其の正午頃門司に上陸することが出來たのである、是れは素より天候の關係もあつて、天候の關係ばかりは人力でドウすることも出來ないが、廿六日出帆の豫定船が廿五日に出で去り、之が爲め次の船を待つまで三四日も空過しなければならぬとは、隨分、忍び難い不便と言ふべきではあるまいが、

以上は單に我が關門と釜山との間の事を擧げたものに過ぎないが、韓國沿岸の航路に至つては一層不便が多いやうである、現に韓國の農業地視察の目的を以て、渡航して居らるゝ同鄕の知人、德久恒範、伊東祐侃兩君の實歷談として語られた所に據ると、兩君は群山、木浦等の附近を順次視察しやうと言ふ考で、仁川より船に乘りて先づ群山に赴かれた、此處を視察したる後、直ちに木浦に赴かるゝ積りであつたが、船の便が無い、聞き合せて見ると、一週間立つて來るか、十日間立つて來るか、船繰りの都合、天氣の都合で豫定は出來ぬとの事であつた、夫では溜らぬと言ふので、元と來た船で餘儀なく仁川に引戻し、仁川から京釜鐵道に乘して釜山に來り、此處で木浦行の船に乘らうとされたが、是も仲々思ふやうに行かぬ、詮方なさに、我れ〳〵と同道して或は馬山浦に行かれるし、或は馬山浦から鐵路、密陽の視察に出かけられるし、さうして釜山に歸つて來て見られても木浦行きの船が尙ほ無いと言ふ始末の爲めに、誠に困つた旅だと當惑して居られた程である、是れはホンの一例に過ぎないけれども、此の一例で韓國沿岸航通の不便のほどが想察さるゝであらうと思ふ、我れ〳〵もセメテ群山木浦等の附近は視察したいと思ふたけれど、此の不便に妨げられて之を遂ぐることが出來なかつたのである

韓國に渡航する上に於て、第二の不便は船客の運賃の餘りに高價に過ぐることである

是れも論より證據を擧ぐるのが、早解りと思ふから、我れ〳〵の實地に經歷したる所を語ることゝ仕やう、我れ〳〵が船で渡航した處は、門司と釜山との間、及び釜山と馬山浦との間であつたが、其の門司と釜山との間はザット百二十海里、釜山と馬山浦との間は四十海里に足らぬほどの距離である、然るに其の距離の船客運賃は如何ほどであるかを調べて見ると

門司、釜山間　は洋食一等十六圓、和食一等十二圓、別室二等十圓、雜居二等七圓八十錢、三等三圓五十錢

釜山、馬山浦間　は洋食一等四圓八十錢、和食一等三圓、別室二等二圓八十錢、雜居二等一圓八十錢、三等一圓二十錢

と言ふ定めに、爲つて居る、之を一海里の平均に直して見ると、門司、釜山間及び釜山、馬山浦間共に一海里の運賃、最上等(乃ち洋食上等)が十三錢、內外、最下等(乃ち三等)が三錢內外の割合に爲つて居る。されば、內地沿海の船客運賃はドウなつて居るかと言ふことを調べて見るに、其の距離恰かも門司、釜山間に二倍して居る

神戸門司間　は洋食一等七圓、和食一等五圓四十錢、別室二等四圓五十錢、雜居二等三圓六十錢、三等二圓四十錢

て、門司、釜山間及び釜山、馬山浦間の距離を一ト括めに仕たほどの間隔ある

門司、長崎間　は洋食一等五圓、和食一等三圓十錢、別室二等三圓五十錢、雜居二等二圓五錢、三等一圓三十五錢

の定めに爲つて居る、今、又之を一海里の平均に直して見ると、神戸、門司間及び門司、長崎間の各一海里の運賃が最上等(乃ち洋食一等)でザット三錢、最下等(乃ち三等)でザット一錢と云ふ割合に爲つて居る。それで前後兩者の割合を對照して見るに、韓國渡航の船客運賃は內地沿海の船客運賃に比して、最上等に於て四倍以上、最下等に於て恰かも三倍、孰れにしても驚くべき高價に相當するやうに爲つて居る、更に之を他の意味にて言へば、百五十四海里の長距離を有する門司、長崎間の航海に要する運賃と、僅に四十海里にも足らない短距離を有する釜山、馬山浦間の航海に要する運賃とは、粗ぼ相同じ程であるから、結局、內地の沿海に於て百五十海里以上歩ける費用を以てして、韓國渡航の場合には僅かに四十海里しか歩けぬと言ふ勘定に爲るのである。以上は我れ〳〵が實地に經歷した區間のみの實例を擧げて、內地の實際と對照したるに過ぎないが、多少の割合こそ違へ、韓國沿海の航海に要する運賃は、一躰に頗ぶる高價に過ぐるを免かれない、而して是れは獨り船客の運賃に止らず、貨物の運賃に於ても大躰其揆を一にして居るやうである

乘客の運賃、貨物の運賃の高價なることは又獨り船舶のみの上に止まらない、京釜鐵道とても同樣である、鐵道運賃の高價なる割合は、船舶運賃の高價なる割合ほどには高價でないやうだけれども、內地の鐵道運賃に比すれば尙ほ頗る高い、現に山陽鐵道では三百二十九哩の長距離で三等乘客の運賃三圓であるのに、京釜鐵道では二百七十四哩の短距離で同じ三等乘客の運賃、却つて四圓十五錢の高價を徵するのである、之を一哩に平均して見るに山陽鐵道のは一哩一錢の割合に當らないのに、京釜鐵道のは一哩一錢五厘の割合に相當して居る、乃ち恰かも五割の高價に相當して居るのである、此の割合は貨物運賃の上に於ても同樣とのことである、それでも他き足らないで京城、仁川間の大貨物の運賃を從來の三倍にまで引上げやうとしてゴタ〳〵を起すなどゝは、京釜鐵道の當業者も隨分、蟲が善過ぎるのではあるまいか

孰れにしても、船舶鐵道共に斯る高價の運賃を貪るのは、韓國渡航者の爲めに非常なる不便であつて、韓國拓殖の上に少なからざる妨碍を及ぼすべきは勿論のことで

ある、事新らしく言ふまでもなく韓國を眞實、我れの保護國と爲し、十分に開拓の實を擧げんと欲せば、今までよりも一層、ドシ〳〵本邦人を入り込ませるに限る、本邦人の移住が韓國の保護、啓發、開拓を完うする何よりの基礎と爲るので、ある、然るに其の渡航上、船の便が惡い、船舶、鐵道の運賃が高いとありては邦人移住の勢を挫き、延きて對韓政策の上に障礙を蒙むるに至るべきは、明々白々の事柄である

尤も山陽鐵道會社では、關門と釜山との間の聯絡船を製造中で、既に其の一隻は進水式を擧げ、八月あたりよりは愈いよ實地運轉を爲すとのことであるから、關門、釜山間に於ける船の往來に伴ふ不便を去ることは出來やうが、運賃は毫も引下げない、或は現在よりも却て一割か二割位、引上げるやも知れぬとのことであれば、運賃に伴ふ不便は依然として去らない、是れは我れ〳〵が當業者の德義心と、監督者たる要路有司の注意とに訴へて、是非にも反省し、改善を加へて貰ひたいと思ふ點である

其他、韓國沿海の船線の惡いこと、運賃の高いこと等に就ては、當業者の間に多少の辯疏もあらうと思ふ、沿海に積上げ若くは積込む貨物の少ないことなどは、殊に其の辯疏の重なるものであらう、是れは無理もなきことではあるが、無理もなきことであるからと言つて、何時までも此儘に捨て置くことは出來ぬ、他の航路などで既に必要を見ざるに至つた國庫の補助を移して、之を補助することゝしても、是非其の不便を除かねばならぬ、左なくば永遠に對韓政策の功程を擧げ、韓國開拓の實を完うすることが出來ぬのである

船車聯絡上の不便

今日の處では、關門、釜山間を往來する汽船と、京釜鐵道との間に、殆んど直接何等の聯絡も無い、乃ち馬關門司を其の日の午後四時前後に出帆する船は、翌日の朝に釜山に這入るけれども、乘客が上陸する頃には、京釜鐵道の京城直通列車は、其の第一ステーションたる草梁驛を出發した後である、出發した後で無いまでも、船の乘客が上陸を了へ、荷物を整へ、上陸地點より二十丁近くもある草梁驛まで駈け付くる時分には、ドウしても京城への直通列車には間に合はぬ、夫故に內地より京城に向ふ旅客は、假令、關門を出た翌朝、釜山に這入つても、直ちに其の足で京城への直通列車に乘ることは出來ず、空しく一日を釜山に費し、釜山に一泊の上、翌朝の直通列車に乘るか、又は釜山に着いた當日、途中の大邱か、太田まで行つて其處で一泊し、翌早朝の汽車にて京城に向ふの外は無い。更に京城から汽車にて釜山に出て、夫より船に乘りて、馬關門司に

向ふ場合とても、殆んど同じやうな事情で、矢張り其の日の船には間に合はない、釜山で一夜を明かし、翌日の夕刻まで待ちて漸く出帆するの外は無い、是等は韓國渡航者の爲めに、船繰りの悪い以外、運賃の高い以外に於ける一大不便と言はなければならぬ

されば、こそ山陽鐵道會社に於ては、新たに二隻の快走汽船を製造して、毎日、馬關と釜山とより互ひ違ひに一隻づゝ、其の汽船を往來せしめ以て京釜鐵道の直通列車と聯絡を着けんとの計畫を立つるに至つた次第である此の計畫は愈よ八月あたりより實行する運びと爲つて居るとのことであるから、其の運びの着き次第、是れまでの不便は大いに除かれることに爲るに違ひない。猶ほ京釜鐵道會社に於いても、現在の第一ステーションたる草梁驛より線路を延長して、其の終點を釜山埠頭に近い埋立地に置くことゝし、既に其の敷地なども買求めて、夫れ〳〵延長の準備中であるとのことなれば、其の計畫が愈よ竣功した曉には、韓國渡航者は之に依て一層、是れまでの不便を免れることに爲るに相違ない。但し、内地より釜山に往來する船舶は山陽鐵道會社の聯絡船以外に澤山あり、是等の船舶に搭乘して京城及び其他の要地に向ふ旅客も決して少くないから、是等の船舶と京釜鐵道との關係も今より各當業者の考量の中に置き、成るべきだけ、双互の聯絡を着けるやうに仕なければ、韓國渡航者の不便は、尚ほ十分に除去せられたりとは言はれないのである

船の方では山陽鐵道の聯絡船が出來、汽車の方では京釜鐵道の第一ステーションを釜山埠頭に置くことゝ、爲れば、是れまでの船車聯絡上の不便は、大に除かれるに違ひないが、尚ほ茲に一つの不便と言ふのは、税關である、税關の役員の措置が遲緩を極める事である、釜山で色々の人に聽き、且我れ〳〵が實地に經驗したる所に據ると、船は其の日の早朝釜山に入港し、船客は午前八時か九時までに上陸が出來ても、携へて來た荷物は一たび税關の手を通つて其の檢査を經なければならぬ、然るに其の税關の役員は朝鮮流で午前十時に爲らなければ出て來ない、隨つて其の後でなければ荷物を受取ることが出來ないから、假令船からは如何に早く上陸が出來ても、汽車との聯絡上には何の効も無い、又た夕刻は午後四時に爲れば、税關は門を閉ぢて役員はサッサと歸つて仕舞ふから、其の後には税關に對する仕事はドッすることも出來ない、泣く〳〵も翌日の午前十時以後を待つの外は無い、斯かる始末であるから、途中、風雨其の他の事故の爲めに多少豫定時刻に遲れて入港した船などが、成るべく其の日の中に出帆して遲れた時刻を取還さうとしても、税關は引けて仕舞ふ、貨物の檢査は出

來ぬ、と言ふことの爲めに、空しく一日を釜山の港に費すの外はない不幸のハメに陷るのは、折々見る實例であるとの話である。是れも山陽鐵道會社の聯絡船が出來上ると同時に、是非とも改善を加へ、爾後は稅關の役員が船に出張し、船の中で荷物の檢査をするやうに更ためて欲しいと言ふので、目下其の請願中とか傳へ聞いて居るが、何を言ふても朝鮮流の役員で、遲緩とか、緩慢とか言ふことは全く天稟の資質に爲つて居るほどであるから、餘程嚴重な交渉を爲し、激しく其の弊風を矯めることを力めなければ、折角の聯絡計畫も之れが爲めに打ち壞されるやうに爲るに極まつて居る。而して是れは勿論、山陽鐵道會社の聯絡船に對するのみならず、一般の汽船に對しても、是非、同樣の取扱ひを爲すやうに改善して貰はなければならぬ

猶ほ序てに言ふて置くべきは、船に對する郵便物積込の件である、船の乘組員が不斷の苦情として我れ〳〵に語つた所に據ると、釜山を出帆しやうとして普通貨物の一切を積み終つても、郵便物は容易に來ない、偶ま郵便物が早く來た場合には、稅關の手續若くは出港許可證が遲れると言ふやうなことで、何時も船の出帆が多少遲れる、それで午後四時に出帆しやうと思ふ場合には三時か二時かの出帆屆けを出して置くけれども、前に言ふごとき郵便物其他の遲延の爲めに、矢張り四時、五時に爲らねば出帆が出來ぬとのことである。是は獨り釜山ばかりの話でなく、他の諸港に於ても同樣とのことであるさうだが、釜山の如き聯絡の中心點に爲つて居る所では、殊に一日も早く其の弊風を改めて貰はなければならぬ、然らざれば之より生ずる不利不便は決して少なからざるのみならず、遂に之が爲めに矢張り船車聯絡の計畫をも水泡に歸せしむるやうに爲るのである

旅宿に伴ふ不便

韓國渡航の船車に關する不便を列べた序てに、旅宿に伴ふ不便をも擧げて見やう、些細の問題であるやうだけれど、渡航者の爲めには少なからぬ利害の關係の繫る所だから

釜山は流石に一番古くから我が內地と交通し、且其間の距離も至つて近い處であるから、旅宿は勿論一般の事情も別段著しく內地に異なつた點は無い、釜山の波止場近くに聳えて居る和洋折衷、三階造りの大池旅館などは、內地にても亞なる都會の外には容易に見られないほどの旅館である、取扱ひも相應に叮嚀に宿泊料とても餘り內地より高いとも感ぜない、大池以外の旅宿は大池よりはズッと落るけれども、是等

とても夫れ相當の取扱ひはするやうである。其他大邱、馬山浦等韓の極南部で比較的に內地に近ひ處の旅宿は、家の構造並に內部の組織等に於て、釜山の旅宿に及ばぬことは勿論であるけれど、宿料も格別高くなく、取扱ひも宿料相當にはするやうである

處が北向して京城、仁川に入れば、此の狀態が全く一變するのである、京城で第一等の旅宿は巴城館と言ふので、建物は隨分大きいものであるが、取扱ひは頗るヒドク、宿料は之が反比例に目の玉の飛び出るほど貪るとの話である、現に巴城館に宿泊した人々の實驗談に據ると、朝、晝、晩、旅館から出すだけのものを食つて、身動きもせず、獨りで默つて居つても、一日に五六圓は取られる、それに若し晩酌でも遣る、客膳も出す、車に乘つて出這入をすると言ふやうなことをすれば、ドンなに少ない茶代や祝儀を置いても、先づ一日十五圓以上でなければ收まらぬとのことである、勿論、內地でも少し驕つた旅をすれば一日に十五圓や二十圓は譯もなく入る、又富貴榮華な人には其の位の人費は何でもなからうけれど、韓國に入つて視察を仕やう、視察を仕た上、事業を企てやうと言ふ人々の爲めには、斯くまで宿料の高過るのは、慥かに一の妨げに成るに違ひない。猶ほ實驗者の話を聽くに、宿料の高いのは暫らく是非なしとするも、其の高い宿料相當の取扱ひでも、仕て呉れゝば忍ぶことが出來るが、取扱ひは之れが反比例に惡い、殆んど客を客と思はない風があるとのことである、我れ〳〵が鐵路、京城に入らんとして京城より二三驛手前の永登浦で二三の友人に邂逅した時、其の友人が京城は何處に宿するかと尋ねたから、ツム先づ巴城館の積りだと答へたら、アヤー巴城館か、アノ內に泊まるなら喧嘩する積で居たまへ、と言ふから、馬鹿な、旅宿に泊つて喧嘩するもないもんだと一笑に附して置いたが、成程、實驗者の話を聽くと、實際、喧嘩しなければならなかつたかも知れぬ。我れ〳〵も京城に着いた當夜、友人の懇ろなる世話にて一夜、大東館と言ふのに泊つた、此處は友人の世話に依つて特別に取扱ひを善くして呉れたやうであつたけれど、周圍に於ける朝鮮の例の臭氣、飲食物の如何がはしいなど、殆ど永く滯留するに堪へない思ひが仕た、幸に益田孝君の紹介があり、三井物產の京城支店長を仕て居られる小田柿捨次郎君を尋ねた折、イヤ京城の旅宿住ひは命懸けです、トテモ溜つたものではない、幸ひ、自分は南山の半腹に邸宅を新造して二ヶ月許り前に引移つたから、苦しくなくば是非其處に、との勸めであつたから、我れ〳〵は地獄で佛の思ひ、それでは遠慮なく御厄介に爲りませうと言つて、京城到着の翌日匆々に小田柿君の宅に繰込み、其の爲め旅宿生活の煩惱苦悶を免かれ得たのである

仁川の旅宿も大抵京城と變らぬとのことである、現に仁川の稻田旅館とかに泊つた德久、伊東兩君の話に據ると、宿料の高いのは勿論であるが、取扱ひは一層ヒドい、用さへ言付れば其處の召使は皆頻を膨らすのである煙草の火をと言へば其邊にマッチがありませうとの無愛想の答へ、それでも又も泊ることがあると思ふて、茶代も餘分に置く、召使にも餘分に祝儀を與れて、船で群山に行つて還り途に再たび其の旅館に立寄つたが、碌々挨拶もせぬ、餘りの事に、オイ自分等は一兩日前、此處に泊つた客だが、覺えて居るかと尋ねたら、ヘイ覺えて居ますと答へて濟して居るから、笑ふにも笑はれず、怒るにも怒られなかつたとの話であつた、京城で旅宿生活のヒドい話に驚いた我れ〳〵は、仁川でも三井物產支店の藤木秀次郎君の私宅に、誘はるゝ儘厄介に爲つたから、仁川旅宿の事情を精しくは知らぬが、此の實驗談で粗ぼ其の有樣が想像されるゝであらうと思ふ

サテ、何故、斯かる次第に立ち至つたかと言ふことを質して見たら、旅宿の當業者には或は物價の騰貴に餘儀なくせられたとか、或は旅客の多い割合に旅宿が少いからだとか、夫れ〳〵多少の言譯があらう、成程、是等は一面の道理で、一概に排斥すべき言譯ばかりではないが、畢竟するに客を客とし、旅先の宿舍を自宅のごとく安んじ樂ませて滯泊せしむると言ふ親切な心掛けが足らないのである、此の心掛けが足らないから、結局、客はドウても己れが利益さへ餘計に得れば宜しいと言ふ薄情の仕打をするやうに爲つて來る、永遠の上より見れば、是れは決して旅宿當業者の利益でもないけれども、憫れむべし、彼等にはマダ夫れを洞察するの明が無い、但し、是等の心掛や、不明は法律の力でドウすると言ふことも出來ぬ事柄であるが、さればとて此儘に打捨て置いては、韓國渡航者の不便少なからぬ次第であるから、一面には成るべく各當業者の德義心を喚起し、一面には領事、警察等の好意ある注意に依りて、一日も速かに之を改善せしめたきものである

京釜鐵道の現狀

京釜鐵道は釜山の埠頭から殆んど二十丁近くも隔だつて居る草梁驛を起點とし、慶尙、忠淸、京畿の三道を串通して、京城の南大門に達し、其の線路の延長は二百七十四哩に及んで居る、外に京城の西大門を起點とし、南大門に於て右の本線と合して龍山、鷺梁津を經、永登浦より本線に分れて仁川に至る支線があつて、其線路の延長が二十七哩ほどあるから、京釜鐵道線路の總延長は殆んど三百哩に達するのである

本線、支線と言へば親と子との關係の樣に聞えるが、京釜鐵道では子の方の京仁支線が早く生れて、親の方の本線が後から出來たのである、乃ち京仁支線は明治二十九年中、米國のゼームス、アール、モールスと言ふ人が韓國政府の特許を得て工事中なりしを、越えて三十一年十一月、我國の有志者が一のシンヂケートを組織して之を讓り受け、合資會社を設立して工事を進行し、三十三年十月全線の開通を告げたが、更に越えて三十六年十月に至り、二百四十四萬餘圓の巨資を以て之を京釜鐵道に買收したのである。本線の起原は明治二十七年八月に協定された日韓兩國間の暫定條約にあるが、一體の運びはズット遲れ、京釜鐵道會社の出來上つたのが三十四年六月、工事を起し、始めたのが同年八月、政府から特典の上の特典を得て工事の速成を務め、それで漸く全線の開通を告げたのが卅七年十一月、營業を開始したのが卅八年の一月一日からであるから、京仁支線の出來上りに較ぶれば四ヶ年以上遲れて居るのである。出來上りの前後は兎に角、肝腎の京仁線を一たびは他邦人の手に取られ、之れが買收の爲めに割高い代價を支拂はねばならぬハメに陷つたとや、又は本線の敷設權を得ながら數年間毫も其の工事に着手せず、非常危急の場合に行き當つて政府の特別補助の下に漸く之れを速成したことやを回想して、之を露國が時に依つては一日に三哩づゝも工事を進め、十年に足るや足らずで五千餘哩の長程鐵道を速成し、之に據りて極東に勢力を發展する基礎と仕た機敏な手際に對照すれば、何となく耻かしいやうな、情けないやうな、怨めしいやうな心地がする。夫でも兎に角、ドウやらコウやら、韓國を串通する鐵道が我が國民の手に依つて出來上つて、之が將來永遠に我が勢力扶植の基礎に爲るかと思ひ、初めて之に乘込んで草梁、釜山鎮、龜浦などゝ行く〳〵韓の山河を眺めた時は、嬉しいやうな、懷かしいやうな、有難いやうな感じが仕た、所謂萬感胸に集まるとは、我れ〳〵の此時の實情を形容した言葉かと思つた

京釜鐵道の線路軌間は、歐米の標準軌間に倣つて四呎八吋半の廣軌に仕組てある、廣軌と言へば何人も直に汽車の進行速力が非常に早くて、トテも內地の汽車の比てないと思ふだらうけれど、京釜鐵道は實際さうでない、現在の處、二百七十四哩の距離を十三時間と四十五分、ザット十四時間で走つて居るから、平均、一時間二十哩內外の速力で進行して居る割合である、一時間二十哩內外の速力ならば、內地の狹軌鐵道にもイクラも其の類例があつて毫も珍らしくない、尤も各河川の假橋が大抵七月一杯か八月の初めまでには本鐵橋に改造されて仕舞ふから、サウなれば一時間二十五哩の速力を出すやうにするとのことである、一時間二十五哩の速力を出せば現在の十

四時間が十一時間に縮まつて隨分便利には爲るが、一時間二十五哩と言へば現に東海道線の最急行列車は夫だけの速力を出して居るから、矢張り珍らしくないのみか、廣軌の京釜鐵道で、之れが最上の速力とありては、頗る喰足らぬ心持がする、此の緩速力の原因として數へらるゝものは、主として京釜線の中部に當つて居る所の地勢が嶮峻で所謂山岳重疊と言ふ有樣であるから、線路が隨がつて迂餘曲折し、且最急六十分の一乃至五十分の一の勾配を以て上下する場所が少くないからと言ふこと是れが一つ、朝鮮は一躰に水の乏しい所であるから、途中で屢ば釜の水を補足しなければならぬ必要があり、之が爲めに隨分少なかざる時間を空費するやうに爲ると言ふこと是れが一つ、其の外、東海道線は今や全部殆んど複線に爲つて居るが、京釜線は純粹の單線である、其の上にマダ出來立のホヤ〳〵で一切の準備が十分に整つて居らぬから、思ふ存分の力を出すことが出來ないと言ふことなどである、是等は孰れも尤もな道理で、殊に地勢に關する點などは容易にドウすると言ふことも出來ないが、京釜線中、地勢の嶮峻なのは前にも言へるごとく其の中部に當つて居る所で、前後の兩端乃ち全線の過半は平坦であるから、此の分は特別に急速力を出すことが出來ぬこともあるまい、現に其の平坦な場所で何時ぞや貨車のみ引かせて試ろみた場合に、一時間五十哩の速力で無事に走つたと言ふ話しを會社員より直接に聽いたほどである。

また、機關車を少し餘分に備へて、汽車の着く前に一切の發車準備を整へ置き、着くや否や、釜の水の盡きた機關車と取換ふるやうにすれば水の補足の爲めに空費する時間を省いて、大に到着時間を早むることが出來るであらふ。猶ほ京釜線は單線であるからと言ふことであるが單線である代りには、複線の東海道線に比して列車運轉の度數が少いから、其の方で速力を早むる埋合が着くべき勘定に爲るのである。出來上つたばかりで、一切の準備が十分に整はぬ京釜鐵道に向つて滿足な功績を望むのは聊か性急、且は苛酷に失するやうであるけれど、折角是れまでに無い廣軌鐵道を拵へ上げた慾には出來るだけ速かに加ふべき改善補修を加へて廣軌鐵道に相應はしき急速力を出すことの出來るやうに希望する、希望する餘り、斯くは小面倒なことを言ふのである。而して此の希望が一日にても早く實地に行はるれば、夫れだけ多く日韓交通の上に裨益を與ふるのは言ふまでもなき事である

京釜鐵道の貨車は廣軌だけに流石に廣く、大きい、內地の狹軌鐵道の貨車は一臺の容量僅かに七噸に過ぎないが、京釜鐵道のは二十七噸、乃ち殆んど之が四倍の容量を持つて居る、廣軌鐵道の貨物輸送力が如何に雄大なるかは、此の一事で分明であらふ

と思ふ。但し、京釜鐵道は前にも言つた通り、其の中部に地勢險峻な處があつて、或は紆曲し、或は勾配が急であるから、其の邊では一列車に七臺位しか引けない、尤も平坦な處に爲れば九臺乃至十一臺位までは引けるさうだけれども、全線直通の上から見れば、今の處、先づ一列車七臺位を限りとするとのことである、併し夫れでも之を內地の貨車に引直して見れば、一列車二十七臺を引くと言ふ割合に爲るから、隨分太した輸送力と言はなければ爲らぬ

客車の方も亦同樣に廣く、大きい、されど其の廣い、大きい割合には客を積み込めぬ、是れは人間と貨物との違ひより生ずることで固より已むを得ない、イヤ廣く、大きいからと言つて、貨車の比較の割合に人間を積み込まれたら、夫こそ溜つたものでは無い。客車は(貨車も)ボギー貫通式で一等、二等、三等の三種に區別すること內地同樣に爲つて居る。內地の客車の一二等室で客の腰を掛ける所は、一方の側は窓側に縱に着いて一脚に定員二人と爲つて居り、他の一方の側は橫に長く着いて客はズラリと並ぶやうに爲つて居るのが多いが、京釜鐵道客車の腰掛けは兩側とも窓側に縱に着いて居る、それでも車の幅が廣いから中間の往來は尙ほ內地の客車よりも樂に出來るやうに爲つて居る。京城、釜山間の直通列車には、車內で隨意に飲食の出來る仕組みに爲つて居る、洋食もある、箱詰めの和食辨當もある、ビールもある、葡萄酒もある、平野水も、ラムネも、茶も、珈琲もある、平野水や、ラムネや、ビールは孰づれも車內の一隅に氷室(とは言へば聊か大袈裟だが)に冷してあつて、隨時に之を取寄せて暑を醫し渴を醫することが出來るなどは、韓國に於ける汽車旅行としては、聊か意外だけに餘計に有難い。車中で飲食を爲す場合には、內地の汽車のごとく食堂列車の在る所まで出かける必要は無い、ボーイを呼んで言付けさへすれば、直ちに客の腰掛けて居る前に輕便な食卓を拵へ、其處で飲み食ひの出來るやうに仕組んである、之に類した仕組は一時、日本鐵道會社でも用ひて居つたやうに覺えて居る、此の仕組は側で唯見て居る人などには頗る目障りかも知れぬが、實際飲み食ひをする人々には隨分便利で、是れも一ッは廣軌のお蔭であらう、但し飲食物の着いて居る汽車は、前にも言つた通り、京城、釜山間の直通列車に限り、途中で止る列車には附いて居ない、而して途中の重なる各驛でも容易に辨當など賣つて居る所は無いから、直通列車以外の列車に乘る人々は、乘込む際、辨當を拵へさせて持參するが宜しい

直通列車に飲食物を備へ置き、輕便食卓を拵へるなどは、仲々氣が利いて居るが、客車內の掃除、就中、客の凭れかゝり、腰をかける所に在る絨氈の掃除の行屆いて居ない

のには驚く、手を觸るれば眞ッ黑くなる、叩けば限りなく塵芥が飛び出る、夫れは〳〵隨分ヒドいのがある、朝鮮て不潔は通りものであり、且つ汽車の旅で石炭の煤をカブる、塵芥で鼻の穴が眞ッ黑くなるなどは、內地に於ても通例てあるが、京釜鐵道のは通例よりもズッと甚だしいのが多い、少し手をかくれば掃除の屆くものを、朝鮮流て打棄つて置くものと見える、是れは是非少し注意を加へて貰ひたきものてある。次に客の腰をかける所が內地のよりも大きく、堅固に出來て居る點は宜いが、其の內端の凭れかゝる所が頑固な、堅い木であるのは面白くない、是れは矢張り內地の客車のやうに軟い絨氈を被せる位の奮發は仕ても善さゝうなものてある、猶ほ甚だ些細な事柄ではあるが、是まて述べ來たつたほどの大鐵道てありながら、車內を照らすに總べてランプを用ゐ、電燈を用ひないのは餘りに舊式過ぎるやうな感じがする、差當り、電燈を用ふる都合が着かないならば、セメてランプの數を今少し殖やして貰ひたい、現在各車內に點火すランプの數だけては——少くとも我れ〳〵の乘つた車內ては其の數が不足て室內が頗る薄暗がつたのてある、是等の不整頓も創業匆々てあるからと言はるれば、夫れまて〳〵あるけれども、京釜鐵道の當事者は斯かる些細な事柄も、常に念頭に置いて斷えず之が改善に注意せられたきものてある、是れが結局、京釜鐵道の發達を促がす一因とも爲るてあらふ

一般の形勢から見れば、京釜鐵道は北海道鐵道に酷似して居ると、同會社の重役足立太郎君は言はれた、成程各々其中央部を貫通して居る鐵道と、沿岸を航海する船舶の關係などは、頗る善く似て居る、されど、斯る形勢は暫らく別として、汽車內部の組織、言換ふれば鐵道の品位とても稱すべき點は、粗ぼ我が九州鐵道に似て居る、色々な一長一短を加減乘除して見たら、九州鐵道に食堂の附いて居るのが、即ち京釜鐵道の實躰だと斷定して差支なからふと思ふ、されば之を我が內地に移して比較して見たら、先づ第三流の鐵道と言ふべきてあらふ

我れ〳〵の目擊した限りに於ては、京釜鐵道の客車は一、二、三等を通じて三臺乃至四臺、之に貨車一臺を連結して一列車としたのが通例であつた、乘客は夫れ相應に有る、直通列車の分は流石に殊に多いやうてある、一、二等の乘客は勿論日本人が多いが、中には朝鮮人も往々交つて居る、其の朝鮮人は多少地位もある人てあらうが、是等が同伴のもの、又は相知つた人てもあれば、他を憚らず、車室中に響くカン高い聲てノベッにお喋りを爲し、其上、又殆んどノベッに飲食を仕て傍の客をウルサがらせる、我れ〳〵も京城よりの歸途、ソンなのに出ッ會して隨分迷惑を仕た、三等客は一、二等と反

對に朝鮮人が多くて、常に殆んど一杯這入つて居る、孰れも皆例の白い服を着て居るから遙かに隔てゝ見れば、白鷺の群が籠詰めに爲つて居るやうである、京釜鐵道の出來上つた當時は珍らしいため物好に乘つた朝鮮人も多かつたらうが、今は必らずしもソウでない、大概必要から乘つて居るやうである、必要の爲めに之を利用する朝鮮人が所謂白鷺の群を籠詰めに仕たやうに見ゆるほど多いのは、京釜鐵道の前途の爲めに大に賀すべき次第である

乘客の割合に比すれば、貨物は案外に少ない、客車に連絡した貨車は大抵何時も一臺て其の貨車は常に多少の積載餘力を持つて居るやうである、尤とも是れも我れ我れが目擊した限りの話して、我れ〳〵が目擊した頃は比較的に貨物の最も少い頃であつたから、平生は斯樣な有樣ばかりではあるまい。乘客の割合に貨物の少い原因は貨物は重に船に依るを便とするからであらうが、人の噂さに依れば、京釜鐵道は今の處、マダ輸送力が十分でないから、態と運賃を高くして貨物の來ないやうに仕向けて居ると言ふ話である、これはホンの噂さて眞逆にと思へど、運賃は兎に角割高い、貨物の運賃のみならず、乘客の運賃も亦韓國渡航上の不便を說く時に當つて述べた通り矢張り割高い、內地に比して殆んど五割ほど高い、當事者に言はすれば、相應の理屈もあらうが、是れは韓國開拓の上から見ても、亦會社自身の發達の上から見ても、是非々々引下げて自他共に利益を享くるやうに更めて貰ひたきものである

京釜鐵道の第二期計畫として必要なのは第一、南端の終點を釜山埠頭に延長すること、第二、停車場及び附帶の社宅等を改築することとである、第一も、第二も既に會社當事者の考案に上り、夫れ〳〵着手の準備中であると言ふことである、延長すべき終點は今の釜山の波止場より少しく西北に寄つた埋立地の西北角に置く筈で、既に茲に敞地を買入れ、京釜町と命名してある、此の延長計畫が出來上かると同時に、今の波止場が其の終點驛の前面に移り、更らに有志の計畫中なる棧橋が出來上れば、日韓兩國間の交通は新生面を開き、船車の聯絡、往來の利便、此上なきことと爲るのであるから、各當事者は事情の許す限り一日も速かに之を完成するやうに力めて欲しいものである。停車場の改築も固より必要であらう、南北兩端の大停車場で、言はゞ新橋及神戸に比すべき京城の南大門及び草梁の兩驛すら、建物其他一切の規模が甚だ小さく、內地の片田舍の停車場に毛の生た位のものである、其他は固より推して知るべしだ、是れは言ふまでもなく、速成の結果で已むを得ないことには違ひないが、永く此儘にして置く譯には行かない、早晩、相當の改善を加ふるの外は有るまい。會社當事者の直

話に據れば、終點の延長と、停車場等の改築とで、此の先き、尙ほ二百萬圓ばかりの費用が入る見込だと言ふことである、逆算の上に逆算を重ねて國庫に少なからざる迷惑をかけた京釜鐵道が此上、更に二百萬圓の費用を注込まなければ完成を告げないと言ふのは、隨分、不都合な次第と思ふけれど、今と爲りては詮方ない、佛作つて魂入れずと言ふ結果に爲るから、會社自身に適當な財源を求めて、それだけの費用を注込むの外はあるまい

最後に、京釜鐵道に就て言ひたいことは、其の運用機關が分れ〳〵に爲つて居ることである、見られよ、京釜鐵道の本社は東京にあつて、其の營業部は釜山に在る、更に外交部とでも言ふべき支店は別に京城に置かれてある、コンな風に運用機關が分れ分れに爲つて居つては、少なからざる經費を無益に消費する憂ひがあるのみならず、事務の統一も缺き、運用の機敏をも缺くと言ふ始末に陷いるのは極まり切つて居る、會社の當事者も聊か目が覺めて此の點に注意し、之が廢合に就て目下研究中とか聞いて居るが、今頃に爲つて研究もないもんだ、是等は京釜線全線の開通と同時に解決されて居るべき簡單な問題であつたのだ、是れまで之を打棄つて居つたのが例の朝鮮流で餘りに悠長に過ぎる、我れ〳〵の見る所では其の本社を京城に移し、此處で一切の運用機關を統一するのが最上の策で、グズ〳〵長相談をせず、一日も速かに之を決行するのが經費上並に執務上必要である、京釜鐵道のごとき國家の特典を受け、類例なき國庫の補給を受けて居る會社では、出來るだけ機關を統一して無益の經費を節減し、兼ねて運用の機敏を圖るのが、一つの大なる義務であることを了解して貰はなければならぬと思ふ

京釜線以外の鐵道

京釜鐵道の現狀は、既に述べた通りであるが、此の鐵道の外に尙ほ軍事費を以て速成を期した二箇の軍用鐵道がある

其の一は京城と義州との間を貫通せる、所謂京義鐵道で、其の二は京釜線の三浪津から分岐して馬山浦に到る馬山浦鐵道である

京義鐵道は京城南大門の次驛たる龍山を起點とし、開城、平壤、定州等の要地を經て新義州に達し、鴨綠江を隔てゝ直ちに安東縣に對するやうに出來て居る、其の線路の總延長は二百九十六哩であるから、京釜鐵道の本線に較ぶれば二十二哩ほど長い、二ケ所ばかりの大架橋を除くの外、全線既に其の敷設工事を竣り、現に貨車だけは毎日

運轉して居るが、其架橋工事をも遂げて本式に全線の開通を告るに至るのは、卅八年の秋の末か冬の初め頃だらうとのことである。京義本線の外、支線として敷設してあるのは、平壤の手前の黄州から龍二浦に到るのが重なるもので、其の外に尙ほ開城の次の土城から碧瀾渡に到るのが一ッ、定州から唐浦に到るのが一ッ、更に新義州近くの車聲館から梨花浦に到るのが一ッ、都合四線で、其の延長は四線を通じて三十哩に滿たないとのことである。是等の支線は孰れも鐵道建築材料の陸揚運搬の爲めに拵へたもので、中にも最後に數へ上げた車聲館から梨花浦に到る一線は輕便鐵道であるが、活用次第で今後は一般の交通運輸に便利を與へ、延きて本線の發達を助長するに至るべきは勿論であらう。猶ほ京義本線は前にも言つた通り、京城南大門の次驛たる龍山を起點とし、龍山に於て京釜線と聯絡するやうに爲つて居るから、京城に下車し、若くは京城から乘車せんとする人々は、京城間近の僅かの處で乘換をする必要があり、聊か不便を感ずるであらう。內地の鐵道で例へて言へば、丁度平沼が龍山で、横濱が京城、横濱を手近かに眺めながら之に立寄らずに平沼を通り拔ける東海道線の急行列車が、即ち京義、京釜の聯絡直通列車と言ふ形であるから、京城乘降の人々が京義京釜の聯絡直通列車に對して感ずる不便は、横濱乘降の人々が東海道線の急行列車に對して感ずる不便と粗ぼ相同じと見れば差支なからう。但し龍山は南大門から僅かに一哩餘りの處であり、且同驛の附近には我が兵營を置く豫定とか言ふことであるから、ソッなれば其の間が追ひ〳〵は町續に爲り、京城に對する龍山の地位は、東京に對する品川驛のやうなものに爲るであらう。殊に今でも京城と龍山との間には電車鐵道があつて、毎日幾回となく往來して居るから、傍から見るほどの不便はあるまいかとも想はれる

馬山浦鐵道は最初、輕便鐵道とする積りで夫れ〳〵工事に取り懸つたが、卅七年の十一月頃、俄に之を廣軌の本鐵道に改むることゝ爲り、一切の規模を擴張して工事を急ぎ、卅八年五月に至りて漸く之を竣成したと言ふ事である。但し洛東江の架橋は尙ほ假橋で之を本鐵橋に改築し、更に各ステーションの建物一切を拵へ上げるまでには、從來、此の鐵道の敷設の爲めに注込んだ九十二萬圓の外、尙畧ほ同樣の費用と、少なからぬ時日とを要するであらうと言ふ關係者の直話であつた。線路の總延長は二十五哩、中央の一部に四十分一の勾配を以て上下する一ッの嶮坂があるのみで、其の前後は殆んど平坦の場所を通過して居る、勾配と言へば、京義鐵道も其最急な處は矢張四十分の一であると言ふことだ

京義鐵道も、馬山浦鐵道も、共に大體の工事は既に竣へて、跡は橋梁の改築若くはステーションの設備を完うすると言ふだけに爲つて居るから毎日、兩端から一回づゝ位、貨車を運轉し、之には關係當局者の許可を得たものゝ無賃便乘を許してある、馬山浦鐵道の分は有蓋貨車で、其の中に小學校生徒用位のベンチを据ゑてあるから、窮屈ながらも尙ほ凌ぎ易い、京義鐵道の分に至つては、議員の多數が一時に便乘した場合、若くは特別の要務を帶びた役員などが乘車する場合には掩ひのある貨車を出すと言ふことだが、平生は無蓋貨車で、夫れも多くは周圍に緣も無い車ださうだ、夫れで、塵芥をカブる、煤烟をカブる、時に依つては火の子をカブる、帽子を吹飛ばさるゝ、日から照りつけられる雨が降ればビショ濡れに爲る、搖り落されやうとする、シガミつく、這つくばる、臭い、苦るしい、夫れは〈ヒドいと言ふ話しだ、夫れもマダ宜い、更らに多くの場合には橋梁の建築材料を其の無蓋貨車の上に二間ほども高く積み上げて、夫れを荒繩で二た處ばかりザツと縛ばつてある、其の頂邊に乘せられるのであるから、丸で輕業旅行をするやうなもので、トテも危險で溜らぬと言ふので或る友人などは一旦便乘しながら飛び下りて逃げ歸り、仁川から船で北行するやうに仕たと言ふ話であつた。是れは無賃で便乘するのであるから、已むを得ないことでもあらうが、既に是れまでに出來上つて、日々便乘を希望するものも少くないものだから、成るべくならば三等客車、夫れが出來ずば今少し都合の宜い、セメて馬山浦鐵道ほどの貨車でも設け、相當の賃錢を取つて之を乘せたならば、双互の便利であらうと思ふ、聞けば關係當局者の間でも其の內議があつて調査中とのことだが、斯る簡單な事柄を一ト月も二た月も調査するにも當るまい、例の朝鮮流の緩慢は止めて、一日も速かに其の內議を實行して貰ひたいものである

以上は既に粗ぼ出來上つた鐵道の話であるが、此外に尙ほ京元鐵道、乃ち京城と元山との間を結び付ける一線がある、是れも軍事費で敷設しやうとして、其の兩端より多少の土工を起したが、此分は差當り急要を見ないと言ふので、今は見合せに爲つて居る、されど是れは北韓方面に對する須要の通路であるから、早晩之を敷設するの外はあるまい、之を敷設しなければ韓國の脊背は半身不隨であると同じやうなものである。而して此の元山に向ふ鐵道に就ては、京城を起點とするが宜いイヤ平壤を起點とするが宜いと言ふ二說あるやうであり、其の距離の遠近、其の經費の多寡、其の工事の難易、及び其の沿傍の賑否等は兩方とも畧ぼ相同じいと言ふことであるが、我れ我れは大躰の上から觀察を下して、京城を起點とするのが最も適當であると信ずる

韓國鐵道の統一

京釜鐵道あり、京義鐵道あり、馬山浦鐵道あり、行く〳〵京元鐵道も出來、更に幾多の支線も出來るであらうが、之に就て緊要な、今日既に差當つて解決を下さなければならぬ問題は、如何にして是等の鐵道を統一すべき乎と言ふことである

何人も熟知して居る通り、京釜鐵道は私立會社の所管である、國家の殊恩特典を受け、其總裁は政府の任命に係るのであるから、殆んど半官半民の姿ではあるけれども、詮するに私立鐵道の列に屬するものなるとは言ふ迄もない、之に反し、京義鐵道と馬山浦鐵道とは、軍事費で拵へ上げた純粹の官有鐵道であつて、殊に其の中の馬山浦鐵道は京義線とは遠く飛び離れ、却つて釜山に近い、釜山から一時間餘りにて到達する京釜線の三浪津と言ふ驛より分岐して馬山浦に達する一支線に爲つて居る、斯くの如く全く其の所管を異にする官有と私立とが額の鉢合せを爲して居り、又は官有の短線が却つて私立の支線と爲つて居るのであるから、ドウしても適當の方法を設けて之を統一するやうに仕なければ、之を管理經營する當事者も、之を利用する乘客や荷主も、共に互に少なからぬ不便を感ずるに相違ない

或は內地の幹線が九州、山陽、東海、日本の官私數線に分れて居つて、互に一切の設備の整頓を競ひ、之が爲めに漸次其の改良進歩を見ると言ふ傾きがあるから、韓國の鐵道も京釜、京義等の二三線に分ち、其の所管を異にして互に改進を競はしむるのが、結局之を利用するものゝ爲めに好都合であらうと言ふものもある、成程、是れも一面の道理ではあるけれども、一般の事情關係等悉く內地と違つて居る韓國に於て、之を分立せしめて置くことは餘り得策であるまい、殊に歐亞聯絡の幹線、世界の郵便線路の一端として相應の働らきを爲さしむる爲めには、是非、之を統一するの必要があると思ふ、內部に於ける設備の整頓、及び取扱其他の改良進歩などは、之を船舶との競爭に委ねるやうにしても差支あるまい、イヤ是非左樣に仕たいものである

されば、如何にして之を統一すべきか、言換ふれば、現在の私立鐵道たる京釜線を政府の手に買上げ、京義線、馬山浦線と共に之を官有として、官府の管理經營に一任することを可なりとすべきか、若くば之が反對に京義線、馬山浦線を私立會社の手に移し、京釜線と共に之を一括めにして民間の營業に委するやうにするを可なりとすべきか、是れは隨分大問題であつて、種々の方面より其の利害得失を研究し判斷しなければならぬから、ドテも此の際、茲に之れを精しく述べる暇はない、其の詳論は他日機を見て、

之れを發表することゝしやうが、單に經費の一點から見ても、官の手で統一して之を營業するのは不經濟である、論より證據、京釜線では二千人の係員を使へば間に合ふ所を、京義線では四千人以上の人を使つて始めて間に合せて居ると言ふ話である、線路の總延長は僅かに二十哩餘りしか多くないのに、使ふ人は倍以上も要すると言ふ贅冗な現象が出て來るのは、全く官業の餘弊である、是れは內地に於ても能く見る弊で、其の結果は官業の分は民業よりも乘客貨物の運賃を高くして費費冗用の埋合せをするより外は無いと言ふことに爲る、現に東海道線及び其他の官線と、山陽線及び其他の私線とを比較して見れば、其實證は明々白々である、斯く言へば、成程、鐵道經濟の點に就ては民業を得策とするかも知れぬが、夫れよりも更に大切なる對韓政略の上からは官の手で統一するを必要とする、殊に近き將來に於いて官營とするより外はない、義州から營口に到る線路若しくは義州から奉天、新民屯に達する線路などゝ聯路せしめて更に之を統一する上より見れば、一府之を官有として置く必要があると辯解するものがあるに相違ないが、我れ〳〵は左樣には思はない、却つて既に出來上つた鐵道は私人の手に委し、民間の事業と仕て置く方が、政略上種々の累ひが少くつて宜いかと思ふ、殊に新たに起工すべき義營鐵道若くは義奉鐵道にして、差當り官費で經營するより外なしとせば、一方に既に出來上つた鐵道の經費を、一錢でも一厘でも少く賺るやうにして、夫だけ其の新起工の經費に廻すやうにするのが、國家經濟の上から見ても必要であらう、而して既成鐵道の經費を比較的に少なくするの途は、言ふまでもなく其の營業を民間私人の手に委するに在るのだから、我れ〳〵は、韓國鐵道の統一問題としては、先づ官有主義を捨てゝ民有主義を取り、京義線、馬山浦線を民間の手に移し、京釜線と共に民間の會社をして其の營業に從事せしむることに仕たいと思ふ、之を民間の手に移すとして、差當り之を引受くるほどの資力ある會社がなければ、暫らく其の營業の一切を京釜鐵道會社に委托するやうにしたらば宜しからう、其の內、光榮ある平和の結局を告げて一般の經濟界が大に景氣立てば、之を引受ける位のシンヂケートは、太した骨を折らずに出來るであらうと思ふ、尤も一切の營業を京釜鐵道會社に委托するにしても、若くは其の本躰を民間の手に拂下げて京釜線と一括めにせしむるにしても、ドウセ當分、損の行く鐵道であるから、現在の京釜線に對する位の補助を爲すのは、勿論餘儀なきことゝ覺悟せねばなるまい、夫れだけの補助を爲しても、政府自から之を經營して費冗の費用を投ずる割合に較べたならば、差引國庫に利益を與ふるも損失を及ぼすがごときことはあるまい

聞けば、政黨の有力者並に民間の實業家の中には、官有統一の論が隨分盛んであるとのことだが、是れは官業主義、專權主義、政府萬能主義の弊竇を十分に知得せないからちのことであらう、さなきだに政府の連中は官有統一を欲して居るほどであるから、民間の人々は十二分に其の利害得失を研究し、輕率に此の問題を決して、國家の不利と衆民の悔恨とを永遠に貽すがごときことのないやうに希望する

韓國鐵道の經濟

韓國鐵道統一問題の外、更に緊要なる一問題が殘つて居る、夫れは如何にして其の鐵道經濟を發達せしむべき乎と言ふことである

詳しく言へば、京義線、馬山浦線は漸く出來上つた許りで未だ本式に營業を開始せないから、其の收入の程度は分らないが、孰れ之を民間の手に移して營業せしむれば、少くとも現在の京釜線に對する位の國庫補助は與へなければ爲るまい、京釜線に對する補助は年六分を限りとし、創立後十五ヶ年間之を支給することゝ爲つて居る、內地の鐵道すら尙ほ國庫の補助を受くるものある今日、韓國の新規速成の鐵道に對しては此位の補助は差當り之を支給するの外はないかも知れぬが、さればとて戰後は一層、韓國並に滿洲等に對して國費を投ずべき事業が多い場合であるから成るべく鐵道自身の經濟を發達せしめ、若くは他に然るべき補助の財源を求めて、セメて幾分にても國庫の補助を輕減することを努めるのは、孰れの點から見るも頗る緊要なことであらうが、然らば如何にすれば其の目的を達することが出來るだらうかと言ふのが、小さからざる一問題である

或は農事會社と言ふやうなものを組織し、其の會社の手に依つて鐵道線路の沿傍に成るべく多數の日本人を入込ませ、是等をして種々の農業に從事せしむることなどは、其の一方法であらう、斯くて田畑の耕作を改良するは勿論、是れまで殆んど廢れて居る蠶業を起す、棉花を作る、樹木を植ゑる、菜菓を育つる、牛馬羊豚及び家禽等の牧畜を盛んにすると言ふやうなことに爲れば、一般の交通運輸は自然に繁昌に赴き、隨つて鐵道經濟も亦た之れに連れて發達することは、論を待たない話である、京釜鐵道會社の關係者の直話に據れば、竹內綱とか、井上角五郎とか言ふ一味の連中で、前年一たび京釜鐵道に附帶した農事會社を組織しやうと仕たが、ドンな都合があつたのか沙汰止みと爲つたと言ふことである、竹內綱や、井上角五郎のやうな我利我利亡者の一連のすることは覺束ない限りで、沙汰止みと爲つたのが結局幸ひかも知れぬが、其

の人を代へ、眞面目な、堅實な、さうして機轉の利いた人々の發起で、其の事を企てたならば、必らず相應の成功を遂げて、鐵道經濟の發達にまで裨益を與ふるに相違ないと信ずる。而して若し斯る農事會社が創立せらるれば、鐵道會社は其の關係者の往來、及び農具、材料、其他日常必要品の運輸等に對して、特別の待遇、特別の利便を與ふべきは、勿論である

鐵道の通過して居ない各道の要地、並に沿海の要港と聯絡を附けるのも、亦其の一方法であらう、韓國內地は一たび其の實地を踏んだものゝ熟知して居る通り、道路らしき道路は殆んど皆無である、田畑の畦だか道路だか分らないほどのもので、雨でも降れば足を入れられないやうなものが多いのである、是れでは致し方がないから、セメては差當り、成るべく鐵道線路に近い各道の要地との間だけでも、相應な道路を開鑿して行客並車馬の往來に便にしたらば、其邊より出る物資は出易く爲り、其邊に這入る物資は這入り易く爲りて、結局、矢張り鐵道經濟の上に利益する樣に爲るに相違ない、猶之と相待ちて鐵道線路より餘り遠くない沿海の要港には、支線を敷くか、若くは輕便鐵道を敷くるやうに仕たらば、海陸の聯絡が自由に爲つて其の結果、鐵道、汽船、双方とも便益を享くるやうに爲るであらう。普通の道路開鑿を、鐵道會社の力で遣らせると言ふことは六ヶしいが、是れはドッセ對韓經營、韓國拓殖の一ッとして、我が政府自ら之れを遂ぐるの途を講ずるより外はないのであるから、成るべく一日も早く之に着手するやうに仕た方が宜しい。鐵道の支線又は輕便鐵道は、政府で相當の助力さへ仕てやれば、民間でイクラも之れを起業するものがある、現に志岐某、河西某等が發起と爲つて京釜線の太田より群山に達する鐵道を敷設しやうと仕たことがあつたが、日本公使館で邪魔を入れて之を阻止したと言ふことである、ドウ言ふ事情のあつてのことかは知らざれど、斯る吝な仕打は餘りせぬ方が善からう

韓國の財政を整理し、其の一部を割きて鐵道に補助せしむることも、亦其の一方法であらう、是れは鐵道經濟を發達せしむると言ふ方ではないけれども、韓國の財政中より幾分でも割いて補助さすれば、夫れだけ我が國庫より出すべき補助を輕減することが出來るから、結局、鐵道經濟を發達せしめたと同一の効果を生ずるのである。韓國の財政を割いて鐵道に補助さするなどと言へば、世間では餘りに突飛な——突飛なと言ふよりも、寧ろ迂濶な話として一嘲笑に附するかも知れぬが、我れ〳〵の見る所では、整理の仕やう如何に依ては、韓國の財政中より優に其餘裕を作り出し得ると思ふ、之が詳細は別論として、既に其餘裕を作り出すことが出來るとすれば、其の一部

を割きて韓國内を貫通する鐵道の補助に供せしむることは、之を利用するものが重に韓人、並に韓人需給の貨物であると言ふ點から見て、決して不都合でないのみならず、類似の例は慣か外國にもあつたやうに覺えて居る

其他、細かな點まで擧ぐれば、色々の事もあらうが、要するに前に上げた三つの事柄は、比較的に最も鐵道經濟の發達を促がす方法であらうと思ふ。勿論、大體の上から見れば、韓國一般の民度が今少し進歩し、韓國一般の產業が今少し發達しなければ、何事も駄目な話して、其の民度、產業の進歩發達は先づ〳〵自然に任ずるの外はなく、之が自然に進歩發達するやうに爲れば、鐵道經濟も亦獨り手に自然に發達するには違ひないが、人爲的に、特別に之が發達を速かならしむる途があれば、一日も早く若々之を實行するが宜しい、自然、自然と言つて緩々自然の發達ばかり待つて居る必要もあるまい、開けば、京、釜鐵道は旅客、貨物のマダ多くない今日、既に收支相償ふと言ふ話である、されば、前に數へ上げた三ッの事柄などを若々實行するやうに仕たならば、年六分の補助は實際は四分か、三分かで濟むだらうし、場合に依ては、京釜線の分は近年の内、全く我が國庫の補助を要せないやうに爲らんとも限れないさうなれば、夫れだけの殘剩は、他の對韓經營の事業に廻すことが出來るから、一擧兩得ドコロか、一擧三得にも爲るのである

韓國皇帝

世にも憫れな氣の毒な地位に立つて居られるのは、今の韓國皇帝であらう

皇帝は曾て皇太子で居られた頃から、イヤ其の皇太子に爲るか、爲らぬかと言ふ時代から、韓廷内は幾多の朋黨が分立し、互に宮中府中の權力を壟斷せんが爲めに、隨分、激しい競爭を爲すことを實驗して居られる、其の競爭は言ふまでもなく斯る國に有勝な讒誣、排擠を以て始まり、疑獄、殺戮を以て終はると言ふ隨分、陰險な、殺伐な遣方で、場合に依つては、皇太子であらうが、皇帝であらうが、其の競爭の孤柱と爲し、犧牲と爲すことをも憚らないほどの大悲劇を演ずる、皇帝は多年の實驗から能く是等の事情をも熟知して居られる、夫れゆゑに皇帝平生の用意は、ドウか斯る黨爭の外に超然として安穩に其の地位を保ち、セメて己れの一族だけは悲慘の運命より免かれ得るやうに仕たいと言ふの一事に在る

皇太子より皇帝の地位に進まれたる後は、從來、朝鮮の上に加はつて居つた支那の勢力、日本の勢力以外に、新たに英吉利の勢力が加はり、露西亞の勢力が加はり、亞米利

加合衆國の勢力が加はり、更に佛蘭西、獨逸、伊太利等の勢力も多少ながら加はつて、朝鮮は恰かも極東の一隅に於ける列國爭衡の中心たるがごとき觀を爲した、朝鮮の上に加はる各國の勢力は時に依つて一消一長があつた中にも支那と日本、日本と露西亞との勢力は、殊に其の消長が甚だしく、而して其の甚だしい消長がある毎に、必らず幾多の慘劇を伴ひ、府中のみならず、宮中までも常に其の渦瀾の中に引き込まれるとを免がれなかつたものであるから、皇帝は內部に於ける朋黨紛爭の外、更に列國の勢力爭ひの爲めにも斷えず不安の念に打れ、如何にもして巧に其の間に處するの途を講じたいと言ふことを專念とするやうに爲られたのである

皇帝は斯る內外の事情に揉まれ〳〵て、日夕、其の處身、處世の術を研究された結果、さらぬだに朝鮮人の特性とも言ふべき八方美人主義を發揮せられた、お上手ものに爲られた、お世辭上手に爲られた、陰險な操縱術にも慣れられた、成るべく權力を一處に歸せしめずして、內は朋黨と朋黨とを、外は外邦と外邦とを相爭はしむるやうに仕向け、己れは其の紛爭の外に立ちて高見の見物を爲し、若くは孰れにも愛嬌を賣りて獨り自から安全の地位を求めんとするやうに爲られた、是れは一たび韓京に遊び、又は親しく皇帝に謁したもの、能く熟知する所で、此點に於て、皇帝は流石に韓國第一等の策士であると言ふ評判だ、現に我れ〳〵が京城に遊んだころも、韓廷內部の鬪爭が頗る激しく、李根澤一派と李容翊一派とが鎬を削つて爭つて居たが、其勢力が略ぼ相如きて偏重偏輕なく、例のお上手、愛嬌、操縱が最も善く利く場合であつたから、正に是れ皇帝最得意の時であると言ふ話であつた、近頃は外部より加はる勢力は、一に日本の分ばかりであるが、是れは前にも言つた通り、權力を一處に歸せしむることを不得策とする韓國皇帝の喜ぶ所でない、皇帝はドウしても其權力占握に就て外邦と外邦とを相爭はしめ、巧に其の間に處して自家の安全を圖らんとするを秘訣として居られるのであるから、日本の連戰連勝を承知して居られるに拘はらず、其盛威隆々たる日本の目を掠めて、或は淸國との舊惡緣を繫がんとし、或は亞米利加合衆國に幣助を求めんとし、甚しきは連戰連敗の悲運に陷つて居る露西亞を賴みて韓國の上に加はる日本の勢力を牽制せんと夢みて其の手段方法に腐心されつゝあるやうである、先頃、バルチック艦隊が佛領カムラン灣に碇泊して居つた頃、態々密使を派遣して少なからぬ慰恤金を寄贈されたとか、又は今回の日露講和談判に關してお得意のお上手を使ふため、遙々密使を出す事とせられたとか、と言ふ噂さの傳はるのはマンザラ跡形の無い話でもない樣に想はれる。勿論、是等は親露派とか排日派とかの献策も與つ

て力あるであらう、中には皇帝自身は御承知なく、全く彼等一派の所爲に出づるものもあらうが、根が皇帝自らお上手を使ひ、愛嬌を賣り、操縱と言へば大袈裟だが、我から外邦の手を拔きて互に相爭はしめ、以て巧みに其間に處して地位の安全を圖るのを無上の慣手段として居られるほどであるから、現皇帝の下に、斯る奇怪の出來事の續出するのは、毫も異とするに足らない、異とするに足らないのみか、是れまでの韓國皇帝の立場として、內外に處して其の身、其の地位、其の一族を完うする所以の途は、斯くするより外に妙策もなかつたのであらう、思へば寧ろ憫れな氣の毒な次第である

皇帝の地位、既に斯の如く、お上手を使ひ愛嬌を賣る上に、猶ほ內外に對して種々の操縱をも施されなければならぬから、之に關聯して費用を要することも決して少なくない。光武九年、乃ち此三十八年度の歲計として發表せられたる豫算に據るに、公然其の豫算面上に計上せられたる皇室費が百四十五萬四千元、宮內府所管經費が三十二萬三千五百五十六元、外に宮內府の臨時歲出があつて夫れが二十一萬元、之を合計すれば百九十八萬七千餘元、乃ち殆んど二百萬元の多きに達して居る、小邦の皇室費、宮內費として、殊には一般の歲入が一千五百萬元にも足らない邦國に在りて、斯まで多額の費用を要すると言ふのは、慥に一驚を喫するの値ひがあらう、而して是等は孰れも公然、豫算面上に計上せられたものであるが、斯る公然の計上以外に於て、言換ふれば度支部(乃ち大藏省)の手を經ないで直接、宮內府より收稅吏を派出して徵收する租稅も、決して少なくないやうである、目賀田顧問の概算だと言ふのを聞くに、是等の總べてと、一般歲計より皇室費として差出す常額とか合算すれば、皇室一ヶ年の總收入額は多分四百萬圓にも達するであらうとのことである、尤も此の內には宮內府の收稅費も含まれて居る譯だから、差引、皇室の收入實額は三百萬圓がソコラであらうふが、夫れにしても彼の小邦の皇室で、殆んど我が皇室の經常定額と同額の經費を要すると言ふことを聞いては、誰れも意外の感に打たれざるを得まい。是れと言ふのも畢竟するに、金錢を愛する朝鮮人的根性に出たばかりでなく、又如何なる場合に出會ふても己れの一族だけは安穩に暮らし得るやうに仕て置かふと言ふ賢き計ごとに出たばかりでもなく、矢張り前にも言つた通り、內部に於ける朋黨の爭そひ、外部に於ける列國の爭ひの間に處して、巧みに其の地位の安全を圖らんが爲めに、お上手を使ひ、愛嬌を賣り、若くは種々の操縱を施すに就ては、實際、少なからぬ費用を要するからのことである。先頃、佛領カムラン灣に淀泊せるバルチック艦隊に對して多大の慰恤金を贈り、近くは日露の講和談判に對してお得意のお上手を使ふため密使を派遣し

たりなどゝ言ふ噂さにして若し眞實の事なりとせば、是等は勿論韓廷の公事てないから、之に要する一切の費用は皇帝自身の懐より絞り出したものと見るの外はない且、皇帝の斯る呼吸を知り扱いた朝鮮の成らずものや、我國より行つた羽織ゴロッキなどは、互に相牒し合せ、何かにつけて皇帝の懐ろを絞らう〳〵と企てゝ甘く持ちかけるものてあるから、皇帝自身は假令、之を面白く思はないても、例のお上手、愛嬌、操縦の必要上、其の懐を割きて之を與ふるの外はないと言ふことに爲る、開けば日本内地に潜んて居る亡命客の首を刎ねて來るからと言ふことを種にして、皇帝の懐ろを絞つたものは、從來、既に其の數に乏しからざるのみならず、今も尙ほ其の跡を絶たないとのことてある、亡命客を忌み、嫌ひ、危ぶむこと太甚しい皇帝は、何時も斯る徒輩の口車に乘せられ、望みなき望みを望みとして少なからぬ運動費を自己の内帑より給與すると言ふことだが、是等は操縦上手の韓國皇帝が人を操縦する積りて、却つて人に操縦されるのてある。斯る類似の事は澤山あるさうだが、兎に角、斯樣な卑劣な事て皇帝をイヂメて其の懐ろを絞り出さしむるなど言ふことは、如何にも不埒至極てあるが、之に要せられて毎々其の懐ろを絞り出さねばならぬ皇帝も、結局身から出た錆て如何とも仕難いとは言ふものゝ、思へば愈よ憫れな、氣の毒な次第てある。

斯る次第て實際、費用は掛る、其上に金を愛するのは朝鮮人普通の先天的根性てあり、且萬一の場合に備ふと言ふ考も全く無い譯てはないから、皇帝は常に金錢の收入あることを喜ばれる、金にさへなれば大抵な事柄は他の利害關係を顧みずして之を認許せらるゝと言ふ傾きがある、例之へば皇帝自身の手に十萬圓這入ると言ふことに爲れば――乃ち十萬圓の金錢を贈りて或る事業の計畫を求むるものがあれば、其事業の計畫の爲めに、度支部からは假令五十萬圓なり、若くは百萬圓なりを支出しなければ爲らぬと言ふことに爲つても、皇帝は少しもお搢ひない、遠慮なく其の要求を認許し、若くは其の計畫の實行を當路の有司に強ひらるゝ、何だか嘘のやうな話てあるけれども、斯る事は往々有る例て、之には流石、韓廷の當路有司も頗る迷惑することがあると言ふことだ。宮内府自家に收税吏を置いて、歳計面上に定まつて居る以外の租税を徴收すると言ふとも、隨分、可笑しい話てはあるが、更に皇帝自身の收入の爲めに、度支部の收支如何を顧みないと言ふに至つては、全く韓國並に韓國程度の國てなければドッしても見られぬ圖て、皇室と政府、皇室と人民との間に、殆んど何等の溫かい關係も無いと言ふことがト知せらるゝ一證てあらうと思ふ

皇室と政府、皇室と人民との間に、殆んど何等の溫かい關係もないから、皇帝は何事

に附けても自から衛るの外はない、皇城、宮內府を城廓として、大小の事、一切其の中で辨ずるの外はない、夫れゆゑに皇帝直轄の下に使役せらるゝ官吏の數などは隨分多い、宮內官吏の總數は政府に所屬する官吏の總數よりも却つて多いと言ふ話である、宮城內を警護する巡檢(乃ち警官)の數も京城市街の全體を警護する巡檢の數に下らぬと言ふ丸山警務顧問の直話であつた、斯る有樣である以上は、假令、他に何等の事由がなくとも、比較的に多くの皇室費、宮內府經費を要するのは、是非もない事である

皇帝は斯く多數の直轄官吏に警護せられて居るが、夫れでは十分に是等の人々を信任して其の身も心をも安んじて居られるかと言ふと、決してさうでない、朋黨の鬪爭は矢張り其の中にも絶えず、或は却つて其の中が黨爭の本據と爲つて居つて、何時、如何なる危變を惹起すやも測られない恐れがあるから、皇帝は部下の何人をも信ずることが出來ない、皇帝が心から信任したものは殆んど一人もないと言ふて宜しいほどである、それであるから大抵な事は――就中、一身、一族の安危に關しさうな事柄などは、皇帝自身で處辨せらるゝと言ふ有樣である、是れに就て殆んど滑稽に近い一二の奇談があるから、之を擧げて見やう、是れは現に韓國の或る要務に當つて居らるゝ――最も信を置くに足るべき人の直話であるから、決して間違はなからう

或時の事である、京釜鐵道の直通列車が何かの事故の爲めに妨げられて夜の十二時過ぎに京城に着したことがあつた、京釜鐵道の直通列車は通例、朝の八時に釜山を出て、其の晩の十時前に京城の西大門に到着する豫定に爲つて居る、然るに夫れが豫定の時刻に着かずに、二時間以上も遲れて十二時過ぎに到着したものであるから、皇帝の驚きは一方ならぬ、斯る深夜に汽車を着けるやうでは、是れは日本より新たに兵を京城に入れる、とか、又は他に何かの陰謀でもあつてのことであらうと言ふので、遽かに皇帝自から電話口に至り、ステーションのある方面の自國の警察署長を呼び起して至急に其の取調べを命ぜられたが、取調べの結果、故障延着の顚末が分つてヤット心を安んじて臥戸に入られたと言ふことである

韓國は一體に水の乏しい處であるが、京城は殊に甚だしい、夏の炎天續きに爲れば一層之が爲めに不便を感ずるので、近來は諸方に井戸掘りを始めて居る、處が京城の地盤は一體に花崗石から成立ちて、少し掘れば堅い岩であるものだから、井戸を掘るには孰れもダイナマイトを用ひて其の岩石を爆裂させる必要がある、我れ〳〵の京城に滯在して居つた間も、井戸掘りが盛んで、毎日幾回となく其の爆發の音を聞かぬことはなかつた、それで今では皇帝も最早其音を聞慣れられたであらうが、最初此の

爆聲を耳にせられた時は、異機の感をせられたものと見え、矢張り其の音の仕た方面の警察署長に、皇帝自身電話をかけ、其の報告を聽くまでは電話口を去らずに、頻々と報告の催促をせられたと言ふことである

又、之に似寄つた話であるが、或時、皇帝は京城の南の方に當つて曾て聞慣れぬ異樣の音を聞かれたと見え、南の區の警察署長―京城は東西南北の四區に分つて警察署を置てあるが、其の南の區の警察署長に向ひ、矢張り皇帝自身に電話をかけて其の音の何であつたかを取調べて報告するやうに命ぜられた、南の區の警察署長先生は毫も其の音に氣付かなかつたのみか、イクラ取調べても音の仕た原因が分らぬものであるから、有の儘に分りませぬと復奏した處が、皇帝は以ての外の御立腹、アレだけの音の仕たのが分らないと言ふのは如何にも怠慢至極、捨て置き難いとのお仰せで、內務部の手も經ず、警務廳の手も經ず、皇帝より直接に之を譴責し、其の罪に對して罰俸を命ぜられたと言ふことである

其他、斯る類似の奇談は數限りなく有るやうであるが、兎に角、小邦ながら一國の君主ともあらうものが、自身に警察署長に電話をかけて色々の出來事の取調べを命じ直接に其の報告を聽かなければ安心することが出來ぬと言ふに至りては、如何に其の左右を信ぜられないかをトするに足るであらうと思ふ、殊に皇帝一身の怒に任せ內務部にも、警務廳にも交渉なく、自から直接に身分卑しき警察署長を譴責し、之に罰俸を加へられたと言ふことは、又如何に皇室と政府との關係の冷やかなるかを――冷やかと言ふよりも寧ろ無關係、無秩序、無紀綱であるかを徵知すべき實證であらうと思ふ

詮じ詰めて言へば、皇帝は殆んど其の臣下の何人をも信ぜられない、身、自から衛るの途を講ぜらるゝの外はない、內は朋黨の鬪爭、外は列國の爭衡に對して孰れにもお上手を使ひ、愛嬌を賣り、若くは種々の操縱を施して、巧みに其の地位の安全を圖るを畢生の事業とするの外なき境遇に陷つて居られる、之が爲めに政務の得失を顧みられる暇もない、衆庶の利害を案ぜられる、餘裕もない、君として君たらざる觀あるも是非もないことである、看來れば誰れとて其の境遇の憫むべく、氣の毒至極なるを感ぜないものはないであらう

韓國官吏

內閣あり、各省廳あり、大臣あり、次官あり、局長、課長あり、地方官あり、形式、外觀の上に

於ては、孰れの國にも通例なる官衙吏員を備へて居るが、サテ其の內容實相に立ち入つて見れば、實に驚くの外はない

先づ其の官衙に就て見るに、細かな下級のものは知らぬが、內務、外務等を始め主要の國務を掌るべき各省並に警務廳は、孰れも舊王宮たりし景福宮正門前の大通りの左右兩側に、差向ひに爲つて並列して居る、孰れの建物も大抵同型で別段著しい廣狹はない、韓國式の門を通りて眞正面に十間乃至十數間も進めば、其の突當りに我がお神樂堂にも似た稍や廣い建物があつて、中央に古汚ないテーブルと數脚の椅子が備へてある、此處が面會人の待合所兼應接室であるさうだが、お神樂堂見たやうな建物のことであるから、諸方から見え透いて居る、門外の大通りからも見通すことが出來る、其の應接室で對話する側らには他の面會待合人も居る、スグ横に受付の韓人も控へて居る、珍らしさうな客でも來て話しゝて居れば、受附は勿論、門內にウロ〳〵して居る怪しげの韓人等も側にヤッて來て眺めて居る、隨分シマりのない話で、其處で秘密の相談などが出來やう道理が無い、尤も其の待合所の兩側並に其奥の方には窮屈な狹苦しい幾ッかの部屋があつて、其處で係りの役員が夫れ〳〵事務を執つて居る其の部屋々々は締切ることも出來るやうに爲つて居るから、其中に入つて應接すれば素より密談なども出來ぬことはない、門からお神樂堂に突當るまでも左右兩側、場所に依りては其側にも、少さな幾ッかの建物があつて、取次見たやうな、下級の役員見たやうなものがゴロ〳〵して居る、是れは中央各省の實況であるが、地方の各官衙も大小の差こそあれ、大抵似寄つたもの丶やうに見受けた

役所の拵へ方は略ぼコンなものであるが、サテ其處に出勤する官吏の有樣はドウであるかと言ふに、是れは何から何まで驚くの外はない、先づ其の出勤時刻を見るに大抵午後である、小役員などは午前十時か、十一時頃から出廳して居るものもあるが、大頭連に至つては午後から出るのが通例のやうだ、是れは孰れも朝寢をする結果である――朝寢と言へば我れ〳〵も京城に居る間、一時之に感染した奇談がある、と言ふのは、我れ〳〵は京城に着いた當時、能く此の朝寢の習慣があることを知らなかつたものであるから、成るべく多くの人に會ひたいと思つて、勉めて早起をする、人を尋ねる、處が孰れもマダ寢て居る、朝鮮人ばかりでない、日本人も亦之に化せられて朝寢して居るものが多い、夫れで何處へ行つても會ふことが出來ない、如何に早起しても何の効もない、されば と言つて旅行先きの事だから、十分に其の間の消閑に充つべき書籍其他の道具を携へて居ない、餘儀なく矢張朝寢でもするより外はないので、我れ

くも京城に着いた三日目か四日目頃から、自然〳〵に朝寢坊に爲つた、夫れからと言ふものは朝毎に同行の原田君と顔見合せ、オイ〳〵我れ〳〵もドウやら朝鮮化して來たぞ、大抵にして引揚げなければ、愈よ本統の朝鮮人と爲つて仕舞ふかも知れないぞ、と言つて笑つたほどである――惡貨は良貨を放逐すと言ふグレシアムの法則は經濟上ばかりでなく、コンな處にも適用すべきもので、惡風には至つて感染し易いものであるから、既に韓國に行つて居るもの、これから韓國に行くものは、共に是等の點に深く注意しなければ朝寢は勿論、朝鮮人の通弊たる有ゆる惡風に感化せらるゝに相違ない、イヤ既に韓國に行つて居るものゝ中には、大分其の惡風に浸みて朝鮮人化した連中も少くないやうだ

斯く朝寢する代りに、夜は固より何時までも起きて居る、夜更かしをするから朝寢もする樣に爲るのである、夜更し、朝寢は官吏ばかりでなく、韓國人民を通じて皆然りと言ふ有樣だが、官吏は殊に甚だしい、甚だしい中にも更に甚だしいのは宮廷、宮內府の官吏であるさうだ、宮廷內は晝間は殆んど閑てヒッソリとして居るが、夕方から夜にかけては賑やかなさうだ、微夜のことなども少くないやうだ、丸で蝙蝠人種だ、梟の徒屬だ、白晝に動かずして深夜に働き、公明なる陽光に浴せずして陰暗なる空氣を吸ふ、ダラシのない、活氣の乏しい、骨拔鰌見たやうな人間ばかり出來るのは是非もない、且、夜は淫蕩の風の母だ、深夜の宮廷は陰謀の湧き出る源泉だ、韓國上下に淫蕩の風盛んに到る處に忌むべき陰謀の行はるゝも、亦避くべからざる必然の現象であると言ふの外はない

夫れは兎に角、遲くながらも出廳した官吏は、誠實に其の事務を執つて居るかと言ふに決してさうでない、事務などは殆んど執らない、例の長煙管でスパ〳〵煙草を燻べて遊んで居る、或は晝寢を仕て居る、甚だしきは餘計な飲み食ひを仕て居る、小さな一例で此處には聊か當箙らないかも知れぬが、我れ〳〵が宮內府の許しを得て、前々の王宮たりし昌德宮を見物に行つた時、其守衛たる巡檢は肌着一枚に爲つて部下の門番などゝ圓座を搏らへ、何か頻りに飲食を仕て居つたが、我れ〳〵がツット門內に這入りて案內を賴んだものだから、巡檢先生大狼狽の姿で、俄かに制服を善け、サア是れへと案內は仕たものゝ、肝腎な帶劍は忘れたと見え、之を佩ずに先に立つて行つたと言ふ奇談もあつた

されど、是等はマダ宜い內である、煙草を燻べて居る、晝寢を仕て居ると言ふまでならば、尙ほ忍ぶべきだが、彼等の多くは決して此に止まらない、却つて色々な陰謀を企

てゝ事務の進行を妨害する、彼等は國政を掠取らす爲めに役所に出るのではなくして國政を掻交ぜる爲めに役所に出て居ると言ふ傾きがある、是れと言ふのも、彼等は其の一身若くは同類の利益を圖ると言ふ以外には、何等の公的觀念も持たないのに、若し茲に一切の事務が秩序立ちて國政がサッサと進行するやうでは、彼等の私心を十分に逞くすることが出來ない、夫れゆゑに彼等は種々の手段を講じて事務の進行を妨害する、國政を掻交ぜる、而して其の間に奸智を運らしてあらん限りの私利私益を圖ると言ふことに爲るのである、又前にも言つた通り、韓廷の內外には幾多の朋黨があつて相鬩合つて居るから互に其の敵黨を排擠し、敵黨が利益を得やうとするのを妨げる爲には、自然、誠實に事務を執らないのみか、却つて國政を掻交せると言ふ必要も起つて來るのである、斯る次第であるから、心ある日本人、中にも韓廷の要務に參與して居る顧問連などは、寧ろ彼等が役所に出て來ないことを望み、彼等さへ出て來なければ、事務はサッサと捗取る、只、困つた事には彼等が夫れ〳〵官印を持つて居るから、一日も早く之を取上げて不斷、役所に備へ付けて置くやうに仕たいものだとコボして居るのを、幾度となく聽いた

コンな風の官吏であるから、彼等は素より人民の利害などを少しも眼中に置く道理はない、己れ一身の利益、若くば己れの同類の利益にすら爲ることとなれば、之が爲めに如何なる殘忍酷虐なことをも忍び、人民の疾苦困窮などは殆んど何とも思はない世には韓國を以て賄賂苞且の本家と爲し、韓國には賄賂公行すなどゝ言ふものがあるが、永く韓國に居つて其事情に精通した人の話に據れば、賄賂公行は勿論であるが、賄賂公行ならば尙ほ忍ぶべきである、實際は賄賂公行の境遇を通り拔け、賄賂公行よりも遙かに以上の慘境に陷つて居るから溜らないと言ふとである、成程、賄賂を賄賂として贈受するに止まらばマダしもであるが、韓國の實情は決してさうでない、中央の官吏にせよ、地方の官吏にせよ、若し金錢の必要があつて、夫れが己れの懷ろで間に合はぬ場合には、忽ち金錢に富んで居りさうな人民を物色する、物色して之を得れば則ち其の主人に或る罪名を着せて之れを拘引する、獄に投ずる、拷問する、主人の家族若しくば親戚が巨額の金錢を身代り金として贈納するに及んで、始めて之を釋放する、コンな鹽梅にして民の財產を奪ひ、民の膏血を絞るのであるから、成程、賄賂公行ドコロの沙汰でない、全く强奪だ、强盜だ、人民の安寧利福を保護すべき官吏にして、却つて强盜の振舞を爲し、人民の財產を强奪して憚からないと言ふに至りては、眞に世も末だ、花井卓藏君が韓國は亡國後、既に幾十年を經て居ると言はれたさうだが、實に尤

もの話だ

獄に投ずると言ふ話を仕たが獄とは必らずしも一定の監獄を指すのではない、定まつた監獄もあるが其監獄以外に、重なる官吏は自宅に附帶した獄らしきものを有して居る、法部大臣も有して居る、內部大臣も有して居る、其他の大臣も有して居る、地方の觀察使も有して居る、郡守も有して居ると云ふ話である、而して是等の人々は前に言つた通りの必要に際會すれば、忽ち富裕の人を物色し來たつて銘々勝手に其の私獄に拘禁する、之に依つて其の財產を絞り上げて己れの必要を充たす、夫れは〳〵無法とも、劫呑とも、言ひやうのない始末ださうだ

が、又、官吏の側より見れば、斯る遣り方でもするより外はないやうなことに爲つて居る、彼等が其の地位を得たのは、孰れも價を以て之を買ふた結果だ、畢たる一巡撫の地位すら、四百圓とかの株に爲つて居る、郡守は二千五百圓、觀察使は六千圓、局長は何千圓、次官、大臣は何萬圓と言ふやうな株に爲つて居る、ヨシ直接に之を買はないまでも、之を買つたほどの運動費は掛る、夫れゆゑ、愈よ其の地位を得た曉には、之を得るが爲めに投じた費用の外、自家一族の生活費、將來の資產まで作り上げねばならぬから、ドウしても强盜、强奪でも遣るより外には其途がない、尙ほ相當の地位を得た人の處には、必らず數人、十數人若くば數十人の居候が附纏ふて居る、之を疎かに扱へば忽ち讒誣、中傷、排擠を爲し、之が爲めに折角得た地位を失ふ恐れがあるから、忌々ながらも之を伺つて置く外はない、是れも無法の手段をまて謀じて人民の財產を强奪せねばならぬ一原因である。思へば官吏たるものゝ立場も隨分憫れむべきものではあるが、サリとて之れが私情、私慾の爲めに犧牲とせらるゝ、韓國人民の境遇に至つては、更に悲慘の極で、韓國の扶掖啓發を標榜とする我國官民の決して永く看過すべき事柄でない

斯くの如く、韓國の官吏は、毫も人民を愛せず、且、毫も人民の利害を顧みるの念なきのみならず、皇室に對しても亦、十分に忠義を勵むの誠意が無い、是れは數の自然とでも言ふべきであらう

彼等は前にも言つた通り、己れ一身若くは己れの同類の利益を圖るを專一とし、皇帝のごときも之が便宜上の一機關とするに過ぎない、皇帝に媚ぶるも、諛ふも、忠義顏をするのも、元はと言へば私安を貪らんとする結果で、其の腹の底には之に依つて利益を得やうと欲する陋心の外何一物もない、己等の利益と爲ることとなれば、惡も勸め、非も遂げしめ、己等の不利益となることとなれば、善も妨げ、是も遮ぎると言ふやうな風

である、彼等の皇室に對する關係の冷やかにして、一點の溫情なきことは、勿論の話である

皇室に對する關係の冷やかなることは、先に、祝捷大使として來朝せられた義陽君李載覺殿下の歸着の際に於ける出來事にても分明である、義陽君は兎も角も韓國の皇族で、皇族中でも重き地位に居られる方とか言ふことである、其の方が奉天附近に於ける我が陸軍の大勝利を祝するが爲に大使として來朝せらるゝに就ては、李根澤など言へる要路の大臣を始め、少なからざる從者を隨へられた、我國にては芝離宮に招ぜられ、皇室其他より色々な贈り物などを受けられ、大もてにもてゝ歸國の途に就かれた、釜山よりは京釜鐵道に乘りて京城に向はれたが、愈よ南大門のステーションに着かれると、多數の從者は思ひ〳〵に迎への輿、駕籠又は車に乘つてサッサと還つて仕舞ふ、義陽君は色々の贈り物や其他て荷物が多いものであるから、急いて還る譯には行かず、自分て一々之を世話して整へて居られる、京釜鐵道會社の役員等も餘りの事に流石に見兼ねて――宜しい、其儘にしてお還りなさい、荷物は會社の手で一切取纏めてお屆け申します、と切りに勸めて見たけれど、義陽君仲々之を聽入れられない、遂に一切の荷物を自分で整理し、夫れで漸くステーションを出てゝ歸邸されたと言ふことである、些細な事柄であるやうだけれど、彼等韓國の官吏が皇室一族に對する關係の如何に冷やかなるかは、之れに依つて十分に明知せらるゝであらう、思ふても見られよ、斯る奇怪の現象が我國に於ては勿論、他の君主國の中に於ても、夢にても見らるゝことであらうか、是れは一皇族に對する出來事であるが、其冷やかな關係は、皇帝に對しても同樣である、皇帝が臣下の何人にも信を置くことが出來ずして、斷えず不安の念に打たれて居られるのは何よりの實證と言ふべきであらう

又、彼等が善と見ても勸めない――言換ふれば、國政に對して冷やかなる一例を擧ぐれば、彼等の中より選ばれて日本の陸軍大演習若くは其他の事情を視察に遣つて來て、實際、非常に感心して還つても、決して其の有りの儘を復奏しない、皇帝より問はれても、ハイ、ナーニ位に答へて置く、場合に依つては、却つてアベコベに惡しざまに言ふ、是れは皇帝が外國――就中、日本の事情を彼れ是れと褒め立つることを嫌はれる傾きがあるものだから、其の意に逆らつて下らぬ不興でも買つては詰らぬと思ひ、ワザとコンな風な態度を執るのである、其の結果は假令、日本の實情に倣ふて之を改良したらばと思ふとも、兎角控目にして其實行を勸めない、國政の不振荒廢も丸て餘所事のやうに看過して顧みないのである、實に、實に、情ない限りだ

が、コンな連中も、形式外觀の上に於ては如何にも忠義らしく見ゆる、例之へば皇室の喪に服する一事に就て見るに、近年は故皇太后か離れかの喪中であるさうて、官吏と言ふ官吏は悉く喪服、喪章を着けて居る、ドンな片田舍のヘッポコ官吏でも皆其の通りだ――喪と言へば、官吏ばかりでなく、人民も皆之に服する、例の白服は則ち喪服なんだ、韓國では大分久しき以前より、皇室の不幸が續き、其の臣民は絶えず喪に服して居なければならぬと言ふ有樣であつたから、喪服の白服が今では却つて常用服たる觀があるやうに爲つて居るさうだ、夫れゆゑ、彼等の中には喪に服するなど言ふ考へが無くして白服を着けて居るものも多からうが、流石に官吏は官吏だけに喪章までも着けて居る、其の外觀のみより見れば、如何にも神妙のやうてあるが、一皮剝いて其心情に立ち入れば、全く前に言つた通りてあるから、淺ましくも亦怨めしい

又、古き城廓の跡などから見れば、如何にも人民に親切らしい、我國では江戸、大阪、名古屋等は勿論、孰れの城趾に就て見ても、其の城主の居た間近な周圍のみに壘壁を廻らし、一般の民家は其の壘壁の外にあるが、韓國てはさうてない、一般の民家をも一ト包にして其の外に壘壁を築いてある、京城に行つた人は、必らず京城の市街全躰を包んだ四方の山腹、山巓に、今も尙ほ古き壘壁が蜿蜒として連亘して居るのを見たてあらう、此の造り方から推せば、皇帝、官吏共に我國の往時よりも一層人民の利害を念頭に置かなければならぬが、韓國の今の實際は全く之に反し、外觀と內情とは著しく矛盾して居る、是れと言ふのも、曾て仁德や忠義を誨へた孔孟の敎訓が全く廢れた結果だ、儒敎の精神が拔け去つて其の形骸のみが殘つて居るのだ、賴母しからぬ次第てはある

形式、外觀と言へば、彼等は、古いことを追ふばかりてなく、新らしいのを眞似ることも隨分好きてある、宮中、府中の制度や儀式などは一層好んて他に倣ふやうてある

我國の宮內省に倣ふて、彼れは宮內府を作る、內閣を設くれば議政府を置く、各省の制度を建れば彼れも各省を分立する、官制の一切は大抵我が現制を眞似して勿躰らしく組み立てたものだ

彼れより來朝した使節に對し、我國て接伴官を設くれば、我れより派遣した特使に對して、彼れは伴接官と言ふのを設くる、全く同じ名前にするのも面白くないと言ふのて接伴官の接伴を伴接と引繰返した所などは、全く朝三暮四に甘んずる猿の格だ

我國に招魂社を設けて忠勇の軍人の神靈を祭るのを見て、彼れは奬忠壇と言ふものを新設し、矢張り春秋二季に祭典をする、祭典をするのは宜いが、此最近幾十年、奉祀

すべき忠勇の軍人は殆んど一人も無いとは、愈よ滑稽の極だ

彼れの軍隊には勿論將校もある、參謀もある、夫れ〳〵の制服を着けた所は仲々立派に見ゆるが、演習でも仕て號令を掛ける時は、勝手慣れた下士卒が側に附いて居つて、掛聲の代理をせねばならぬ、とは何の爲めにイカメしい軍服を着けた將校抔を置いたものやら

宴會などは隨分好きである、他邦の重なる人々から招かれて宴に臨み、又は之を招きて夜會などを催ほすことも決して少くない、處て其の折、他邦の首座者が抔を擧げて韓國皇室以下の萬歲を唱へると、韓國の連中も亦之に對して乾抔答禮を爲さなければならぬが、其の場に爲つて何だかモヂ〳〵して互に讓り合ふと言ふ鹽梅、今では大分慣れて來たが、夫れでも折々可笑しいほどマゴつくことがあると言ふ話だ

さうかと思へば、仲々妙な理屈は言ふ、何か政務上の交渉で、文書を以て往復辨駁でも始めやうものなら、殆んど果しが無い、文字の國だけに色々巧みな辭令を用ひて途方もなき理屈を並べて來る、其の上ドンな要求でも、交渉でも、只の一度でもウムと承知するやうなことはない、必ず何とか理屈を揑ね付けて爭つて見る、但し其の爭ひや、又は其の爭より生ずる怨みなどは、ホンの一時で、一週間か、十日間も立てば、全く之を忘れて仕舞ひ、洒々然として復た相應對すると言ふ風である

夫れゆゑに、韓國の官吏を相手として種々の交渉を爲すに、小面倒な理屈を並べ、其の往復に書面などを以てするのは、迂愚の至りだ、成るべく直接、口頭談判で運ぶのが一番の捷徑である、後の證據になどゝ思つて、細々した事まで書面に認め、公文書を取換して置ても、相手は走馬燈のごとき交迭多き韓國官廳のことであるから、餘程大事なものでなければ、多分は之を保存して無い、又、彼等は隨分猜疑心の深い連中で——例之へば大臣が譯もなく他の要求を容るれば、「是れは怪しい、擾んだナー」などゝ猜疑して、其省の次官以下は揃つて之に反對すると言ふ有樣である、夫れゆゑ眞に或る要求を貫徹させやうと思へば、其の係りの大臣とは內々で打合はせを濟し、馴合ひの上、公然、役所に交渉に出かけた折は、大臣は口を極めて爭ふ、眞ッ赤に爲つて反對するやうな仕組みにして置くに限る、さすれば次官以下の連中は、ハハアー、大臣は眞面目に爲つて反對して居る、それでは裏を搔いて贊成して遣れ、と言ふ風に出て來るから、結局、一省の纏まりが早く、造作もなく其の目的を遂ぐることが出來るのである

又、彼等は眼を全躰の上に注がず、一部、一局に就て喧々囂々する癖があり、其一部一局の爭ひに勝ちさへすれば、全躰の勝敗は措て顧みないと言ふ風だから、何かの案件

を持出して交渉するに就ても、大に手加減が必要てある――外でもない、之を幾多の箇條書にして提出する場合に、先づ初めの二三ヶ條目に、彼等が所謂躰面の上からか、若くは大義名分とでも言ふやうな點から、必らず反對しさうな餘計な事柄を書加へて置き、最も肝腎な條項は夫れよりもズッと後の方に掲げて置く、又は前の方に掲げた案件も後の條項で打消して其の目的を達するやうな仕組にして置く、斯くて之を彼等の手に提出すれば案の如く體面論若しくは大義名分論を楯として熱心に爭つて來る、我れも亦熱心に爭ふ、彼れも引かない、我れも引かない、激しく爭つた後、夫れでは詮方ない、アナタ方の御議論の通りに致しませうと折れて、其の條項を削除するか、又は變改を加ふるやうにすれば、彼等は其の最初の爭ひに己れ等が勝を占めたのを喜び、得意の餘り、アトは深く注意もせずして全體を許容すると言ふ傾きがあるから、後條の肝腎な案件、又は前條を打消すに足るべき條項は、譯もなく成立することに爲る、淺墓な次第ではあるが、心得ても置かなければならぬ事柄である

我れ〳〵も平生、日本内地に居つて、ヤレ議政府が交迭した、ヤレ誰れが大臣に爲つたなど言ふことを聽いては聊かながらも之に注意を拂つて居つたが、一たび京城に遊んで以上の如き實情を見聞してからは、全く之を買被つて居つたことを覺つた、韓國に入る前には、韓廷要路の人には彼れにも會はふ、是れをも訪ねやう、と思つて夫れ〳〵相當の紹介狀も携へて行つたが、行つて實情を見聞した後は、往訪する氣も何も無くなつた、議政府がドンな組織であるか、誰れが今何の大臣であるか、殆んど之を知らうと言ふ氣も無くなつた、イヤ彼の地に永く行つて居る人々すらも、特別に利害の關係でもなければ、之を知つて居らないほどである――韓國官吏と言へば、心に君主なく、眼に人民なく、己れの私利私慾の爲めに朋を結び黨を立てゝ鬩爭を事とし、政局を顧みず、大勢を解せず、徒らに形式を追ひ、外觀を尙び、無用の文字議論に拘々として之を得意とし、悪潜み、夜動き、陰謀を好み、放肆淫蕩に長ず、殆んど濟度すべからざる蝙蝠的、梟的、猿猴的の徒屬で、其の爲すこと、することゝ、唯々驚くの外はない

韓國人民

憫れむべきは皇帝ばかりではない、驚くべきは官吏ばかりではない、其の管下に屬する韓國の人民に至りては、更に一層憫れむべく、一層驚くべき狀態に陷つて居る

先づ其の住屋を見るに、孰れも一見人間の住んで居る家屋とは思はれない程である、家ではない、寧ろ穴だ、穴居時代の穴は横か斜めに地下に掘つたものであるが、韓國

人民の家は、穴を地上に掘上げたものと思へば間違ひない、其の構へ方は、手頃の石を積上げ、其の間だ〳〵を泥土で塗り詰め、屋根は桝形に葺(京城あたりは瓦葺もあれど)を被せ、被せた葺は横に二ヶ所ばかりザッと縛つてある切りだ、積上げた石壁はヤッと普通の人丈位ゐ、大抵は眞ッ四角、又は長方形で、其の廣さは通例四坪か若くば四坪以下、中には四坪以上もあらうと思はるゝのを二ヶ間位ゐに仕切りたのもある。家の中に疊など敷いてあるのは殆んど絶無で、多くは安つぽい油紙か又は蓆を敷いてある、甚だしいのは矢張り石と泥土とで固めた土間だ、四壁は荒壁の儘で、多くは天井もなく、蜘蛛は四方に網を張り、蛇蝎は縱横に匍行すると言ふ有樣である、中等以上に爲れば四方の壁を新聞紙や紋紙などで張り、紙で張り詰めた天井なども設けてある、是とて日本人の目より見れば、隨分ヒドいものでトテモお話しに爲らぬ、內地で例之て言へば、田圃の側などへ肥壺を拵へるために建てた掘立小屋見たやうなものだ

其の中に煮焚きする道具もある、飲み食ひする什器もある、日用の一切の器具も積み並べてある、煙草盆もある、便器もある、少くとも一家三四人乃至五六人の大人小兒が、垢染みた不潔のまゝにて、其間にゴロ〳〵寢起をする、飲食をする、糞尿をする、處構はず唾を吐く、左なきだに狹い、穢ない、穴見たやうな室は、之が爲めに愈よムサ苦しくつて臭くつて、汚はしくつて、我れ〳〵には殆んど覗くことも出來ない、能くもマアー、あんな中で生活して居られるものだと怪まれるほどである、我れ〳〵も京釜鐵道の車上から、到る處に斯る見苦しき家を眺め、京城に入つて我が居留地附近にも尙ほ同樣な家屋の散在して居るのを見て、イッッ一思ひに燒拂つて仕舞ふ途を講じたらば善からう、と言つた處が、イヤ燒き拂ひたくつても石と泥土とで成り立つて居る家だから、燒き拂ふことが出來ませぬと言はれて、成程、さうだと大笑ひをした位ゐである——昔から、居は氣を移す、と言つてあるのに、コンな狹隘な、醜陋な、汚穢な、穴見たやうな家の中に住んで居る韓國人民に、ドウしてもエライ元氣のある、活氣に富んだ人間の出來る道理が無い

四方の壁も石と泥土、寢起する床も石と泥土とで作り上げて居るのは、一ッは防寒の必要から工夫したものであらう、韓國は夏は隨分暑い處で、我れ〳〵が丁度六月の二十日頃、仁川に行つたとき、海岸通りの或る涼しさうな部屋で、既に八十六度と言ふ高い熱度に達して居つた——京城、仁川は一躰に上から照り下ろす熱度ばかりでなく、更らに大地を打つて下から照り返す熱度の爲めに、一層暑いやうであるが、之れと反比例に冬は又隨分寒い、其寒さは殆んど骨身に浸みるほど强いさうだ、夫れゆゑ、平

生、衣服に乏しい韓國の人民は、住つて居る部屋中を暖かにするやうな防寒の用意をするより外は無い、そこで、四壁も、床も、石と泥土とで拵らへ、床下には川字形を爲せる數條の溝を造り、其の一方に焚口を設け、他の一方に烟突を着け、火を焚けば、火氣が其の溝を流通して自然に室内を暖かにする工夫に仕組みてある、是れが所謂有名な溫突で、寒い間斷えず、此の溫突を焚き詰むるため、山と言ふ山は伐り盡す、木と言ふ木は採り盡す、木の根まで堀り盡す、其の結果は水が乏しくなる、漑漑に困る、一朝雨が降れば山崩れがある、大洪水が出る、田畑を荒される、溫突亡國論はコンな所から起つたのであらう――が、之に止まらない溫突て狹い室内を暖め、其の中に斷えず寢起して居つては、頭も、身躰も、變に惰弱に爲つて仕舞ふに相違ないのみならず、小人閑居して不善を爲すて、寒中、常に斯る小室内にゴロ〳〵して居つては、決して善いことを仕出す氣遣ひは無い、我れ〳〵は此點からも溫突亡國論を主張したいと思ふ

韓人の家は一二軒か、二三軒、離れ〳〵に散在して居るやうなことはない、一村落は一村落だけ必らず簇集して居る、是れは韓國一躰に水の乏しい處てあるから、水の在る所を見出して群を爲した結果ださうだ、又、韓人の家には目立つほどの大小廣狹は無い、殆んど皆一樣である、是れは當局有司の苛斂誅求を恐れる爲めに、貧富の差の見えないやうに心懸けた結果だとか言ふことだ、永い間の虐政のほども想ひ遣らるゝてはないか、韓國の人民が其の皇室に對し、其の官吏に對して、何等の溫情を存せないのも、決して無理てはない

住家、既に斯くの如し、衣食とても素より善からう筈はない、只、住家のヒドい割合に衣食のヒドくないのは、セメテもの取り所とても言ふべきてあらうか

衣服は前にも言つた通り、近年、皇親の喪中とかて、上下都鄙を通じて皆白色だ、地は金巾、木綿又は麻布て、重に我が日本、產並に清國產てある、偶ま絹布を纏ふものもあれど、是れは富豪の子女、官吏、若くは村夫子等て僅かの數てある、子女と言へば、未婚の男女て十四五歲までのものは、白衣てなく、桃色、紅色、又は薄紺色の上衣若くは裳を着けたるものが多く、既婚の女子は藍色の裳を穿つたものもある、冠帶にも黑色、綠色、白色等の別がある、上衣は男女共に筒袖て、男子の分は長く、女子、就中、下等婦人の分は短かくて乳房を露出して居るものが多い、下衣は男子は寬濶な股引やうのものを用ひ、脚部て緊縮するやうに仕て居り、女子は短かき股引を穿ちたる上に、更に裳を纏ふて居る、女子は男子に顏を見せぬと言ふ古風は、今も尙ほ存して、中流以上の婦人は容易に外出せない、外出するにしても籠を垂れ籠めた輿か覆籠に乘つて歩るく、夫れ以

下の婦人て、全くの下等社會でもないものは、前に述べた朝鮮服の上に被衣見たやうなものを引被り、兩手で口の邊て締めつけ、肩から下はバァーッと擴げて、目ばかりキョロ〳〵させて歩いて居るから、打見た所、丸て白い達磨の轉がつて居るやうてある。又男女とも金巾若くは木綿で作つて之に綿を入れた足袋を、四季の別なく穿いて居るから、身躰の割合にすれば、足の力は至つて弱いさうだ

白衣の服は、皇室の喪が、此の幾十年、引繼いて居るため、喪服と言ふよりも寧ろ日用の常服見たやうに爲つて居る、處が京城、仁川は勿論、韓國は一躰に土ボコリの多い處てある、京城、仁川あたりの土ボコリと來たら、內地のよりも目が細かくて、ドンナ小さな穴からでも這入り込む、夫れほどのゴミが汗にニジむのであるから、白衣の服は忽ち鹽煮染見たやうに爲る、洗濯を絶やしては爲らぬ、それて、大抵な內の主婦人は、其の洗濯の爲めに忙殺され、婦人の畢生の職業は衣服の洗濯にあると言はれる位に爲つて居る、尤も下等社會の連中は時々に洗濯もせず、汚れた、垢染みたまゝの白服て——白服と言ふよりも黃色又は赤色に爲つた服て、處構はず、平氣てゴロ〳〵して居る。洗濯と言へば、中流以上の分は餘り實見しなかつたが、大抵な處ては、ゴミを棄て、アクタを棄て、糞小便を垂れ流した紫色染みた汚ないドブ泥の水を掬つて遣つて居る、其の側の恰好な石を擣衣臺の代りと爲し、衣服を其の上に擴げ、宜加減に洗濯石鹼を塗廻し、摺古木の大きいやうな棒て、滅多無性に叩き上げて居る、アレて能くも〳〵白くなるものだと疑はれる位てあるが、仕上げて見れば白く爲つて居るから不思議だ

食物の重なるものは、勿論、米て、副食物は牛肉、雞肉、鷄卵、魚類及び沈菜(漬物)等てある中にも沈菜は之が加味に種々の工夫を凝らしてあるから、案外に甘いと言ふことだが、米と言ひ、牛鷄肉等と言ひ、是等は孰れも中流以上の人々の常用とする所て、下等の勞働者や貧困の徒は、麥、豆等を常食として居る、猶ほ彼等は概して大蒜を喰らう習慣があるから、其の不潔に伴ふ臭氣以外に、大蒜の臭い息を吐く、慣れない我れ〳〵には隨分、胸が惡るく爲るやうな氣が仕た

韓人は古來、茶を喫することを知らなかつたさうだが、近年、上流社會ては、外人の風を見做ふて紅茶、綠茶、珈琲などを味ふやうに爲つて來た、ビールなども飲んて得意がるやうに爲つて來た、酒は主として地酒てあるが大分盛んに用ふるやうだ、是れは韓國が一體に雨量が少く、空氣が著しく乾燥するからと言ふことて、酒の分量は韓人ばかりてなく、彼の地に行つた日本人も、內地に居るよりはイクラか餘分に用ふるやうに爲る、現に前年中、京釜鐵道の速成工事に從事した二萬人內外の勞働者は、內地に居

るよりも大分酒の量が增した――是れは勞働賃銀の內地よりも多かつた結果でもあらうが、一つは氣候の關係であつて、之が爲めに灘あたりよりの酒の輸入は、豫想外に多かつたと言ふ鐵道關係者の直話であつた

日常缺くべからざる衣食住の有樣が、既に述べた通りであるから、韓人一躰に衛生思想など言ふものゝ無いことは、推して知られるであらう、不潔は殆んど韓人が天に稟け來つたる性質のやうに爲つて居る

京城は一國の首都だけに、割合に開けて居るべき筈であるが、其の不潔なこと、衛生思想の無いことは、實に甚だしい、大通りを折れて一寸、朝鮮町の小路に入れば、一種言ふべからざる臭氣は紛々として鼻を撲ち、行人をして嘔吐を催ほさしむるほどである、夫れも其の筈サ、例の狹隘、醜陋なる住屋の外には、少しも塵芥溜などを作る餘地が無いから、ドンな汚穢物でも、腐敗物でも、路上に棄てる、溝の中に堆積する、下水などの掃除は少しもせぬ、大小便は垂れ流しである、日本居留街の大通りですら、可なりに年を取つた韓人の子供等が、途の眞ン中に蹲踞つて外の子供と話を仕ながら、大小便を垂れて居るのを、折々見懸ける、其の大便は犬や豚が來て喰ふに任せて、別段、掃除は仕ない、臭氣紛々として四邊を掩ふのも、當り前だ

穢ない話ばかりであるが、我れ〳〵が京城に入りて懇ろに注意せられた一事は、朝早く朝鮮町を通るなと言ふにあつた、其の譯は――朝鮮町は言ふまでもなく人車が僅かに通る位の廣さであるが、先きにも言つた通り、孰れの家も別段、汚穢物を棄てるほどの餘地が無いものであるから、朝に爲れば、前夜、便器に溜めた大小便を、窓から往來に棄てる――婦人は顏を見られるのを忌むと言ふ風がある爲めに、窓から顏を出さずに、其の往來に人の通つて居るや否やを見ないで、ザブッと其便器を引繰返す、それで折々頭から之を浴せらるゝ恐れがあると云ふことであつた、聽いたばかりで胸糞の惡くなる話だ

夫れだけならばマダ宜しい、彼等韓人は小便を以て腎虛、肺結核、及び解熱等に効驗があると言つて之を飲用する、病人のみならず、無病のものも、强壯劑として之を飲用する、何時頃から、誰れの遣り始めたことかは知らぬが、恐ろしい、忌な風も傳來したものだ

斯くまで不潔な割合には、傳染病も流行せないやうであるが、天然痘だけは仲々多い、到る處、男女を問はず、痘痕面の多いのには驚くほどである、中には痘痕の未だ乾かない兒女等が、平氣で路傍に遊んで居るのすら、折々見受ける、是れは勿論種痘を仕な

い結果であるが、兎に角、韓國に於ける第一の流行病であるから、新たに同地に赴く人々は、念の爲めに種痘を仕て行く方が宜しい、無感覺の韓人も流石に此の病氣には恐れると見え、天然痘で死んだものがあれば其の遺骸を藁苞に裹みて、京城の光熙門外の高い墻壁に懸けて置く、或は郊外山上の樹間に懸けて置く、其の肉が腐爛して愈よ骨が露はるゝに至つて、漸く之を埋葬する、是れは痘瘡の神が飢えて人肉を喰ひに來る爲めに、天然痘が流行するものと思ひ、該病で死んだ人の肉を捧げて之を飽食せしむれば、其の流行を防ぎ止めることが出來ると信じて斯くするのである、衛生思想の無いも甚だしくべきだが、迷信も茲に至つては寧ろ人生悲慘の極だ

衛生思想は無い、醫藥は小便か若くは草根木皮が關の山である、コンな處であるから、病氣をすれば仕たまゝである、別段の手當も仕ない、子供なども殆んど打棄り放してある、雨にも、風にも、暑さにも、寒さにも、抵抗することが出來て、自然に育ち上るものゝ外は育たない、病氣で死ぬものは病氣をするのが不仕合せ、病氣に打勝つて育つものだけが此の世の人として殘つて居るのである、夫れほどであるから生殘つて居るものは、孰れも丈夫である、弱いものを篩ひ落して殘つたものだけに、殘つて居るものは皆壯健で、足を除くの外、力も相應に強い――韓人は子供の時から肩、背中で物を擔ふ風があるから肩、背中の力は殊に強い、ノロ〳〵は仕て居るけれども、通常の勞働などには堪へるやうである、且強いものに對しては一躰に柔順であるから、監督さへ善ければ相應に働く、勞働者としては頗る適當であるやうだ

されば、彼等は何時も善く働いて居るかと言ふに、決してさうでない彼等は其の日の飲食さへ出來れば、夫れで滿足するのである、其の日の飲食に差支へるやうに爲るまでは、譯もなくブラ〳〵と遊んで居る、京城は勿論、仁川でも、釜山でも、其の結果、遊民の夥ただしいこと實に驚くばかりである、例の長煙管を啣へた、目尻の下つた、天神髯の連中が、何處の道端にも、何處の軒下にもウロ〳〵ゴロ〳〵して居る――目尻の下つた、天神髯と言へば、如何にも伊藤侯爵の顏型で、侯爵と見擬ふばかりの韓人が如何にも多い、何やらの強い所、ソウして對外的根性の弱い所などを照し合せて見れば、伊藤侯爵は似たものゝ多い朝鮮種かと思はれるほどだ――猶ほ其の連中は何處へでも寢る、夏の炎天に、恐ろしいほど塵芥の立つ所に、石を枕に平氣で寢て居る、馬山浦鐵道のレールの間に角の立つたバラスを一面に敷いてある眞ン中にも、仰向きに爲つて熟睡して居つたのを見た、甚すら其の通り、夜に爲つて路上に寢るなどは一層平氣の平左、蚊が喰はふが、虫が刺さうが、一向無頓着である、或る夜我れ〳〵が夜更けて歩

いて居つた折にも、道端に白いものがゴロリッと寢て居るから、犬かと思つてステッキで突いて見ると、韓人先生ウムーと言つて寐返へる、別段、突いたものを咎めやうともせぬ、犬、猫さへ木の蔭、草の上を擇んで寐るのに、サリとは淺ましい限りではあるも、斯くても病まぬ韓人の丈夫さには、感心せざるを得ない

丈夫と言へば善く聞えるが、一面から、言へば無神經の結果だ、大道の上に石を枕に寢轉んで、蚊から喰はれても、蟲から刺されても折々は犬や牛から嚙められても平氣の平左で居る所は、ドウしても無神經の徒でなければ出來ぬことだ――とは言へ、彼等も雨だけは恐れる、雨が降れば、皆引込んで仕舞ふ、打つても蹴つても決して出て來ぬ、之が爲めには隨分當惑する雇主もあるさうだが、其の出て來ぬ理由は、着換を持たぬからだと聞いては寧ろ憫れを催ほさゞるを得ない

無神經と言へば、決して彼等の身躰ばかりではない、身躰と同じく氣も心も無神經なんだ――例之へば、先づ年頃の子供に就て見るに、其の子供が何か善からぬ事を仕て、兩親からか、又は他人からかヒドク叱られる、內地の大抵の子供なら泣いてヒタ誤りに誤る所を、彼等は平氣で突立つて居る、餘所見を仕て居る、アングリと口を開いたまゝ何の事やらと言ふやうな顏付を仕て居る、叱り榮も何にも無い、叱つた効能などは猶更無い

口を開いた話で思ひ出したが、韓人は子供に限らず、大人でも大抵のものは常に口を開いて居る、餘り可笑しかつたから、或る韓國通に其の譯を糺すと、其の人が言ふに――ウム、ソレ〳〵自分も不思議に思つた餘り、其の事情を研究して見た所が、大要三ツの原因がある、本來のボンックであると言ふことが一ツ、話をする際にシー、シーと言ふやうな唇を廣げる語音が多いことが一ツ、今、一ツは例の朝鮮帽子の紐を頤の下で結んで居るが、其の結び方が至つて緩い、それで人と會つてお辭儀をする時など、前にグラッと落ちて仕舞ふ恐れがあるから、口を廣げ、頤で紐を突張つて之を支へるといふ習慣があつて、之が習ひ性と爲つたこと――と云ふ說明であつたが、誠に尤もの說明だと思つた

猶ほ多年、韓國に住つて韓人の敎育に從事して居る人の實驗談として語られた所に據ると、學校で机を並べて居る生徒に、或る讀書の復習をさせやうと思つて、先づ甲に某の一節を讀ませ、次に乙、丙と順次に其の同じ一節又は次の節を讀ませやうとするに乙、丙は決して甲の讀みたる塲所を注意して居ない、丙は亦乙の讀みたる所を知らない、それで甲の讀み終つた後、サアー乙、乙の讀み終つた後、サアー丙と言つて促し

ても乙、丙は各己れの讀むべき所を知らずして、左右の生徒にヒソ〳〵何處からか、何處からかと尋ねて居る、斯る事は斷えず有る現象で、其の度毎に如何ほど嚴しく注意しても、決して改まらないと言ふことである

又、同じ人の話であるが――夏の炎天などに爲ると、流石に韓人の生徒等も暑がつて自分の机から離れ、風通しの善い戸口か又は窓側に立つ、それでは總躰の邪魔に爲るからと思ひ、嚴しく戒めて元の机に着かしめる、甲がヤッと元の机に着くと思ふと、今度は乙が又己れの机を離れて戸口(又は窓側)に立つ、又嚴しく戒めて元の机に引戻すと、今度は丙が同じやうな事をする、丙を戒めても丁、丁を戒めても戊と言ふ工合に、順々に同じやうなことを仕て殆んど果しが無い、詰り、甲が何の爲めに戒められたか、乙が何の爲めに咎められたか、丙、丁、戊が何の爲めに叱られて元の机に引戻されたか直接に八ケましく言はれた當人の外、總躰の連中は少しも注意して居らない、隨分骨が折れたものだと言ふことである、年若い學生のことゝは言ひながら、是れで見ても彼等が如何に無神經であるかゞ分る

且又、彼等は人の物を盗むのを何とも思はない、盗むのは拾ふと言ふ位に心得て居る、是れは無神經と言ふよりも寧ろ一種の習慣とも言ふべきであらうが、習慣として

は隨分厄介な習慣だ――或時、或る役所で、色々な物が紛失して仕方がなかつたものだから、其處に關係ある日本人が、其の役所の長官に嚴談を爲し、お前の國の役員は物を盗んで仕樣がない、今後は大に注意を加へて貰ひたい、と言つた處が其の長官先生、一日、部下の官吏を集めて――日本人は物を盗むことは嫌ひださうだから、今から日本人の居る前では物を盗まぬやうに仕たが善からう、と言ふ訓戒を下したと言ふ話である。物を盗むを惡事なりとは敎へずして、日本人の前では盗むなと戒むる所などを見ても、彼等の道德的觀念の如何に低いかゞ分るではないか

尤も彼等に物を盗まれぬやうにする一の秘訣がある、夫れは例之へば、金などを持たせて他に屆けさせる時分に、決して初めより之を手紙の中に封じ込むやうなことを仕ない、手紙は手紙に別に封じて、金は現金を投げ出して使ひに遣る韓人に、眼前で計算をさせる、それで十圓なら十圓、百圓なら百圓あると答へたら――宜しい、就ては夫れだけを手紙と共に屆けて來い、と命令すれば、決して途中で盗むやうなことをせない、左もなくば慥かな爲めなどゝ思ひ、初めから手紙の中に封じ込んで屆けさせやうと仕たら、屹度、途中でイクラか引抜いて知らぬ顏をして居る、何處までも猿智慧の奴等だ

先きに韓人の衛生狀態を說くに當つて、其の身躰は通常の勞働に堪へると言つた、身躰は勿論通常の勞働に堪へる、監督さへ善ければ相當に働らく、賃銀は割合に安い、京釜鐵道に使つた工夫などが一日三十五錢から四十錢、其他種々の勞働者としては頗る適當である

勞働者の半額位ゐてあるから、勞働者が、前にも言つた通り、無神經の連中であるから、少しく面倒な事、込入つた事、細々した注意を要する事などに當らせやうとすれば、カラ、ダメである

京釜鐵道關係者の直話であつたが、彼等は鐵道改札ごときの事務にも、最早堪へない、望みに任せて之を使つて居るが暫らくすると苦しいと見えて逃げ出す、逃げ出しても容易に適當な糊口先きが無いものだから、又還つて來る、還つて來て暫らく働らいて居るが、矢張り荷が重過ぎると見え、又も逃げ出す、幾たびか逃げたり還つたりするが、結局、勤め果せるものは甚だ少くないと言ふことである

又、乘客から受取つた切符の計算や、賃錢の勘定をさするに、一列車毎に之を算當さすれば、左したる間違ひもなく之を仕上ぐるが三列車も一ト纏めにして之を遣らすれば、最早混雜して分らなくなる、初は横着てソンな分らない風をするかと思つて、毆つて見たことも、蹴つて見たこともあつたが、段々實地に經驗し注意する所に據ると必らずしも横着の爲めではない、野蠻人の常として精密な算數を解せない結果である、是れが分つてから、寧ろ可愛想に爲つて、ソンな場合に毆る、蹴るなど言ふ、ヒドい處置は加へないことに仕たと言ふ話であつた。北海道の奥に居るアイノ族が、己れの年を知らないことや、亞弗利加あたりの野蠻人が、物の數を數ふるに、手足の指の數だけは分るが、夫れ以上に爲れば最早分らないと言ふことなどを思ひ合はして、徐ろに憐れな感じがする

又、矢張り京釜鐵道會社での實驗談として、聽いたが、改札などよりもモツトとズツと以上の綿密な事務に韓人を使へば、使ひ出してから幾年も立たない内に病氣に爲る、肺結核などに爲つて死する、日本などに遊學して相當の敎育を受けたものでも、矢張り其の面倒に堪へずして、長くも三、四年目には病死する、病死せないまでも再たび役に立たないやうなものに爲つて仕舞ふと言ふことである、愈よ憫れな次第だ

郵便事務などにも、出來るだけ韓人の稍や敎育あるものを使つてあるさうだが、其の管理者などの話に據ると、矢張り太した面倒なことは出來ぬ、同じ事務でも日本人に比すれば先づ三分の一か、多くて半分位の成績しか擧げ得ないと言ふことである、尤も彼等の給料も亦夫れ相應に安いから、結局其の方で埋合せが附くやうな譯合に

は爲つて居る

とは言へ、彼等が金錢を愛することは又非常である、金錢を得るためには隨分、圖太く押强く出て來る――車夫の例で示さうが、或る處まで曳かせて大抵、定まつた賃錢を渡してやつても、彼等は決して其のまゝでは歸らない、必らず其の上にヲダる、定めより如何ほど餘分に拂つても矢張り同じくヲダる、結局、叩き毆つて追ひ還すより外はない、現に我れ〳〵が初めて京城に着いて大東館と言ふ旅館に投じた時も、其處の女中がアアー今夜も亦打たれなければ還らないのだと言つて居るから、何のことかと聽いたら、イヤ、アナタ方の乘つてお出でた車夫が、通例以上の賃錢を拂つてやつても尙ほグズツて居るのです、昨夜も或るお客の分に就てアノ通りでしたから番頭さんが叩き毆つて追還したのです、今夜もソウせなければ還らぬでしやう、と話したが、彼等が金錢にかけて執拗いことは、此の一例でも分るであらう、されば、とて毆られば又別段、抵抗もせず、オトなしく還る所は、何處までも無神經だ、イヤ實に無氣力の實證だ

が、彼等は守錢奴ではない、支那人のやうに貯蓄心は無い、宵越しの金は使はぬと言ふやうな風で、働らいただけ飲んで仕舞ふ、儲けたゞけ食つて仕舞ふ、其の日の分は其の日の用に充てゝ仕舞ふ、是れは多年虐政の結果で、イクラ溜めても、溜むれば溜むるほど、お上の御奉公をするに過ぎない、貯蓄は却つて收斂を蒙むる禍の基であると言ふことを思つたゝめであらうが、斯る習風の連中は、一面から見れば、程近い我國から、日常必需の品などを賣込む商賈相手としては、却つて仕合せかとも思はれる

韓國人民の狀態、氣風、性行、斯くの如き有樣であるものだから、或人は宛然衣冠を着けたるアイノなりと言ひ、或人は直立して歩行する猿猴なりと言ひ、又或人は韓人は蜉蝣の如し、一日の人なり、旦に生れて夕に死するものなりとまで評して居る、孰れも尤もな評で、一たび韓地に入つて其の實情を視察したものは、如何に最負目に韓人を見やうとしても、之に對して爭ふことは出來ない、我れ〳〵も之を實見してからは、韓人を目して同文同樣の國民だなどゝ言ふことが、つく〴〵忌にもなり、つく〴〵恥づかしくもなつた

が、されば、とて之が保護、啓發を怠るべからざるは勿論である

謬れる對韓政策

韓國皇帝、韓國官吏、並に韓國人民の地位、境遇、狀態は是れまでの說明で、既に世人の

了解する所と爲つたであらう、或は其の說明が無遠慮に過ぎたと思ふ人があるかも知れぬが、孰れも事實であるから致し方ない、韓國の實情を十分に本邦人に納得せしむる爲めには、事實を事實として有の儘に之を說明するの外はない、若し眞實、無遠慮に詮索したらば、是れまで並べ立てた事實よりも、尙ほ一層甚だしい事實があるかも知れない

是れまで並べ立てた事實に據つて見ても、韓國に於ける皇室と政府との間、皇室と人民との間、及び政府と人民との間に、何等の溫かい關係の無いことは分明である、皇室は皇室で孤立し、政府は政府で孤立し、人民は人民で各別に孤立して居る、上に仁德なく、下に忠節なく、君は臣を爭はしめ、臣は權力利益の爭奪を事とし、有司は人民を以て收斂の器械と爲し、人民は有司を以て虎狼蛇蝎よりも嫌惡すべしと爲す、互に血なく、涙なく、更に秩序なく、紀綱なく、而して墮落、而して貧弱、眞に國家としての要素を備へて居ない、國民として其の國家を支持するに足るだけの性格を備へて居ない、亡國後、既に幾十年を經て居ると評されても、誠に致し方ない有樣に陷つて居る

斯る有樣に陷つて居る邦國に對し、我が政府は果して如何なる態度を執つて之に臨んで居る乎を見るに、實に言ふも情けない、全く獨立の一國として待ち、殆んど對等國同樣の資格を以て之に應對して居る、今に至るまで尙ほ儼然と公使を置き、公使館を存して置くのは、獨立の一國として待つて居る何よりの實證ではないか、些細の權利利益を獲得するにも猶ほ公式の交涉を爲し、事每に協商、條約等を用ひて、始めて之を確定すると言ふ煩雜な手續を履んで居るのは、殆んど對等國同樣の資格を以て之に應對して居る何よりの實證ではないか、韓廷の君臣は前にも言つた通り、私利私安を貪るに汲々たること勿論であるが、他の半面に於ては又虛榮を尙び、形式に拘はり、小理屈を並べることに長じて居る、斯る連中に對して恰かも獨立對等の國民であるかのごとき待遇を爲すのは、徒らに彼等の慢心を煽揚して我れを與みし易しと想はしむる禍因たるに過ぎない、對韓政策の功績の擧らないのは實に此の結果である、言換ふれば彼れを獨立の一國として待ち、殆んど對等國同樣の資格を以て之に應對して居るのは、我が對韓政策が優柔に流れ、姑息に流れ、卑屈に流れ、怯弱に流るゝ病弊の根源である

或は多年、韓國の獨立扶掖を標榜とした成行もあり、且後進の悲しさには大に第三國に遠慮しなければならぬ必要もあるから、一圖に急激の處置を加ふる譯には行かぬと言つて之を辯疎するものがあるかも知れぬ、成程、最初はさう言ふ事情も有つた

てあらう、されど今日と爲つては最早ソンな顧慮は入らぬ、廿七八年の日清戰役並に今回の日露戰役で、韓國の爲めに注いだ幾多の心血と莫大の資財とは、天然の地理、多年の歷史、及び通商貿易の關係等を外にするも、一の露西亞を除くの外、總べての外邦をして韓國に於ける我が宗主權を認めしむる有力の材料と爲つて居る、否、露西亞とは雖も、最早全く之を爭ふ能はざるまでに至つて居る、況んや地理、歷史、貿易等の關係に於ては全く他に比類なき地位を占めて居るから、絕大なる戰勝を得たる今日に於て、韓國を我れの意の如く處分せんとするも、誰れ一人、正面より之を爭ふものは無い、却つて宇內萬邦悉く既に韓國を以て我れの保護國たることを認めて居るほどである。且、韓國を我れの意の如く處分せんとするには、之を軍事行動の時代に於てする方が最も實行し易い、軍事行動の時代に於ては、處分を受くべき當の本國たる韓國は勿論、幾多の第三國と雖も、我が堂々たる軍容と、赫々たる戰功とに眩惑せられて殆んど何等の故障を挾むべき意氣も餘裕も無い、韓國を全然我が保護國と爲すことは、道理の上から見ても利害の上から見ても、當然のことであつて、我れは白昼公然之を實行して少しも憚る所は無い、故らに軍容や戰功の力を假りて他の耳目を眩惑せしむる間に、竊かに我が志を遂ぐると言ふやうな狡猾な、後暗いことをする必要は寸毫も無いけれども、斯る國家的の大事業は成るべく實行し易い時機を選んで之を實行するが、活きたる政治家の活きたる働きであり、且は國家の爲めにも其の勞費を少くして其の實績を擧げ得る所以の途である、加之、時局、一旦平和に復し、世界の視聽冷靜に歸して沈思の餘裕を生じたる後、韓國處分問題のごときを實行せんとすれば、今日のやうな國際的暗鬪の劇しい時代に於ては、直接に利害の關係なき邦國も、他日容喙の地を保留せんとして思ひがけもなき故障を容るゝを常とする傾きがあるから是等の障礙を豫防する自衛的必要の上よりするも、軍事行動の時代に其の處分を終了するを得策とするのである、此點より見れば、對韓處分は業に既に遲れたりと言はざるを得ない

されど、遲れたりと雖も、尙ほ爲さゞるには優る、今日は講和問題など起りて半ば外交の時代に入りかけたけれども、孰れかと言へばマダ〳〵軍事行動を主とする時代であるから、此際、根本的に韓國を處分して少しにても後日の累ひを殘さぬやうに仕て貰ひたきものである

根本的に韓國を處分するとは、他に非ず、韓國皇帝を納得せしめて主權の一切の代理行使を我國に委任せしむることである、外交は勿論、財政も、軍事も、警察も、其他あら

ゆる內治も、悉く之を我國の手に收め、我が指揮監督の下に之を施行せしむるやうに運ぶことである。韓國皇帝は先きに詳述した通り、內は朋黨の分立に心を苦め、外は列國の爭衡に意を惱まし、信賴すべき臣下としては一人も無き爲めに、日夜斷えず不安の念に襲はれて居られる、故に若し說くに其の人を以てし、動かすに其の途を以てし、其の身、其の地位、其の一族の安全を保障するに足るべき明確の方法を講じて遣れば、韓國皇帝は現在の境遇に處して危險を感ずるの餘、大小となく親ら考量裁斷を加へざるを得なかつた內外政務の煩累より免かれ、全く積荷を卸した心地して一國の君主たる光榮と利益とを安らかに味ふことが出來るから、必らず喜んで主權の一切の代理行使を我國に委任せらるゝことに爲るであらうと想ふ、假りに數歩を讓り、皇帝は假令之を喜ばれざるにしても、我れは多年の國是、開戰の目的並に內外の形勢等に照らして、斷々乎として之れを强行するの外はない、皇帝を要し、皇帝に迫りても之を實行するの外はない、然らざれば韓國を我が保護の下に置き、我れの保護國と爲すと言ふのは、名のみにして永く其の實を擧ぐることが出來ない、のみならず、之が爲めに兩度までも稀有の大戰を開きて幾多の心血と莫大の資財とを犧牲としたる我國は、却つて復たしても其の累ひを受くるに至るに相違ない

主權の一切の代理行使を我國に委任せしむることゝ爲せば、我れは直ちに朝鮮總督――名前は何と仕ても差支ないが、先づ朝鮮總督とても言ふやうなものを設け、之に廣大なる權威を與へ、其の下に多數の日本人を入れ、各省廳の韓國官吏を指揮監督して庶政を處理せしむるやうにするが宜しい、斯くすれば勿論公使を置く必要は無い、公使館を存して置く必要も無い、事每に公式の交涉を爲し、大小となく協商、條約等を用ひて之を確定するやうな煩雜な手續を履む必要も無い、何事も朝鮮總督の權內で、手ッ取早く、之を運ぶことが出來、隨つて本來の標榜たる韓土韓民の扶掖啓發を速かに完うすることも出來るのである。徒らに虛榮を尙び、形式に拘はり、小理屈を並べ立て、殊には民を民とせずして收斂苛虐、私利私安を貪るを是れ事とする韓國の君臣を相手に、正面から對等な公式めいた交涉などを仕て居ては、何時まで經ても、啓發の實、保護の實が擧らう道理が無い

公使や、公使館のことを言へば、元來、今日まで之を存置してあるのが、既に大なる間違ひである、日韓議定書や、日韓協約などの表面の正文は兎も角、眞實の目的は韓國を全然我が保護の下に置き、我れの保護國とするに在るのだ、されば其の議定協商の出來上り次第、我れは我が公使、公使館を撤退し、彼れには彼れの駐派各國公使を引上げ

させて、韓國外交の一切は之を我が手で掌理するのが當り前である、さうすれば、大躰に於て韓國が既に日本の保護國たることを認めて居る英米獨佛以下の列國も、少なからざる經費を投じて韓國に公使、公使館を存置するの無益なるを覺つて、必ず之を引上ぐることにするに違ひない。然るに其の保護者の地位に立つべき我國が、尙ほ韓國を獨立の一國として待ち、殆んど對等國同樣の資格を以て之に應對して、公使も置く、公使館も置く、事每に公式の交渉を爲して居ると言ふ有樣だから、何等かの機會を得て容喙の餘地を保留しやう、何等かの機會を得て種々の權利利益を占獲しやうと心がけて居る列國は之を善き潮として其公使、公使館を存置して居るのであるが、他國をして依然其の公使、公使館を韓國に存置せしむるのは、決して我國の利益でない、存置せらるゝ幾多の公使は、單に人種的感情の上からも、若くは己れの功名を立てんとする上からも、我が對韓處分に對して陰に陽に障害を加ふるに至るは、必然の理勢である、イヤ、某國の公使の如きは、現に種々の苦肉策を弄して、日韓の溫かき關係を冷却せしめんと力めて居ると言ふ噂さてある、實否は兎に角、我國が依然、公使、公使館を存置する事の一大謬計たるは、斯る噂さあらしむるだけにても、分明てはないか

世には韓國の外交にして我手に歸すれば、保護の實は擧つたやうに心得、他は暫らく顧みないでも宜しい、と言ふやうなことを說くものがあるが、是れも矢張り大なる間違ひてある、韓國の外交にして眞實我が手に歸しても、他の財政、軍事、警察並びにあらゆる內治事務にして、盡く我が指揮監督の下に施行さるゝやうに爲らなければ、所謂啓發保護の實は十分に擧らない、啓發保護の實が十分に擧らなければ幾多の列國中には之を機會として慮外の容喙を爲し來るものが無いとも限れない、是れては佛作つて魂入れずてはなくして、折角、魂があつても之を入れる佛が作つて無いと言ふものだ、況して其の魂たる外交の實權が未だ全く我が手に歸せないと言ふに至つては、眞にメチャ〳〵の次第だ、情ない沙汰てはないか

詮するに、就れの點から見ても、是迄の對韓政策は謬つて居る、大に謬まつて居る、是れは我が歷代の政府が韓國の皇室、官吏、人民に對する觀念を誤つたのと、第三國に對する遠慮が過ぎた結果である——元來、伊藤、井上の兩元老を始め、我が要路有司の中には隨分幾度も韓國の實情を見聞したものがあつて、其の上下に關する智識は十分に得て居る筈であるのに、今日までも尙ほ韓國を獨立の一國として待ち、殆んど對等國同樣の資格を以て之に應對すると言ふのは、第三國に對する遠慮の過ぎたことも勿論であらうが、實は極端に言へば——人間と人間でないものとの見界が付かない

て對韓政策を立てた結果と言つても差支ないと思ふ。斯る誤謬の觀念より劃出した對韓政策は、固より今後一日たりとも繼續してはならぬ、第三國の意嚮も最早之を顧慮するに及ばない、尙ほ軍事行動を主とする今日の此の好機を利用して、一日も速かに根本的對韓處分を實行するが宜しい、即ち韓國皇帝に勸めて主權の一切の代理行使を我國に委任せしむるやうにするが宜しい、此の根本的處分にして解決すれば、他の枝葉の對韓問題は釋然として自から刃を迎へて解けるのである

統一なき駐派官

對韓政策が根本的に謬つて居ることは、既に詳述した通りであるが、尙ほ其の上に、我れより駐劄派遣してある諸官吏の間に、何等の統一も聯絡も無いと言ふ一大缺點がある、イヤ、我が駐派諸官吏の間に何等の統一も無いのは、對韓政策が根本的に謬つて居るために生じ來る必然の反映的現象とでも言ふべきであらう

先づ見渡した所、公使がある、公使の外に軍司令官がある、公使、軍司令官の外に、更に幾多の顧問がある、其の人數のみの上より見れば、決して多きに過ぐと言ふべからざるのみならず、眞實、韓國を我れの保護國と爲すに就ては却つて少きを感ずるやも知るべからざれど、只、惜むべきは其の間に何等の聯絡も無い、無論、何等の統一も無い、夫れゆゑに根本的に謬つて居る對韓政策は、其の運用に際して益す齟齬杆格を釀して、愈よ之が實効を擧ぐる能はざるに至るのである

根本の議論は暫らく別とし、是迄の有樣であつても、公使か、軍司令官かに最高の權力を與へて駐派の諸官吏を統一させるのが便宜でもあり、且必要でもあつたのだ、されど、其處に爲ると、公使は公使、軍司令官は軍司令官で、其の地位は畧ぼ相同じく、其の職權は全く相異なる所から、孰れを其の間の最高權力者とすることも出來なかつたと見えて、初めより之を並立せしめてあるのみならず、公使は多年の實驗から對韓の事、我れにあらずんば誰れか能く之を辨ぜんと言ふやうな抱負があり、軍司令官は戰勝の光榮を擔ふの身ゆゑ、韓國に於ては誰れか能く我威望に敵せんと言ふやうな意氣込があつて、故意でなくとも自ら兩々相下らない、其間の罅隙に乘じて韓廷內外の朋黨連が互に各々利する所あらんが爲めに、得意の世辭を振舞はし、有ること無きことを飾り立てゝ兩者の心を動かさんと勉むるから、兩者も之に引込まれて、自然に相猜疑し、相嫉妬し、相衝突し、相反撥するに至るを免かれない

我れ〳〵が京城に遊んだ頃は、公使が一度ならず二度までも歸朝して本國政府と

種々打合せを仕た結果、軍司令官との間も頗る滑らかに爲つて居ると言ふ話で、我れ〳〵も兩者の口から他の不平談などをこそ聽きたれ、双互間の猜疑がましきこと、嫉妬がましきこと、怨望がましきことは少しも聽かなかつたほどであるが、それでも韓京の政海に起伏する風濤波瀾などを見れば、兩者暗闘の有樣が何となく目の前にチラックやうな思ひがした。一例を擧ぐれば、現に我れ〳〵が京城滯在中の問題と爲つて居つた亡命客特赦の件――陸軍に關係ある三四の韓人にして我國に亡命し居れるものを特赦せんとするの件は當時の軍部大臣李容翊から議政府に提議は仕たものゝ、内實は軍司令官の指金に出たものでして――其の頃、渡韓せられた石本陸軍次官なども、之には特に言葉添へをせられたとか言ふことであるが、公使の方では大躰の對韓政策の上から餘り之を喜ばない、邪魔をするほどでも無かつたやうだが、固より之を贊成はせない、折柄、兼ね〳〵公使館側を以て指目せられて居る李根澤の一派は、熱心に特赦の提議に反對する、元來、斯る特赦の問題は法部大臣から持出すのが當り前である、それを軍部大臣が横合から之れを提議すると言ふのは、全く僭越の沙汰など〻八ヶましく言ひ出して、竟には軍部大臣の彈劾問題を持出し、一旦は多數で之を可決するに至つた程である――是は李根澤一派が平生李容翊一派を政敵として互に

權力を競つて居る結果には相違ないが、一ッは又我公使が軍司令官の指金に出た特赦の提議を快く思はないことを知つて、其意を迎へんとしたるに外ならぬのである、而して公使館側は別段、其反對運動を制止し樣とも仕なかつた、若し公使と軍司令官と、公使館側と軍司令部側と、本統に一處に爲つて壓迫を加へたならば、三四の亡命客特赦の如き――斯る問題を此際に持出すの利害得失は暫く措き――小問題は忽ちにして解決し、韓廷内に斯る大波瀾を起させぬことが出來たであらうと思ふ

猶ほ夫れよりも少しく以前の話であるが、李容翊を大邱の觀察使に貶したのは、朋黨排擠の結果でもあらうが、實は公使館側の力も大に與つて居ると言ふことだ、然るに又間もなく之を引上げて軍部大臣の要地に就かせたのは、矢張り彼れを量員にして居ると稱せらるゝ軍司令部側の力であると噂されて居る、眞僞のほどは慥かには知らぬが、兩者の間に何等の聯絡、何等の統一なきのみならず、却つて多少の衝突、多少の暗闘が今も尙ほ行はれつゝあることは、是等の一波一瀾に依つて粗ぼ想察することが出來るではないか、若し溯りて夫れよりも以前の事實を窮むれば實に情けない、恥づかしい、苦々しい事ばかりと言ふ話だ

されば、幾多の顧問の間柄はドウであるかと言ふに、是れは又、幾樣の種類もあつて

猶ほ一層何等の聯絡も無い

一々其の人に就て之を言へば、財務顧問の目賀田種太郎君と、外交顧問のスチーブン君とは、所謂日韓協約の正文に基づき、日本政府より直接に推薦した顧問であるから、其權威も其氣位も共に自から高い、言はゞ旗本顧問とても稱すべきであらう

宮內府顧問である加藤增雄君は、曾て公使を仕て居る間に、韓國皇帝のお氣に入つたとかで公使を罷めた後、ズル〳〵ッと韓廷の顧問と爲り、今では宮內府に這入込み、加藤の言ふことなら仕方がない、マアー〳〵聽いて置け、と言はれる位ねまでにお覺えが厚くなつて居り、加藤君も人情の自然として忠勤を韓國皇帝に勵み、韓國の眞實の顧問は、己れ一人と言ふやうな顏をする傾きがあると言囃されて居る、言はゞ韓國側の旗本顧問とでも稱すべきであらう

軍部顧問の野津鎭武君は、元と公使館附武官を仕て居つて、夫れから軍部の顧問に滑つた人であるが、是れは公使館又は本國政府の推薦もあらうけれど、孰れかと言へば自己の力で其の地位を占めた傾きが無いでもない。警務顧問の丸山重俊君は、本國政府よりの推薦派遣に係り、此の人に限り、何事に就ても公使あたりと打合せを仕て居るやうであるが、何分、財政とか、外交とか言ふ目立つた地位でないものだから、顧問としての格が聊か低い。學部の參與官である幣原坦君は、顧問の名を嫌ひ、態々參與官と言ふ名稱を用ふることに仕たとか、させたとか言ふ噂さであるが、孰れにしても財務、外交あたりの顧問より格がズッと低い。要するに此の三人は、其の地位より比較して外樣顧問とでも稱すべきであらう

尙ほ其の外に色々な名義を以て各部の事務に參與して居る日本人も少なくないやうだけれど、其の中で顧問と言ふ顧問、際立つた地位に居る顧問は、先づ以上の六人であらう、が、此の六人は今も言ふ通り、旗本顧問、外樣顧問と言ふやうな風があり、同じ旗本顧問の中でも一は日本側の旗本顧問、又同じ外樣顧問の中でも一は自力で成り上つたもの、一は本國より推擧されたもの、と言ふやうな鹽梅に區別されることに爲つて居るから、ドウしても其の間に甘い聯絡や統一が着くべき道理が無い、況して其の上に立ちて之を統一すべき公使と軍司令官との間柄が既に述べた通りの有樣である以上は、益々其の間を疎隔させるとも、決して甘く之を纏めることの出來ないのは、必然の理勢と言はなければならぬ

各顧問の間に、斯くの如く何等の聯絡もなく統一もないとすれば、彼等が各々其の爲さんとする事業の上、改革意見の上に、矛盾があり、衝突が起るのは、亦當り前である。

其の實例の一二を擧ぐれば――先頃、財政整理の必要から、財務顧問が學部省設置の無用を唱え、之を廢止しやうと提議したことがある、處が學部の參與官は之に反對して遂に沙汰止みに爲つたことがある――又、矢張り財政整理の必要から、韓國の軍事費に大削減を加へんとしたことがある、是れには公使館側も大贊成で、ナーニ、韓兵などは一人も置く必要はない、之を全廢するが宜しい、と力味出した所が、其處に爲ると軍部顧問は喜ばない、削減は已むを得ないとしても、甚だしい削減は急激に過ぐると言つて之に楯を突く傾きがあつたから、珍らしくも軍司令官が調停に出かけ、折衷說を持出してヤッと之を折合せたと言ふ話である――是等の反對運動は何時も必らず關係の顧問から提唱せらるゝと言ふ譯ではなく、元は各省廳に割據する韓廷の朋黨が互に其の權力の消長を爭はんとするの餘に出づるものが多いが、各顧問とても己れの關係して居る省廳の人員經費の上に削減を加へらるゝことを喜ばないのは、人情の自然であるから、其の人情に驅られて自然に彼れ等の反對運動に加擔するやうに爲るのである、彼等韓廷の朋黨連は巧みに其の弱點に附け込み、各々直接緣故ある顧問を擁して茲を先途と立働くものであるから、運動は益々劇しくなる、波瀾は愈々大きくなる、斯くて實行しなければならぬ事業も、改革意見も、容易に之を完うするの時機なきに陷るのである――若し、公使、軍司令官の間は勿論、各顧問の間にも十分の聯絡があり、十分の統一があり、如何なる些細の事柄を遂行せんとする場合にも、協心戮力して韓廷に臨み、聽かざれば直ちに一致の威力を以て之を壓迫するやうにせば、斯る見苦しき、忌々しき現象などの出て來る餘地などは無いではないか

兎も角も、斯る狀態は一日存すれば、一日我國の不利益である、即刻にも之を改善して韓國保護の實を完うするの途を講せなければならぬ、其の途とは、前にも言つた通り、韓國皇帝に勸めて主權の一切の代理行使を我國に委任せしめ、之と同時に朝鮮總督とでも稱する重官を置き、之に廣大の權力を與へて一切の事を指揮監督せしむるに外ならぬのである

在韓邦人の惡弊

對韓政策の謬つて居ることは、勿論であるが、其の外、尙ほ個人として韓國に在留する本邦人の間にも、種々の惡弊が存在して居るやうである

手ッ取り早く實例を上げて之を示せば、先きに韓國皇帝の地位境遇を說く場合にも一寸述べた通り、日本に潛伏して居る亡命客の首を刎ねて來ると言ふことを種に

して、皇帝の內懷をユスル日本の羽織ゴロッキが少くないやうである、皇帝は亡命客のことゝし言へば、所謂蛇蝎のごとく忌み、嫌ひ、恐れて居られるから、何時もウカ〳〵と之に乘せられて其の運動費を支出せらるゝのである、處が、ゴロッキ先生本來の目的は皇帝を誑かして金錢をセシムるのに在るから、金錢をセシメて仕舞へば、跡は知らぬ顏の半兵衛を極め込むのである、斯くて皇帝の懷より支出せしむる金額が年々數萬圓より十數萬圓の多きに達するとは、誠に罪な話であるのみならず、甚だ善からぬことである

韓人と結托し、又は韓人を使嗾して、色々善からぬことを働く本邦人も亦少くないやうである、夫れだけならばマダ宜しいが、其の韓人が不法背律の廉を以て警察の手に捕縛せられ拘禁せられた場合に、相棒の本邦人が警察に怒鳴込んで之を連れ去るやうなことすらある、現に我れ〳〵が京城に着いた少し前、警察に闖入して罪跡明白なる韓人を拉奪して去り、之が爲めに退韓を命ぜられた本邦人があつたと言ふことを聽いた

韓人の金持の子供をダマかして虛僞の借用證書を書かせ、又は五百圓の手取りに五千圓など、言ふ途方途徹もない證文を入れさせ、期限の來た場合に其の當人の支拂なきを楯として當人の親、又は親戚に辨償を迫り、グヅグヅ言へば其の財產を差押へるやうなことも亦少くないやうである、之に就ては我が領事なども折々當惑するさうで、仁川の加藤領事のごときは、見るに見兼ねて斯る本邦人を戒諭し、其の不法行爲を改めさせたことも一再でないと言ふ直話であつた、如何に無智の韓人相手とは言へ、餘り非道な遣方ではないか、無智ながらも斯る姦計には隨分長けた韓人もあつて、時々は却つて本邦人に背負投げを喰はせることがあるさうだ

斯る非道な遣方は、獨り韓人に對するに止まらない、日本人の經營に係る京釜鐵道會社などに對しても、現に之を實行した實例がある——と言ふのは外でもない、一體本邦人が韓人より田畑其他の土地を買ふのに、韓國には地券と言ふものがないから、其の納稅證を以て地券に代へる、又は買つた後、二年、三年引續いて本邦人より納稅し、其納稅證を持つて居れば、夫れで所有權は確實に本邦人の手に移つたものと見做す是れが不文の大方針に爲つて居る、處が、此處に姦譎貪慾な本邦人があつて、此の方針をも熟知し居り、且京釜鐵道會社が其の鐵道の敷設經營に必要なる敷地を買ひ求めんとすることをも知り、韓人を誑かすか、又は韓人と結托するかして其の敷地に當る所の地面を自分の手に入れ、納稅證を楯に所有權の存在を主張して高價の賠償を貪ら

んとする、本來ならば韓人の所有である土地だから、無代價か若くは廉價で會社の敗地とすることが出來る筈であるのに、其の所有權が表面本邦人の手に移つて居ると言ふバツかりに、會社は意外な餘分の代價を支拂はねばならぬことになる、若し之を拒まうとすれば、納稅證は所有權の移動を確定すと言ふ不文の大方針を破壞し、本邦人の韓國土地購買に關して我れより不便を釀し障礙を惹起すことになる恐れがあるものであるから、會社は泣く〳〵も其の不法の要請に應じて敗地買入れの爲めに餘分の支拂を仕た金額が、殆んど七八十萬圓以上に達したであらう、と言ふ鐵道會社關係者の直話であつた。斯る類似の事は、內地にも折々其の例が無いでもないが、兎に角、身で身を食ふもので誠に愚かな話である

身で身を喰ふと言へば、亦是れのみに止まらない、本邦人が韓國の田畑其他の土地を買ふ場合にも、同じ弊を見ることが多い、夫れはドウであるかと言ふに、密陽附近なら密陽附近、大邱附近なら大邱附近で、或る本邦人が廉價で土地を買ひ始むると、其處へゾロゾロと集まつて行つて各々之を買爆るものであるから、忽ち其の地價を糶上げる、今まで六七圓で買ふことの出來た一反の畑は十圓若くは十二三圓も出さなければ買へないと言ふことに爲る、結局、誰れの損失に爲るかと言へば、同胞たる本邦人の損失に歸するのである。土地の買入れのみならず、何か本邦人の職業で稍や有利のものと見れば、忽ち爭ふて之を眞似る、競爭する、其の結果は、即ち共倒れと爲るに相違ないけれども、決して之を慮からない。人が密陽附近で廉價の土地を買へば、己れは大邱附近で廉價の土地を買はうとはせぬ、矢張り同じ密陽附近に行つて買ひ爆る、人が飲食物を賣つて利益を得れば、己れは衣服類を賣つて利益を得やうとはせぬ、矢張り同じ飲食物を賣つて競爭しやうとする、全く喰合ひだ、同志打だ、情けない次第ではないか

在留邦人の心掛けがコンな風であるから、各地の居留民團なども纏まりの善からう筈が無い、表面にこそ居留民會を設け、民役所を置き、民長以下の役員を並べ立てゝ、立派に纏まつたやうに見えて居るけれど、內實は矢張り種々の暗闘、種々の衝突、種々の排擠が多いやうである、京城、仁川は勿論、其他の要地に遊んだもので、個人々々に就き、少しく立ち入つて話を聽く中には、必らず他の同胞に對する不平、怨望、非難、攻擊の聲を耳にしたであらう。中にも大邱などは最も甚だしい處で、現在一千五百名に足るか、足らない位の居留民でありながら、在來の居留民會の外に居留民會刷新會なるものを組織し、血で血を洗ふやうな鬩ぎ合ひを仕て居る、協力一致の念に乏しいことは、

日本商人一躰の通弊ではあるけれども、慣れぬ異郷に出かけて新たに利益を開拓しやうと言ふ場合にまで斯るブザマを演ぜないでも善ッさうなものである。猶ほ仁川での出來事であるが、同地に在留邦人の組織した穀物協會と言ふものがある、其の協會が日露開戰の後、間もなく大韓商社と稱する臨時の一部を設け、組合員より應分の集金を仕て、之を資本に軍需品の賣込みを爲すことゝなつたが、何時まで經つても其の經營當事者より何等の報告も無い、段々内輪を調べて見ると、利益金などは影も形もないのみならず、元と集金した資本金にまで喰込て居ると言ふ始末、夫て大騒ぎと爲つて遂には告訴沙汰にまで及ぶ——何を言つても仁川の居留民の重なる面々は、悉く之に關係して居るものであるから、一時は仲々の騒ぎで、行先きドッなるかと危ぶまれるほどであつたが、加藤領事を始め、其他の有力者の調停で、我々の仁川に着いた頃、漸く收まりは收まつたやうである、が、斯る苦々しいことがあつては、益々將來に於ける協力一致の經營を妨げる禍根と爲るのである

先きに田畑其他の土地を買ふ場合に、本邦人が無暗に買煽りて地價を騰上ぐると言ふ話を仕たが、夫れとは違ひ、已れは實際、耕耘などする積りはなく、單に地價の騰るのを見込みて田畑等の買占めを遣る連中もある、例の大倉組などは即ち其の一ッで、今日までに買ひ占めた地面も少なくないと言ふことだ、大倉組にッンなことがあるのは別に怪むにも足らないが、是れも廉價に田畑を買つて眞面目に耕耘を遣らうとする正直な本邦人の爲めには、矢張り其の血を吸ふ冷酷の仕方で、結局、韓國に對する移住開拓を妨害する基と爲るのである。猶ほ韓國の土地を買つたものゝ内、人知れぬ間に、其の境界を標示してある棒杭を打撲げて地面の唯取りをする横着の連中も少くないさうだ、其の横着の連中の内に、韓廷の要務に參與して居るものもある、と即いては聊か驚かざるを得ないではないか

其の外、特に注意すべき一ッの悪弊は、在留邦人の韓人に對する待遇てある、本邦人の韓人を待つ有様を、有の儘に言へば唯、一の拳骨があるのみてある、唯、一の土足があるのみである、氣に喰はなければ直に殴る、マゴ〳〵すれば直ちに蹴る、殴る、蹴るの外には能はない、婦人客など乘せた日本人の車夫などは殆んど手柄顔に行先きの韓人を突飛ばす、更に殴る、蹴る、夫れは〳〵見るに忍びないほどのことをする、又京釜鐵道では其の車掌、驛夫などがステーションの敷地内て勝手に放尿を仕て居る、韓人も差支ないものと思つて之に眞似ると、直ちに打据える、夫れだけならばマダ宜しい、更に韓人の乘客を殴つたり蹴つたりして居るのをすら往々見受ける、金を拂つて汽車に

乘るを得意樣を、氣に喰はぬグズ〳〵するからと言つて、拳骨を喰はせ、土足を加ふるなどは、如何に無智蒙昧の韓人に對してとは言へ、餘りに不人情、沒道理の遣方ではあるまいか。其他、韓人相手に商賣をする連中なども、唯一圖に其の財囊を絞り上げるやうなことばかり企てゝ居るが、是も亦大なる間違ひである――元來、韓國の人民は其の總數如何ほどであるか、能くは分らぬけれど、多分一千萬か、一千二百萬位には達するであらう、之を一ト揉みに揉み潰すなど言ふことはドツしても出來ぬ、少數のアイノ族や、臺灣の生蕃などのやうに一隅に押附けて仕舞ふ譯には行かぬ、夫れゆえに成るべくヤサしく、穏かに之を待遇し、且日常必要の日本語を解し、普通の讀み書きの出來る位な教育を施こし、以つて我が手足と爲すやうにするが宜しい、さすれば躰力は强し、賃銀は廉し、柔順ではあるし、必らず喜んで我が用を爲すに違ひない、殊に彼れ等韓人は前にも言つた通り、支那人のやうに貯蓄心が無い、其の日に儲けた金は其の日の飲食に使つて仕舞ふと言ふ風であるから、彼等に相當の勞働を與へ、相當の利益を分與しても、一面に彼等の嗜好に投ずる日常の飲食物其他を賣込む工夫さへすれば、彼等に分與した利益は循環して結局我が手に落つるやうに爲る、斯くて循環又循環、一千萬か一千二百萬の韓人は、我が爲めに好箇の手足とも爲り、又好箇の市場とも爲るのである――之を思はずして、今日までのやうに、毆る、蹴る、財囊を絞り上げる、と言ふ非道な遣方ばつかりを仕て居れば、如何に無氣力の韓人とても、何時か之に激して多少の反動を惹起さないとも限れない、反動を惹起さないまでも、喜んで我が用を爲さないから、それだけ何かにつけて、不便を感ずるに相違ない、イヤ、農商務省の技師て、韓國南部の鑛山を視察した人の實驗談に據ると、或る處などにては其の鑛山附近の村民が一致して實地探撿を拒む、それを强ひて探撿しやうとすれば竹槍席旗で抵抗する傾きがあつたから、生命の危險を慮かつて遂に空しく引還したと言ふことであつた、是れは今日まで鑛山採掘又は砂金採集に這入り込んだ本邦人が勝手に其の附近の民家を喰荒らし、最早愈々利益を得る見込なしと見れば、何等の報酬をも與へずして引上げたものが多かつたものであるから、農商務省の技師も亦矢張り其の傳て來たナーと早合點して、斯くは反抗したのである、無智、無氣力の韓人だからと言つて、餘り非道な遣方をすれば、結局、斯る不利の結果を招くに至るのである

總ずるに、强かるべき我が對韓政策は却つて軟弱に過ぎ、穏かなるべき本邦人の韓人個々に對する待遇は却つて冷酷横暴に失して居る、之を引繰返してアベコベにすれば、丁度對韓經營の眞諦を得るやうに爲る、意を韓國に注ぐものは、一日も速かに此

の眞諦を得ることに努めなければならぬ

ワリヤーグ浮上る

ワリヤーグ浮上れりとの報告は、何人も歡んで之を迎へるには相違ないが、我れ我れは其の引上工事の實地を見て居るだけに、一層愉快な感じがする

卅八年六月二十日のことであつた、仁川碇泊場司令部の部長中野少佐の好意に依り、司令部の小蒸氣に搭乘して引上工事の實地を見に出かけた、丁度、潮が退いて工事の最中であつたが、刺を通ずると工事監督の次長である太田大佐が先づ我れ〳〵を迎接せられ、次て太田大佐より監督長たる新井少將に紹介せられ、少將、大佐の兩官より交る〴〵工事實況の説明を聽いた

ワリヤーグの船體は、潮が退いた場合にも全く海水中に沈んで居て、少しも之を見ることが出來ない、唯、司令塔の上部――我が威力强き彈丸で其の厚き鐵板などを捻ぢ折られたまゝの慘狀を存した上部が、水面上に現はれて居るばかりで、更に其の上に手輕な物見臺見たやうなものを拵へ、新井少將以下は潮が退いて工事が出來るやうに爲る度毎に、其の家とし居られる座乘船から此處に出て來て監督を仕て居られる、我れ〳〵が會見して工事の實況を聽いたのも、此の司令塔頂の物見臺見たやうな上であつたのだ

仁川港は世人も知つて居るであろうが、潮の干滿の差が三十二尺に達するのである、三十二尺と言へば世界にも類ひ稀れなるほどの高い指し引きであるのだ、其の干滿の差の高い潮が、指す時には三時間で滿ちて仕舞ひ、引く時には五時間で干て仕舞ふと言ふほどであるから、指し、引き、共に潮流が急であるとは言ふまでもない話しである、而して其滿潮の時は、上部を現はして居る司令塔は勿論、更に其上に拵へてある物見臺見たやうな工事監督の場所まで、海水に浸されて仕舞ふから、滿潮の間はドウしても仕事するとが出來ない、仕事するとが出來るのは、干潮の際で、ワリヤーグの沈んで居る邊が水深四十尺から五十尺までの十尺内外を上下する間で、其十尺内外を上下する間は上げ潮、下げ潮、共に各々五時間位に過ぎないから、實際仕事する時間は一晝夜を通じて僅に十時間ほどである、其跡はドレほど勞働の餘力があつても海水に妨げられて如何ともすることが出來ない、尙ほ其外に、折々ヒドい不穩な天候でもあれば――ワリヤーグの沈んで居る邊は、大小兩月尾島の外側に爲つて居つて、直接に外洋の風濤を受くるから、其の影響は一層甚だしい、爲めに工事關係者は各々其の

乘組船にシヤ込んで居るより外に仕方がないから、實際仕事をする時間は、月に積つても思ひの外に少ないと言ふことであつた

潮の干滿の差は高い、潮流は上下共に急である、仕事をする時間は少ない、風濤の荒いことは多い、斯る中に立ちて、新井少將、太田大佐以下は少しも之を苦とする模樣もなく、二百二十人内外の部下を督勵して熱心に其の工事に從事して居られた、我れ我れも其の司令塔頂の物見臺見たやうなる上に上り、初めて少將、大佐と相會し、兩官とも日光と鹽風とで、黑ン坊見たやうな色に燒け、中にも新井少將がホンの仕事着の粗服で、頰の瘠落ちた黑い顏の中から底知れぬ光りの目をシバ叩いて、謙遜な、眞摯な言葉を以て種々説明をされた其樣子を見もし聞もし仕た時は、是れまでの辛勞苦心を想ひ遣つて何となく胸が逼るやうな心持が仕た――が、少將以下の苦心空からず、卅七年の九月には全く横に寢て居つたワリヤーグが廿四度の角度にまで起上り、十一月から卅八年三月までは寒季の爲めに工事を中止し、四月に爲つて再び工事を繼けてから、間もなく三度の角度乃ち殆んど直立と言ふても差支ないまでの角度に起上り、今回愈々無事に浮上つたと言ふに就ては、ワリヤーグが開戰第一着に沈んだ船だけに、一層愉快な氣がする、其工事中、新井少將は誰れが如何に勸めても、唯の一度も上陸しなかつたと言ふことであるが、之につけても益々其の苦心勵精のほどが想ひ遣らるゝではないか、湖見たやうな旅順の港内で引上工事をするとは、譯が違ふことを世人も能く〳〵辨へて深く新井少將以下の功勞を謝するが宜しい

引上工事の經費總額は多分一百萬圓位であらう、と言ふことだ、尤も其の内の半額乃ち五十萬圓内外は、引上器械其他の有體動産として殘るものださうだ、殘る五十萬圓で斯る難海に於ける引上工事の實驗を買ひ得たるのみならず、七百萬圓もかけた一大巡洋艦を新たに我が手に入れた點から見れば、案外廉い代價と言ふべきではあるまいか、聞けば、引上工事に着手した時、外人の中には、之を一笑に附したものがあつたが、卅七年九月、廿四度の角度にまで引起した時、孰れも驚いたさうだ、愈々今回無事に浮上らせたと聞いたら、其の外人等は、ドノ位驚くだらう、流石に日本人は違ふ、管に軍艦を擊ち沈めるばかりでなく、又之を浮上らせることも上手だと感心するであらう、愉快の上の愉快ではないか

京城學堂

一日、京城學堂を視に行つた、京城學堂は明治廿九年四月、大日本海外敎育會の設立

に係り、韓人の子弟を教育する所で、渡瀬常吉と言ふ熱血家が校長を仕て居られる

生徒の現在總數は、我れ〳〵の行つた頃が百八十八人で、是れまでの卒業生總數が六十人に達して居ると言ふことてあつた

學年は一、二、三の三年に分ち、普通學を教授する傍ら、日本語に通ぜしむるのを目的としてある、多年の實驗から實物教育を主とすることゝし、中にも第三學年は重に一學年、二學年にて教授したことの實地演習を遣らせるやうに仕てあるさうだ

入學試驗と言ふほどのものは、別に無い、重に躰格を以て入學の要件としてある、躰格の宜い子弟がドウしても物の覺え、呑込みが善いさうだ、健康の精神は健康の身躰に宿ると言ふ格言は、矢張り無神經の韓人原にも應用せらるゝものと見える

夫れから割出して、躰操は必須學科の一ッとしてある、前には毎週の中、二度ほど日を極めて躰操を遣らせてあつたが、近來は毎朝二十分間づゝ必らず之を遣らせる、毎朝之を遣らせれば、矢張り夫れだけの効驗が見えると言ふことだ

學科は前にも言つた通り普通學を授ける目的であるから、地理、歴史、習字は勿論、算術、理化學等をも教へるが、他の學科の割合には算術、理化學が案外に善く出來る、是れは如何にも不思議な次第だと思つて、段々研究して見た所が、算術、理化學の教員を仕て居るものが、曾て我が東京の物理學校で修業した韓人て――韓人中でも秀才の聞えある韓人て、能く己れの呑込んで居る事柄を、韓語で甘く嚙んてフクメる結果てあることが分つたと言ふ話だ、成程、知識は十分てあつても生半可な韓語て教ふる本邦人の口授は、甘く韓人子弟の腹の底に這入らないてあらう、是れにつけても韓人子弟中の俊秀なものを選び出して、能ふだけ日本化させたきものだ

俊秀な子弟と言へば、渡瀬君の直話では先づ五百人に一人位の割合てあると言ふことだ、渡瀬君が此の六七年來、親しく世話された中でも聊か見込ありと思ひ、聊か望みを置くに足ると思ふものは、前の算術、理化學を教へて居る韓人を合せて僅かに三人に過ぎないとのことてある、是れては實際、韓人の教育を己れの献身的事業と心得て之に從事して居るものも、頗る心細き感を起さゞるを得まい

授業は毎日三時間乃至四時間、一學科の授業時間は二十分乃至四十分とのことてある、若し本邦内地に於けるごとく毎日五時間乃至五時間以上も授業することゝ仕たらば、根氣の續かぬのも勿論てあるが、食を欲するが爲めにも亦必らず逃れ去る、凡そ大人と小兒の區別なく韓人ほど他食を貪るものは餘り多く見ない、學校の生徒が食を欲する爲めに學校を逃れ去ると言ふのは、聊か可笑しくは聞えるが、平生の此の

習風に照らせ、ば別段、怪むにも足らない

珍しくも生徒は時間を違へずに登校する、三日間乃至一週間缺席すれば退校を命ずる定めに仕てあるから、缺席者も割合に少ない、入學希望者は近來殊に多いけれど、校舍の狹隘の爲めに十分に之に應ずることが出來ないさうだ、何とか然るべき途を設けて之れを擴張せしめたきものである

月謝は取らない、學校經濟は東亞同文會の補助で成立つて居る、今では多少の月謝を取つても、最早、夫れが爲めに生徒の減る氣遣ひはなからうと言ふことである

生徒は多く士族の子弟である、韓國の士族は一代制であるから、曾父は大臣を仕て居つたなどゝ言ふ子弟も少くないさうだ

卒業したものは、重に鐵道會社、郵便局等に使用せらるゝことに爲つて居るが、其の成蹟は先きに韓國人民の狀態を說明する場合に述べた通りである

京城の監獄

或日、又、監獄を視に行つた、監獄は殆んど京城の中央に當る朝鮮町の裏通り見たやうな處に置かれてある

監獄の建物は獄吏の執務所及び炊事場等をも合せて、其の總坪數凡て三百坪もあらうかと想はるゝほどのものである、囚徒を擊ぐ獄舍は幾棟にも分れ、其の棟々は又各々三ッか四ッかの部屋に仕切られて居る、一部屋の廣さは四坪から六坪位であるが、其の中に少くとも五六人、多き場合には十數人の囚徒を收容するやうに爲つて居る

同じ部屋には成るべく同じ種類の犯罪者を入るゝことに仕てある、例之へば租稅の滯納者は矢張り租稅の滯納者と同室させ、借金の支拂を延滯したものは矢張り借金の支拂を延滯したものと同室させ、阿片喫飲者は阿片喫飲者と、姦通者は姦通者と、强盜殺人者は强盜殺人者と同室させるやうに仕てある、が、若し部屋の都合と人員の都合とで思ふやうに行かない場合には、成るべく相類似した種類の犯罪者を同室させるやうにするさうだ

男囚と女囚との部屋の區別などは固より無い、矢張り同じ種類の犯罪者を同じ部屋に入れるのだ、夫れで他人の妻を犯した男囚が、他の婦人の夫と姦通した女囚と同室し、日夕膝を交へて居るなど言へる奇怪なる現象は、韓國の監獄に在りては毫も珍らしくない

比較的に輕き罪人は、其狹苦しい獄室に押込まれると言ふの外、身躰には別段拘束を受けないが、殺人などの重犯者に至つては、手枷、足枷若くは首枷を入れられて居る、長の年月、囚人と爲つて鬚髮蓬々たる痩せ衰へた顏を、首枷の上にヌット出して眼のみ異樣に光つて居る重犯者を視いた時は、流石に此世で地獄を見るやうな心地が仕て、何となく胸が惡く爲つた

胸が惡くなつた話をすれば、死刑執行の場所は又一入てある、其の場所は監獄構內の一隅にあつて、見るから物凄い、近年新たに拵らへた絞首臺――臺と言へど別段高く爲つて居る譯ではない、普通の粗末な板の間で、罪人を立たせる板の下を地下三尺ばかりも掘つて置いて、其の板がストンと落下するやうな工夫に仕てあるだけだが、兎も角も其の臺が二ッと、外に此の數百年來、幾萬千の首を斬り落して、血で錆び、齒が全く潰れて刀などゝは思はれぬほどに爲つて居る名高き首斬刀二々振りとを備へてある、近來は大抵絞首臺で死刑を執行するさうだけれども、時の執權者の激怒に觸れた國事犯罪者などは、折々、其齒の潰れた錆刀でニジリ斬りを遣られると言ふ話だ、イヤ、ニジリ斬りと言ふよりも、叩いて〳〵遂に首を叩き落すと言ふより外はない程までに齒が潰れて居るのだ、現に警務顧問の丸山重俊君が此春、歸朝の途に就かれた其の即夜とか、翌日とかに、韓廷の有司は鬼の居ぬ間に洗濯と出かけて、當時、國事犯罪者として拘禁せられて、居つた四十餘名の少壯者を、顧問の意に逆らつて悉く死刑に處したが、其の多分は例の錆刀で無慘なニジリ斬り、叩き斬りを遣つたさうだ、我れ我れが案內の獄吏に向ひ、此事を詰ると、彼等も流石に恥らひて、イヤ錆刀では遣りませんでしたと言ひ黑めんとしたけれど、論より證據、其の附近の板垣や土壁に飛び迸つた慘血の痕が、振りかけて掩はうとした石灰の間から歷々として指點することの出來るほどであつて、此の證據責めには彼等も遂に口を噤んだ、猶ほ此の錆刀を執つて刑を行ふ役目は、獄中の最重罪者に順々に當らしむる慣例と爲つて居るさうだ

朝鮮家屋の割合からすれば獄舍の囚室などは、殆んど目も當てられぬほどのものであらうと想像して居つたが、實地を見ればさうでもない、就れも板の間で其の板の間は案外に掃除が行屆いて居る、中にはキラ〳〵するほどに雜巾がけを仕た處すらある、普通人民の住家の醜陋汚穢なると引較べて面白い奇異な對照だと思つた

我れ〳〵が視に行つた頃は、囚徒の總數が三百人ほどであつたが、多い時は五百人位まで收容するとのことである、部屋と囚徒の數との都合に依つて、往々、未決囚と既決囚とを同室させる、飲食物は未決囚のみならず、既決囚にも差入を許す、差入れのな

き分に限り、監獄にて支給する、食物は米又は麥に赤豆を交ぜて炊いたもので、例の沈菜(漬物)などを副へてある、見た處だけては如何にも甘さうで、罪人には勿體ないほどのものゝやうに想はれた

既決の囚徒には固より夫れ〳〵年限を附してあるが、未決のまゝて容易に法廷の調べも受けず、何とはなしに久しく拘禁せられて居るものも少くない、租稅の滯納者や、借金の延滯者などは別段、期限を附せず、其の親類身内のものから代辨するまては、何時までゝも拘禁して置くと言ふ話てある、如何にも韓廷の獄風として有りさうなことだ

囚人の中に、巧みに日本語を操ることの出來るものが一人あつて、我れ〳〵の視察に行つたのを見るや否や、盛んに自分が寃罪で二ヶ年近くも其處に押込められて居ることを辨じ、アナタ方の力で何とか宜しく釋放の取計らひを爲して下さい、と言ふことを嘆願した、其のものゝ話だけを聽いては尤もと思はるゝ節もあつたけれど、さればとて我れ〳〵の手でドウすると言ふことも出來ないものだから、マア〳〵時節を待てと諭して還つたが、例の韓國官吏の爲すことなれば、隨分斯る類似の囚人もあるてあらう、我れ〳〵に嘆願を仕かけた囚人の本籍も姓名も聽糺しては置いたが、如何なる奇禍が更に其の身の上に振りかゝるかも知れないから、今は暫らく之を公けにせずに置かう、夫れは兎に角、監獄の囚人が外來の視察者に對して勝手に種々の懇談を仕かけ、獄吏も平氣て之を見逃して置くなどは、矢張り韓國てなければ見られぬ圖てはあるまいか

更に可笑しくも亦氣の毒に思つたのは、獄吏の一人の不平談てあつた、其の獄吏は韓人には珍らしいほど利發さうに見えて居たが、夫れが我れ〳〵をアチラコチラと案内した揚句、其の執務所に還つて更に種々の說明をする中、段々と自分一身に關する不平談を持出し、私も先月とか、先々月とかから此處に奉職することゝ爲つて相應に勉勵して居りまするが、今だに尙ほ一文の給料をも渡して貰ひませぬ、と如何にも悔しさうに訴へた、其の訴へた所を事實とすれば、誠に氣の毒な話てあるが、斯る事實は又勿論、韓廷に有勝なことてあらう、此の一奇談に依て見ても、韓廷內の紀綱が如何に紊亂頽廢して居るかをトするに足るてはないか

韓國の面積人口

韓國の面積及び人口に就ては、種々の說があつて一致しない、就中、人口に就ては殊

に甚だしい、或は八百萬位だらうと言ひ、或は一千萬はあるだらうと言ひ、或は一千二百萬には達するであらうと言ひ、最も多く算するものは二千萬はあると言ふて居る

面積は暫らく別とし、人口に就ては我國に於てすら未だ其の正數を知ることが出來ぬほどであるから、統計などの全く整はぬ韓國に於て正確に之を知り得べき道理がない、殊に韓國に於ては有司の苛斂誅求を免かれんが爲めに、戸口の數を陰蔽する傾きがあり、現に二百戸以上もあることが一見分明である部落などの戸數も、郡衙への公けの屆出では三十餘戸と爲つて居る處もあるほどであるから、役所の調査を基礎として戸數や人口の正數を算出することは勿論出來ぬが、大抵の人は韓國の人口を一千二百萬位と概算して居るやうである

舊馬山浦の町外れで學校の教師を仕て居られる柿原次郎と言ふ人が、自身に各道を跋渉して實地見聞の餘に推測した計算だと言ふのを見るに、面積は一萬三千五十二方里、人口は九百三十萬二千二百三十人、之を世に有觸れた普通の概算に比すれば、人口は頗る少ない見積りに爲つて居る、是れは餘り內輪に見積つたものとは想ふが、兎に角、他の漠然たる概算とは違ひ、全氏の實地跋渉の上、注意に注意を加へて測算したものて、比較的に根據のある調査と信ぜらるゝから、特に全氏の承諾を得て玆に之を掲ぐることゝ仕た

道名	面積	人口
京畿道	七三二方里	一、一三一、〇〇〇人
慶尙北道	一、一七五	一、一二六、四七〇
慶尙南道	七三〇	八三五、七二〇
全羅北道	五二三	六六三、七〇〇
全羅南道	八一五	八二五、二三〇
忠淸北道	四八四	五二八、八一〇
忠淸南道	五二三	七八四、〇〇〇
江原道	一、六〇〇	六一四、七四〇
黃海道	一、〇三〇	七三八、六〇〇
平安北道	一、五九八	六〇一、一〇〇
平安南道	一、〇三二	七一二、九〇〇
咸鏡北道	一、〇八〇	二八七、六六〇
咸鏡南道	一、七三〇	四五二、三〇〇

合計　一三、〇五二　九、三〇二、二三〇

柿原氏は右の調査を根據として各道の人口疎密の割合を左の如く割出して居られる、前の計數に照らし合すれば多少端數などの違つた所もあるけれど、其の大躰は之に依つて知ることが出來ると想ふから、矢張り全氏の割出しのまゝを掲ぐることに仕た

道名	一方里の人口
京畿道	一、五四五強
忠清南道	一、四八九弱
全羅北道	一、二六九弱
慶尙南道	一、一四五弱
忠清北道	一、〇九三弱
全羅南道	一、〇一一強
慶尙北道	九五九弱
黃海道	七一七強
平安南道	六三〇強
平安北道	三七六強
江原道	三二二弱
咸鏡北道	二七六弱
咸鏡南道	二六一弱

京畿道は別とし、韓國の人口が南の方に密にして漸次北の方に疎なることは、之に依つて甚だ明白に分る、地味、氣候等の然らしむる所であることは勿論であるが、此の人口疎密の割合は、今後、本邦人が盛んに韓國に入込まんとして其の適く所を撰む上に於て、少なからざる參考と爲るであらうと信ずる

韓國の山林

韓國の人民は既に述べた通りの有樣に陷つて居るから、固より幾于の希望をも繫ぐに足らないが、韓國の土地に至つては、殆んど之が反比例であると言つても宜しい、韓國の人民には痛く失望した我れ〳〵も其の土地には頗る望みを繫いで來た

人民も、土地も、共に詮方なしとありては鹹に絕望の至りて、折角、韓國を我が手に入れても、所謂無用の長物に歸する恐れがあるが、之に反し、人民は詮方なしとするも、其

の反比例に土地には望みありとすれば、今後愈々韓國を我が保護國として國利民福の發展を圖る上に於て、土地は詮方なきも人民には望みありと言ふよりも、事實上、却つて我れの爲めに有利てはあるまいか

先づ山に就て見るに、韓國に於ける山と言ふ山は、疾より世上に傳へられて居る通り孰れも皆禿山てある、嚴の骨、土砂の筋肉を露はした赤裸々の山のみてある、偶々木が生へて居つても其の木は孰れも背の低ひ雜木か又は稚松の類に過ぎない、斯る有樣てあるから韓國は一躰に平生水に乏しい、さうして一朝降雨があれば每々驚くべき水害を蒙むるに至るのてある、が、是れは決して韓國本來の狀態てはない、韓國の山とても、往時は鬱蒼たる森林を以て滿たされて頗る美觀を呈したこともある、曾て韓國が未だ海港を開かざる以前、種々の手腕を用ひて清國の芝罘及び天津等に輸入した木材は頗る多量なものて、其の木材の抱圍の大なることは歐米人をして喫驚せしめたほどてあると言ふ話しだ、此の輸入木材は主として鴨綠江の上流または支流の沿傍から切り出し、筏に編みて同江の河口に下し、夫れから更に清國に轉送したものに相違ないが――鴨綠江の上流には今も尙ほ驚くべき森林があるさうてあるが――韓國の山に森林の繁茂して居つたことは、獨り鴨綠江の流域のみに止まらない、全國到處皆然りと言ふ有樣てあつた、イヤ、往時ばかりてはない、現在にても斧鉞の入らない地域の森林は、見るから氣持の宜いほど鬱蒼として繁つて居る、例之へば此の前の〳〵の王宮てあつた昌德宮の奥庭の處などには、雲を衝くばかりの松樅の類が一面に蟠然と群がり育つて、殆んど天日をも遮ぎるほどに爲つて居り、其の入り交つて繁つた枝の上に、數知れぬ白鷺が數知れぬ巢を作つて子鳥を哺くんて居るのを見受けることが出來る、又た韓國ては墳墓の周圍に木を植ゑる習慣があり、其の木は一切之れを伐らないことに爲つて居るから、皇族、重官又は富豪の墳墓の在る所には、隨分見事に生長した樹木を見受ける、其他、國有林として禁伐の制を立てゝある所の山林は、矢張り孰れも鬱蒼と茂つて居る、現に京釜鐵道て京城に向ふ途上、慥か水原附近かと覺えて居るが、左り手の方に當つて可なりに廣い松林があつて、今まて禿山に厭きた行客の目を慰むるに足るほどてある

是等の事實に依つて見れば、韓國の山は初めより樹木が無かつたと言ふのてはない、又其の地味土質が植木に適せぬと言ふのでもない、昔は隨分見事に生ひ茂つて居つた、植ゑれば隨分善く育つ、樹木の種類は松、杉、樅等が主なるものてはあるが、其他のものも決して育たぬと言ふ譯てはない――夫れが今日のやうな禿山のみて滿目荒

凉と言ふ有樣に爲つたのは、全く林政其の宜しきを得なかつたのと、今一ッは例の濫突用の爲め、木と言ふ木は枝や幹は勿論、根の根まで採り盡すと言ふ習慣が存じて居るからである、是れまでは餘儀なかつたとしても、今後尙ほ此の儘に打棄てゝ置ては、有用の山地を全く無用に屬せしめ、所謂天物暴殄の過ちを犯すのみならず、之が爲めに限りなき不利と弊害とを蒙むるに至るのである、故に一日も速かに例の濫突制に相當の改善を加ふると同時に、林政の大方針を確立して森林樹木の繁殖を圖るのが必要である、十年の計は木を植ゆるに在りとか言へる格言もあるほどゆゑ、少しく注意して韓山の經營に從事すれば、在來の面目を一變して彼我共に其の利益を享くるに至るのは頗る近き將來に在ると想ふ

韓國の江河

次に韓國の川に就て見るに、韓國には隨分江河の大なるものがある、先づ北の方から數へて第一に豆滿江、次に鴨綠江、次に大同江、夫れから漢江、夫れから洛東江、之を指して韓國の五大江と稱するのである、五大江の外、更に清川江、載寧江、禮成江、臨津江、錦江、榮山江、蟾津江等の諸川があつて、是等も孰れも可なりの巨江である

地勢の關係から、韓國の北東の海岸に流れて日本海に注いで居るものは、五大江の內、一の豆滿江のみである、他の四大江及び五大江以外の比較的に大なる諸川は、孰れも韓國の西又は南の方面に流れて多くは黃海に注いで居る、我れ〳〵が漫遊の途上で實見したのは、僅かに洛東江、錦江及び漢江の三江に過ぎなかつたが、是等とても既に何となく大陸的江河の風致を備へて我が內地の河川とは聊か其の趣きを異にして居る、是等よりも更に廣大なる鴨綠江、大同江等の有樣が一層其の趣きを異にして居ることは言ふまでもない

我れ〳〵が實見した三江の中で、比較的に一番廣大なのは、洛東江である、河幅は左程にも思はぬが、流れは隨分長いやうである、或る韓國通の話に據ると、舟――勿論、小さな川舟ではあるけれども、其の上流に溯ること凡そ九十里に達すると言ふことである、九十里に達すると言ふことは、聊か誇張に失するかも知れぬが、露國の大藏省が先年人を派して實地に調査した報告としても、吃水三尺以上を有する平底のジャンクが通行に堪ふる航程、洛東江に於ては二百三十キロメートル乃ち凡そ我が五十六七里に達すると記してある、其の流身の延長が如何に長いかは是れで分明であらう、猶ほ序てに右の調査報告に基いて、他の諸江河の舟行航

程を擧げんに

鴨綠江は流石に一番長くて、河口より渭原の少し上方まで二百八十キロメートル、乃ち凡そ我が七十里

大同江は河口より平壤まで百二十キロメートル餘、乃ち凡そ我が三十里

漢江は河口より京城の少し上方まで百三十キロメートル餘、乃ち凡そ我が三十二里

榮山江は、河口より羅州附近まで九十キロメートル乃ち凡そ我が二十二里

清川江は河口より寧邊まで七十キロメートル、乃ち凡そ我が十七里

錦江は河口よりカン、キヨシ、ホー村まで五十キロメートル、乃ち凡そ我が十二里

蟾津江は三十キロメートル、乃ち凡そ我が七里

豆滿江は二十キロメートル、乃ち凡そ我が五里

に達するのである、以上は孰れも吃水三尺以上を有する平底のジャンクを標準として測量したものであるが、夫れ以下の小舟は尙ほ一層溯航が出來るに相違ない、現に露人の調査でも錦江のごときは前に掲げた航程の外、小舟ならば更に百キロメートル、乃ち凡そ我が二十五里を溯航すると言ふ報告に爲つて居る、斯くの如き延長を有する諸江河を利用して、出來るだけ舟運の繁昌を圖ることにすれば、民衆の交通の上にも、貨物の運輸の上にも、少なからざる便宜を與へ、隨ひて韓國內地の利源を開發して內外を裨益するに至るに違ひない

只、韓國の江河は平生水量に乏しい、さうかと思へば、降雨の時には忽ち水量を激增して濁流滔々四邊に氾濫すと言ふ有樣に爲る、之が結果として河口には土砂を吐き出し、年を經る每に水底を淺くする憂ひがあるが、是れは前にも言つた通り、韓廷が多年林政の方針を誤まり、例の濫突用の爲めに濫伐濫採、山と言ふ山は盡く禿山に爲し了るを打棄てゝ置いた結果で、諸江河の沿傍並に其の上流に聳てる山々に、雨水の蒸發を調和し、積雪の融解を緩徐にし、並に土壤砂石の崩壞を防避すべき須要の要素たる森林樹木の生ひ茂つたのが無いために、斯る弊患を釀すのである、併し是等の弊患は林政の大方針を確立し、盛んに植木植林を奬勵すると同時に濫伐濫採の風を嚴禁することにすれば、遠からざる將來に於て自然に之を排除することが出來るのは疑ひない。其の外、河身の傾斜が急な處があるとか、險しい岩石があるとか、河口が太洋の風濤に暴露せられて居るとか、と言へる天然の障礙は人力で容易にドウするとも叶はぬが、數多き巨江大河の中には、手の盡しやう次第で、隨分、交通運輸の上に利用が出

來るてあらうと思ふ、殊に韓國のごとき道路の便や鐵道の便の乏しい處では、差當り能ふだけ江河を利用するの外は無い、尙ほ他川のことは知らぬが、洛東江あたりでは、蛤や、鰻鱺、漢江あたりでは鰻や、鯉などが多く產するから、可なりに漁業も行はるゝさうだ

韓國の港灣

轉じて韓國の港灣に就て見るに、本來、韓半島は槍の穗先を突出したやうな遼東半島と違ひ、言はゞ拳骨を握り固めたやうな形に爲つて居るから、遼東半島などに比すれば自然に良港灣が多い、尤も韓半島の背に爲つて居る北東方面乃ち日本海に面した側は、地圖て一見しても分る通り、スッと一曲線を描いたやうな地形であるから、港灣は至つて少ない方てあるが、之が反對の側である西南方面乃ち韓半島の胸、腹に當つて居る處には數知れぬ大小の島嶼が半島內陸の屈曲凸凹と相待ちて到る處に港灣を形作つて居る、大袈裟に言へば韓半島の西南方面は殆んど港灣を以て滿たされて居ると稱しても差支ないほどてある

韓國の港灣て昔から名の知れて通商航海の本據と爲つて居るのは、北東方面ては元山、西南方面ては仁川、釜山の三港てある、其の外、明治三十年頃から漸次開港場とせられたのは城津、馬山浦、木浦、群山、鎭南浦の五港てあるが、其中、北東方面に屬したものは一の城津のみて、他は盡く西南方面に屬して居る、此の事實から見ても、韓國の港灣が、西南方面に偏屬し、西南方面が如何に港灣に富んて居るかゞ分るてあらう、以上は既に開港場と爲つて居る重なる港灣てあるが、先頃、韓國沿海及び內河航行に關する日韓間の條約が愈々成立した爲め、沿岸の港灣中、其の最も適當なる寄港地と爲り、乘ねて今後發達を來すべき見込ありとして數へ上げられたる分は、左の場所てある

釜山領事館管內

迎日灣(迎日郡)　甲深(長者郡)　ザルーッニン岬(蔚山郡の鹽浦)　西生鎭、伊川(機張郡)

左水營、河端(東萊府)　鎭海(成安郡)　統營、泗川、三川里(晉州郡)　河東(河來郡)

仁川領事館管內

ルーバー港(巡威皇の龍湖灣)　海州　碧瀾渡　屯浦　廣川港　於靑島

鎭南浦領事館管內

新換浦、東倉浦(安岳郡)　海倉浦、石海浦(載寧郡)　朱易浦、陸路浦、鳳山郡)　加院場(甑山郡)

以上は釜山、仁川、鎭南浦三領事館管内に屬する分のみを擧げたものであるが、夫れだけでも既に二十五ヶ處の多きに達して居るが、三領事館管内に於けるものが必らずしも右の二十五ヶ處に止まると言ふ譯ではない、比較的に最も適當なる寄港地として差當り發達の見込あるものが此の二十五ヶ處であると言ふ次第だから、細かに詮索すれば此の二十五ヶ處以外にも相應の港灣が有るに相違ない、殊に右の諸港灣は釜山、仁川、鎭南浦の三領事館管内に屬するものゝみであるが、韓國に於ける領事館は釜山、仁川、鎭南浦の外、更に馬山、木浦、元山、京城の四ヶ處にも有り、別に群山、城津、平壤の三ヶ處には各々分館を設けてあるから、是等の領事館管内に屬する未知無名の港灣を細かに詮索すれば、其の數は決して少なくないであらうと思ふ、其の内、京城とか、平壤とかの領事館は沿海でなく、陸上の地域を管轄して居るから、目覺しき港灣がある譯はないけれども、夫でも京城領事館管内では漢江の流域の大部分、平壤領事館分館管内では大同江の流域の大部分を包含管轄して居るから、内河航行の船舶の寄泊に適すべき地點を求むれば、相應に可なりの場所があるであらうと思ふ、尤も是等の港灣の中には、其の大小、廣狹、深淺、並に周圍の情勢等に由りて、實際運輸交通上の媒介地點たるに適せざるものもあるに相違ないが、兎に角、以上の說明で、韓國の沿岸、就中、其の西南方面に如何に港灣の數が多いかゝ分るであらうと思ふ

斯く言へば、韓國の沿岸、就中、其の西南方面は如何にも自由自在に交通が出來るやうに想はれるが、仲々さうは行かぬ、有りの儘を言へば、韓國の港灣は尙ほ未成品である、天然の形勢に幾多の人工を加へなければ、十分に交通運輸上の本據とし、媒介地點とすることは出來ない

例之へば、一番古くから我國との交通地點と爲つて居つて、最も廣く名を知られて居る釜山の港でさへ、マダ一の棧橋すら設けてない、前年來ヤット棧橋設立の會社が出來て其設計は既に立てゝあるさうだけれども、愈々之が竣成を見るのは何時のことやら、頗る心細い次第である、港に缺くべからざる棧橋ですら、其通りであるとすれば、他の設備が一切不整頓であることは勿論である、是等は能ふだけ速かに之を整頓しなければ、折角の港灣も港灣たる眞價値を發揮することが出來ないのみならず、彼我交通運輸の發達の上にも少なからざる妨礙を及ぼすのである

又例之へば、釜山に次で名を知られて居り、事實に於ては韓國の胸腹に當る處として最も肝要な地點である仁川港はドウであるかと言ふに、港としての價値は年々減つて行く傾きがある、と言ふのは漢江の河口が仁川港の西北に打出して居る爲に、斷

えず例の土砂を吐き出し、自然に港内の水底を淺くするからである、現に仁川市街の當面に横はつて居る月尾島との間の最も狹隘な航路、即ち我が碇泊場司令部を置かれてある前面などは、殊に其の弊を受くる處で、其の道に通じた或る博士の調査した所に據れば、右の航路は今より七年の後には全く埋つて仕舞つて通行の出來ないやうに爲るとのことである、又仁川の内港――月尾島の内と外とに依つて自然に内港、外港の區別が出來て居るが、其の内港より外港に通行する月尾島の鼻先の航路などは、干潮の時には僅かに六七間位の水道を存するに過ぎない、夫れゆゑに干潮の時はヤッと小蒸氣の往來が出來るのみで、大船巨船は勿論出這入りは叶はない、且内港も往時は隨分大船巨船を入るゝことが出來たが、例の漢江から吐き出す土砂で年々水底が淺く爲つて、今では千二三百噸以下の船舶でなければ之を碇泊させることは出來ない、其の千二三百噸以下の船舶ですら、滿潮の時に這入り、滿潮を待ちて出港するの外はない――されば外港はドウであるかと言ふに、之れは水底は隨分深くて如何なる大船巨舶の出入碇泊も自由であるが、悲いことには港口が正面に開けて、直接に外洋の風濤を受けることに爲つて居るから、船舶の繫留、旅客貨物の上下に不便を感ずることが多い、と言つて内港は前に述べた通りの有樣であるから、戰時中に設けられた臨時鐵道建築部では、京仁鐵道の終點を架橋を通じて月尾島の鼻先まで延長し、月尾島の外側に棧橋を設けて船と汽車との聯絡を保たせるやうにする計畫を立て、着々其の實行中であつたが、夫れだけでは正面の港口から吹込む外洋の風濤を防ぐとは出來ないから、船舶の出入碇泊を十分に安全にするためには、別に規模雄大なる防波堤を築くか、又は漢江からの土砂流入を防ぐと同時に大仕掛の内港浚渫を遣るの外はないが、是れは經費の點から餘程六ヶしい話であらう、六ヶしい話ではあらうけれど、成るべく遠からぬ將來に於て、右の内、孰れかを實行するの覺悟がなくては、韓國の胸腹に當る要點として仁川港の價値を夫れ相應に發揮することは出來ない

一躰、港側に大きな河口の打出て居るほど、港の爲めに不幸なものはない、我が新潟港が開港互市の一要地として五港の一に數へられたことは、世人の能く記憶して居る通りであるが、信濃川と言ふ土砂吐きを港頭に控へて居るばつかりに、其港底が年々埋まり行き、僅か三四十年を隔てた今日では、五港の一たる名こそ存すれ、事實は全く外國互市場たるに適せない非運に陷つて仕舞つた、仁川の内港も頗る能く之に類して居るが、幸に新潟港に見られぬ外港を持つて居るから、一大要港たる地位は動かぬけれども、眞に要港たる實價値を發揮するためには、大なる設備を要することを覺

悟せねばならぬ

港灣が河流を受けた爲めに、港灣たるの價値を減ずるのは、我が新潟港や、韓國の仁川港のみではない、同じ韓國の內でも尙ほ其の類例が乏しくないやうだ

例之へば、大同江の下流に在つて平壤などの爲めに咽喉と爲つて居るやうに言囃され、戰時中、軍事上の一必要地點に利用された鎭二浦のごときは、一時、小さからざる規模の上に之を經營せんとする計畫が立てられたやうであつたが、後ちに至り、忽然其の計畫を拋棄された、之は種々の原因があつたであらうが、重なる一ッは思つたほどの港灣でなかつたと言ふに在るやうに聞いて居る、思つたほどの港灣でなかつたと言ふ事情の中には、鎭二浦が大同江の河流に沿ふて居つて、其の流れに伴ふ有り觸れた弊患を受くるから、永き將來の港灣として船舶出入碇泊の便利を期し難いと言ふことが主に爲つて居ることは、勿論、勿論であらう

鴨綠江の下流に在る龍岩浦とても、露國が韓國侵略の第一着手としやうと仕たから、一時頗る有名の場所とは爲つたが、實際は左程エライ處ではないらしい、左程エライ處でないと言ふのは、本來江河の邊に沿ふたる一港灣であるから規模が廣大でないのみならず、矢張り河流を受けるために、夫れだけ種々の故障を免かれないからのことであらう。鎭南浦及び群山港に至つては、其の規模の大なることや、港灣としての價値の備つて居ることなどは、勿論、龍岩浦の比てはないが、一は大同江の下流に在り一は錦江の河口に橫たはつて其の河流を受けるため、河流を受けざる普通の港灣に比すれば、矢張り多少の不便不利を免かれないとか言ふ話だ。但し鎭二浦や、龍岩浦や、乃至鎭南浦及び群山港等は孰れも其の實地を視察する暇が無かつたから、我れ〳〵は是等の港灣が其の沿ふて居る河流の爲めに、果してドレほどの故障不便を受けて居るかを證據を擧げて明確に斷言することは出來ぬ

我れ〳〵の實見した港灣の中で、別段大きな河流も受けず、珍らしいほど靜穩に見受けたのは馬山浦である、馬山浦は釜山から陸路では十二里、海路では三十六浬、陸は聊か迂回しては居るけれど、京釜線の三浪津から分岐した滊車の便があり、海は速力十二海里も有する滊船に搭乘すれば僅かに三時間で到達する處で、釜山からは一ト晩泊りに宜い遊び場所である、昔から月の名所として稱せられた處で、港岸附近の地名は月に緣ある名稱を附したのが少くない、故近衛公が別莊を設けやうとして地所を買ひ求められたのも此の港岸の南方小高き處である。港灣は斜めに南北に長く、東西に狹く、規模は寧ろ小ひさい方であるけれども、陸地に面する北の一部僅かに開け

たるのみで、他の三方面は重疊せる山嶽を以て包圍して居るから、如何に大風が吹き荒んでも灣内は常に靜穩である、我れ〳〵が視察に行つて一泊した時などは、風が凪いて居つたから一入靜かで、マダ新開で船の出入の少ない爲に、夜更けた頃などは殆んど氣味の惡い程の寂しさを感じた、港の西南部は水底も深くて大船巨船も出入自在である、弘安の往時、元の忽必烈が我國に寇した場合には、此處を根據地と仕たさうであるが、誠に適當の地點を選んだもので、今も尙ほ其の昔を忍ぶべき古物――米挽臼などが殘つて馬山舊市街の町外れの井側の敗石に爲つて居る、昔の話ばかりでは ない、今より數年前、露國が此地を海軍の一根據地と仕やうとして密かに土地の買占めを圖つたから、我れは露國の計畫を打破しやうとして彼れの裏を掻き、彼れに先んじて盛んに土地を買占めた名殘りの標碑が、馬山浦の陸上一帶に立つて居るほどである、是れて見ても、馬山浦の實價値が略ぼ推測さるゝであらう――勿論、鎭海灣に近いと言ふ關係もあらうけれど――只、其の灣入が如何にも深くて航路も頗る迂回して居るから、釜山などに比すれば何かにつけて不便である、韓國在住者の中には馬山浦の勃興は釜山の繁昌を奪ふべし――奪はざるまでも大に之を殺ぐを得べしなどゝ力味返つて居る人々もあるけれども、舊來の關係や、天然の地形や、交通運輸の實情などに照らして之を考ふれば、夫れは到底覺束ないことてある、されど馬山浦が今後見換へるほど繁昌すべきことも亦疑ひを容れない

要するに韓國の港灣は大概マダ未成品である、天然の形勢に幾多の人工を加へなければ十分に交通運輸上の根據とし、媒介地點とすることは出來ない、獨り港灣其のものに人工を加ふるのみならず、韓國内陸に於ける道路を修築し、鐵道を敷設し、並に林政を確立して根本より江河に伴ふ禍害を排除するやうに仕なければ、眞に港灣をして港灣たる働らきを完うせしむることの六ヶしいのは言ふまでもない

韓國の農業

韓國の土地が其人民の望みなきに反して望み多きことは、山林、江河、及び港灣の實情を說明したゞけでも略ぼ了解せられたであらうと思ふ、が、其以外、イナ夫れ以上に世人の注目を惹いて居る田畑の耕耘乃ち農業は果して望みあるものであらうか

是れに就ては多少悲觀的の意見を主張するものもあるが、我れ〳〵が實地に見聞した限りに於ては、矢張り有望であると斷言して差支ないと思ふ

勿論、見渡した所では、韓國の土地は如何にも能く開墾してある、邱の上、山の腹は言

ふまでもなく、嚴と嚴との間でも多少の餘地のある所は大抵鋤を下してある、洪水などの爲めに荒された荒蕪地は兎も角、未だ曾て手を入れない荒蕪地などは殆んど見ることが出來ない――少くとも南韓地方に於ては殊に之を見ることが出來ない、彼の長森藤吉郎氏の荒蕪地拓殖案のごときは何を目的にしたものであるかと疑はれるほどである、是れは我れ〳〵の私見のみではない、其の道に堪能なる本田博士なども實地視察の結果、同樣の見を下して居られたと言ふことを傳へ聞いた

斯く言へば、韓國の農業は新たに移住して之に着手するものゝ爲めには、甚だ望み少ないやうに見ゆるけれども、是れは外觀のみで實際は決してさうでない、と言ふのは韓國の農民は餘り肥料を用ふることをせない、且無智無識の結果、農事の上に改良を加ふることを得せぬ、夫れゆゑ多年續けて同一の地所に耕作を仕て居つては地力が耗盡して思ふやうに收穫が得られないから、自然新たな地所を開墾して之れに耕作するやうに爲り、未墾の餘地の存せる所は追ひ追ふて之れを開拓することに爲つたのである、猶ほ其の上、豐太閤の朝鮮征伐の時などは、數十萬の大軍が殆んど屯田組織を爲して滯陣して居つたから、之が給養の必要上、韓民を督勵して田畑の開墾をさせた傾きもある、斯る次第で未墾の餘地の在つた處は段々と開拓せられて、今では邱の上、山の腹、若くは嚴と嚴との間までも鋤を入れられて居るやうな有樣であるが、サテ一たびは斯く開墾されたものゝ、實地の耕作に際しては肥料を用ひない、改良を加ふることを知らない、ヨシんば其の必要を知つても、苛歛なる當局有司の下に在りて所得の增加は徒らに誅求を蒙むる禍因と爲るに過ぎないから、之を實行することを敢てせぬ、夫れであるから滿目の土地盡く耕作されて居るやうであるけれども、其の收穫は至つて少ない、收穫を增すの餘地は尙ほ十分に存して居る、現に或る地方などでは從來、一反に付き八斗の米しか產出せ、なかつた處を、日本人の手で種々の工夫を加へて耕作するやうに爲つてから、忽ち二石、乃ち二倍半の增收を得るやうに爲つたと言ふ實驗話を聽いた――中には多年肥料なしに引續いて耕作したゝめ、地力を耗盡して收穫其の勞費に伴はないやうに爲つたから、自然に之を打棄らかした地所もあるであらう、乃ち曾ては開墾を遂げながら、收穫が少くなつて引合はぬため、今は之に鋤を下さないやうに爲つたもので、言はゞ既開墾の荒蕪地とても稱すべきであらう――猶ほ韓國の土地が邱の上、山の腹まで開墾せられて居るのは、前に述べた通りの事情に由ることは勿論であらうが、一ッは韓國を幾重にも、縱橫して居る大小の江河が降雨毎に氾濫して、折角苦勞して開墾した田畑を遠慮もなく荒蕪に歸せしむる

爲め、成るべく江河の沿傍を避けて、次第々々に邱上山腹に鋤を入れるやうに爲つたものと想はれる、併し是れは治水の方針が確立して再たび水害を蒙むるの憂ひが無いやうにさへなれば、直ちに之を復舊して江河の沿傍を見事なる田畑と爲すことが出來るに違ひない

斯く觀し來れば、純然たる未開墾の荒蕪地は餘り多く見當らないけれども、既開墾の荒蕪地と言ふべきものは隨分手に入れられるのがあらうし、且日本人の知識と經驗とに依りて新たに肥料を用ひ――韓國には肥料とすべき材料、例之へば大豆、牛骨等は頗る多い――並に農事上に種々の改良を加ふるやうにすれば、忽ち著しく收穫を增すことが出來るに相違ないと思ふ、我れ〳〵が韓國の農業を有望なりと言ふのも全く是れが爲めで、ツマリ我が日本人は新たに純然たる荒蕪地を得やうと言ふよりも、既開墾地を買ひ求めて之に改良を加ふると言ふのが、却つて捷徑で且有利であると信ずる

既開墾地を買ひ求めて之に改良を加へつゝある日本人は決して少くないやうだ、殊に此の一二年以來は著しく其の數を增して來て、所謂三南と稱せらるゝ慶尙、全羅、忠淸の三道の目覺しき處には、大分日本人が這入込んで田畑を買ひ占めつゝあるやうである

京城よりの歸途、我れ〳〵は太田驛にて下車して附近を視察する序てに、農業に從事して居る日本人の一二を見舞ふたが、此處にはマダ餘り多くは入り込んで居ないけれども、既に入り込んで農業に從事しつゝある人々は內地に居るよりは慥かに餘分の收益があつて、運善く行けば放下した資本に對して殆んど四割に近き利益を收めることが出來る見込であると言ふて居た

大邱では靜岡縣の前代議士影山秀樹と言ふ人が、田畑を買ひ込んで自から農業に從事して居られると聞いたから、早速之を訪問した所が、同氏も大に喜んで細々と實驗談を語られた、同氏の話に據れば其の買ひ込んだ土地は大邱から二里ばかり隔てた處で、自分の分が五十町ほど、外に十町內外の地面を買ひ込んで居るものが五六名孰れも田ではなく畑であるが、買込み直段は一反で六七圓――今では十圓も出さなければ買へないが、其の生產高は、一反に付、麥二石一斗から二石七斗、內地の畑に比して素より著しき差違はない、麥作の合間々々には豆を作る、馬鈴薯を作ると言ふ副產物があるから、資本に對する收益の割合は頗る割が宜い方である、現に卅八年の春の麥作に依つて見ると――同年が着手後、始めての試作であるが、麥だけにて二割の收

益に當たつて居る若し合間々々の副産物を加ふれば、多分三割には達するであらう――夫れて税金はドウであるかと言ふに、一反に付き僅かに四五十錢の割合ひであるから、生なかに税金の高い、世話の燒ける日本内地に居つて、苦しい生計を營むよりも、韓國内地に入り込んで百姓と爲り濟すが餘程安樂であると言ふことであつた――成程、麥作のみにて二割、副産物を合せて三割からの收益があるとすれば、三年に一遍は全く凶作で收獲皆無と見ても、平均一ヶ年二割の收益には當る、一ヶ年二割の收益と言ふのは、日本内地に於ては藥にしたくも見られぬ話で――日本内地では三四分位から、善くて五六分位の收益であらう――韓國に入り込んで眞面目に農業に從事して居るものが、農業は韓國に限ると言ふのも、決して無理でない

影山氏の買ひ込んで居られるのは重に畑であるが、田とても隨分廉價に買ひ入れられる、最とも廉い處は矢張り一反七八圓から十圓、十五圓、高い處で二十圓から二十二三圓で買はれるさうだ、栗塚省吾氏が密陽附近とかて買ひ込んだ田地は平均一反二十一圓ほどであるさうだが、一反二十一圓と言へば勿論上田の部だ――廉い處で一反七八圓、手數料まで入れて十圓内外とすれば、殆んど日本内地の登記料で一反の田畑を得られる譯だから、資本に乏しい日本の小農が移住して一廉の地主に爲るには持つて來いの場所である、夫れて米作はドウであるかと言ふに、前にも述べた通り、少しく工夫を加へて耕作をすれば、從來八斗産に過ぎなかつた田地より二石の産額を得ることも困難でない實例があるほどであるから、矢張り大躰に於いて日本内地と著しき差違は無い、買込み直段は著しく廉くて、收獲は日本内地と差違が無いとすれば、韓國の田を買込みて耕作に從事する方が利益であることは言ふまでもあるまい

とは言へ、韓國に移住するには、移住するに必要なるだけの經費もかゝる、韓國は一帶に材木に乏しい處であるから、住家は勿論、掘立小屋一ッ造るにも案外の高價を要する、殊に田畑を買込むにもウッカリするとスレッカラシの韓人か、若くは性惡の日本人に乘せられて下らぬ馬鹿を見ることに爲る、故に始めから能く其の邊の用意を仕てかゝらねばならぬが、兎に角、同じ區域の地面を同じ直段で買つて、同じ手數を掛けて、同じ收獲しか無いと假定しても、高い税金を取り立てられないだけが利得だと言ふ觀念で、韓國の農業に從事する覺悟にさへなれば、決して失望するやうな氣遣ひは無い

夫れては何時でも買込み得べき地面があるかと言ふに、如何ほどでも有る

本來、韓國は面積の割合には人口が少くない、少くないてはない、少くなくなつたらしい、少くなくならないまでも、幾たびか征戰を蒙りて瘡痍の未だ癒えざること、政治の甚だしく腐敗せること、惡政の結果として人民が自然に懶惰貧弱に陷つたこと、衛生の行はれないことなどに由つて、常に其の增殖を妨げられて居る、酒勾農學博士の視察報告に據れば、韓國の人口總數を一千二百萬と見て一平方哩に百四十六人の割合に當る、乃ち其割合は世界で第十三番目で、之を日本の二百九十九人、清國の二百九十二人に比すればズッと落ちる、斯樣に面積の割合に人口が少いから、一旦は開拓した地面も自然に手が及ばぬやうに爲る傾きがあつて、新たに耕作に從事する人を容れる餘地が十分に有る

其の上、韓國の人民は前にも言へる如く懶惰である、貧弱である、而して一種のハイカラ的奢侈――例之へばビールを飲むとか、蝙蝠傘を指すとか、と言ふことは段々と覺えて來たから、ドッしても先祖傳來の田畑を抵當にするか、又は之を賣り飛ばして金にするより外はないことに爲つて來た、一旦抵當に入れやうものならトテモ之を受け出すことは出來ないから、其の田畑は自然金を貸した人の手に流れ落ちて來る現に此の手で韓人の田畑を手に入れつゝあるものも少くない、場所に依り、人に依りては一反三圓位の見當て金の貸借を爲して居つて、約定の期限に辨濟の出來ないために、其田畑を抵當流れとして仕舞ふものもあるさうだ、韓人の田畑を割安に手に入れるには、斯樣な貸借關係上、抵當流れとする方が一番妙であるさうだが、夫ほど殘酷に近い仕打を仕ないても、貧弱又はハイカラ的奢侈の爲め、田畑を賣飛ばさんとして居るものは少くないから、巧みに其の間に乘ずれば案外の安直て如何ほどの地面ても手に入れることが出來る

處が、茲に一ッ世人の疑問と爲つて居るのは、韓國の土地所有權に關することてある、韓國ては世人の知つて居る通りマダ外人の土地所有權を認めて無い、夫れて折角貸借の關係又は實際上の賣買て其の田畑を手に入れても、之が所有權を認められないては、何時、如何なる事があつて之を無効にせらるゝことがないとも限れないと危惧するものが多いやうてある、一應尤もの次第てはあるが、實際に於ては全く一の杞憂に過ぎない

我れ〳〵の見聞した所に據ると、本邦人が韓人より田畑を買ひ入るゝ場合には、大概其の證據として是れまての納稅證を讓渡せしむる――韓國には地券と言ふものがないから、其の納稅證を以て地券に代ふるのてある、又は買ひ入れた後、二年、三年、引

續いて本邦人の名に於て納稅を爲し、其の納稅證を持つて居れば、則ち之が地券の代用を爲し、所有權の移つた證據とせられるのである、此の風習は韓國の官吏も默認し、我が當路者も不文の大方針として居る――數年前若くは十數年前の韓國のごとく、他國の勢力が往々之に加はゝる恐れがあつた場合には、斯る默認の風習、不文の方針は何時蹂躙せらるゝやも知れなかつたけれど、我が保護權の畧ぼ確立した今日以後に於ては、之に遵據して田畑を買ひ入れて居ても、其の所有權を動かされるごとき危險は決して無い

又、場所に依ては納稅證の讓渡などは求めず、賣主と買主との間に賣買の約定證を調製し、之に其地方の洞首、面長――我國で言へば町村長、字頭の奥印を押して貰つて、夫れで所有權の移轉を證明するやうな仕組みにも爲つて居る、影山秀樹氏等の買入れられた分は其手續きに依つたもので、其の約定證も示されたが、幅の廣い、粗末な紙に賣買濟の意を書き列ねて所謂洞首、面長が其の奥に署名捺印したものだ、是れでも所有權の移轉は確定したものであるが、孰れかと言へば韓廷に說き諭して公々然本邦人の土地所有權を認許する法令を出さしむるに如くはない

サテ韓國に移住して農業に從事する以上は全く百姓と爲り濟して自から耕耘の事に從ふと言ふ覺悟あるほど妙はなけれど、實際は夫れにも及ばない、自分は地主樣で、是れまでの地主兼農夫であつた韓人を小作人に使へば宜しいのである、地主たる日本人と小作人たる韓人との分け前は五分々々と言ふのが通例であるさうだが、是れでは地主としての利得が矢張り日本の內地に於ける割合よりは多いやうだ

更に今一ッの便利は、韓國の田畑が我內地其の儘の小農制であるから、排水灌漑の途を始め、肥料其他一切の農事上の智識經驗を移し用ふるには、至極好都合である、北韓は知らないが、南韓一帶の耕作法は今は昔、豐太閤の朝鮮征伐の際に敎を殘したとか言ふことで、毫も我が內地に於けるものと異ならない、異ならない所が本邦人の移住耕作を奬勵する手引とも爲り、又實地從事の上の便利とも爲るであらう

以上は專ぱら米麥作のことに關して說明したものであるが、菓物の木などを栽植しても隨分見込があると言ふ話だ、例の影山氏も其の前庭などに多少の試植を仕て居られたが、孰れも勢ひ善く育つて居るのを見受けた、又、馬山浦鐵道の分岐點である三浪津驛の邊に、飲食店兼旅宿を營業して居る筑後久留米出の林田藤吉と言ふ人が其の附近に三萬坪の地面を買求め、其處に梨、桃、柿、林檎、蜜柑等色々の菓樹を栽植した

所が思ひの外の好結果で、今より六七年か十年の後には相應の收入を得るやうに爲るであらうと、末長く樂しんで居りますとホク〳〵顏での實話であつた――田畑を買入れて米麥の耕作に從事するのは、素より必要であるが、コンな所に目を着くるも亦有益にして成功し易い一事業に違ひない、其他蔬菜類の培殖も必要なる事業で、大抵のものは善く生育するさうだ

養蠶も亦有望なる一事業である、我國から行つて居るものは勿論のこと、韓人中にも養蠶事業に注目するものが段々多く爲つて、中には態々信州あたりの實地練習に出かけたものもあるさうだ、京城では居留民長中井喜太郎氏が自から率先して之に着手されたさうだが、大分見込みがあると言ふて居られた、大邱邊では殊に手を着けるものが多いさうで、影山氏の示された繭の實物に依つて見ると、韓人の手に依りて拵らへ上げたものは、日本人の手に依りて拵らへ上げたものに比して、聊か量目が少いやうに見受けたけれども、さればとて決して捨てたものではない、少しく注意を加へ改良を施しさへすれば、我が內地產と別段變りのないものを得られるに相違ないと想はれる――一躰、韓國は空氣が乾燥して居る其の上に、所謂雨期が我が內地より遲いから、養蠶には殊に適當である、養蠶のみならず、此點から言へば麥作などにも、至極好都合である、夫れでは桑はドウであるかと言ふに、是れも栽植其の宜しきを得さへすれば、矢張り相應に繁茂する見込みがある、何よりの證據は野生の桑樹が折々處々に生ひ茂つて居るので、現に我れ〳〵が宿泊した京城の小田柿捨次郎氏の後庭などにも、抱圍に餘る桑樹が數間の高さに伸びて居つたほどである

棉作も亦有望の事業で、貴衆兩院議員の有志は卅八年の春であつたか、棉花栽培協會と稱する一團を組織し、農商務省の助力を得て既に夫れ〳〵試作に從事して居ると言ふ事である、其の前から木浦附近では段々地面を買ひ込んで之を栽培して居る本邦人があるが、孰れも見込みが多いと言ふて居るさうだ、是れが韓國內地到る處に盛んに栽培せらるゝやうに爲れば、棉類を主要の衣服とする韓人の爲めには大なる便宜で、之が栽培に從事するものゝ爲めにも少なからぬ利益と爲るであらう

其他、藍、苧麻、煙草等の栽植並に牧畜のごときも、孰れも相應に見込みある事業であると言ふことだ、只、田畑は勿論、是等の有望なる事業を營まんが爲めに土地を買入れんとする場合に、例の日本人の喰合ひ、同志打ちの弊があつて、無暗矢鱈に其の賣買地價を糶り上ぐるのは、實に忌々しい限りだ、何とか然るべき方法を設けて此の弊風を矯正したいものだ

夫れは兎に角、山林と言ひ江河と言ひ、港灣と言ひ、並に一般の農業と言ひ、韓國の土地が其の人民とは反比例に有望であることは、粗略ながら以上の說明で世人の了解する所と爲つたであらうと思ふ、其の土地が斯く有望であるとすれば、我が國民は實に我が國利民福の好發展地を得たものとして、之が實効を擧ぐることに努力せねばならぬ

韓國の鑛業

殖林、航運及び普通の農業を除いた以外の實業で、目覺しき韓國の實業は鑛業と漁業とであらう、工業、製造業の上に於ても前途の見込みあるものがないではないけれど、孰れもマダ至つて幼稚で、十分の功績を擧ぐるまでには餘程氣長い覺悟を以て之に取りかゝらねばならぬやうだ

是等の實業に關して我れ〳〵は特別の知識を持つて居るでは無し、且實地に就て之を視察する暇もなかつたから、彼れ是れ意見を列べ立つることは出來ないが、巡遊の途上でチョイ〳〵と聽いた所に據ると、第一に數へ上げた鑛業などは、餘り大仕掛では却つて失敗を招くかも知れぬが、小規模で着手するやうにすれば、隨分見込みがないではない、一躰韓國は比較的に金、砂金等に富んだ處で、全國各處に其の產坑が有り、一ヶ年の產出額殆んど四百萬圓から五百萬圓に達して居る――前にも述べた佐賀出身の柿原次郎と言ふ人で、今は馬山浦に韓人並に日本人の子弟の教鞭を執つて居る篤志家が、此の十餘年來、或は公務を帶びて、或は私用を以て、韓國各道を遍歷した序でに、鑛山の所在及び其の產額を調査した結果だとて示された所に據れば

坑名	一ヶ年算額概算
雲山金鑛(平安道)	一、〇〇〇、〇〇〇円
順安砂金(平安道)	六〇〇、〇〇〇
殷山金鑛(平安道)	五〇〇、〇〇〇
稷山金鑛砂金(忠淸道)	三〇〇、〇〇〇
宜川金鑛砂金(平安道)	三〇〇、〇〇〇
端川砂金(咸鏡道)	三〇〇、〇〇〇
永興金鑛砂金(咸鏡道)	三〇〇、〇〇〇
定平金鑛砂金(咸鏡道)	一五〇、〇〇〇
金城金鑛及砂金(江原道)	一五〇、〇〇〇

青松砂金(慶尙道)	五〇、〇〇〇
昌城砂金(平安道)	五〇、〇〇〇
宮平金鑛及砂金(咸鏡道)	四〇、〇〇〇
寧邊砂金(平安道)	四〇、〇〇〇
泰川金鑛及砂金(平安道)	四〇、〇〇〇
朔州砂金(平安道)	四〇、〇〇〇
江界砂金(平安道)	四〇、〇〇〇
義城砂金(慶尙道)	四〇、〇〇〇
甲山砂金(咸鏡道)	三〇、〇〇〇
慈山砂金(平安道)	三〇、〇〇〇
蕭川砂金(平安道)	三〇、〇〇〇
安州砂金(平安道)	二〇、〇〇〇
松禾砂金(黃海道)	二〇、〇〇〇
會寧金鑛砂金(咸鏡道)	二〇、〇〇〇
成川砂金(平安道)	二〇、〇〇〇
義州砂金(平安道)	二〇、〇〇〇
厚昌砂金(平安道)	二〇、〇〇〇
遂安及笏洞金鑛砂金(黃海道)	一五、〇〇〇

など隨分數多きものである、尤も此處に擧げたものは、一ヶ年の產額二萬圓以上の分であるから、夫れよりも以下の產額あるものを數ふればマダ〳〵澤山あるであらう

――一ヶ年の產額と言ふのは、明治三十四年から、三十六年までの三ヶ年間の平均額を示したもので、夫れが各金坑を通算すれば、四百三十萬圓ばかりに達して居る、我が內地の北海道、臺灣を通じた產額と略ぼ匹敵して居るではないか

金坑の所在は重に平安道であるが、されば、とて他の各道にも無いではない、前に揭げた調査表に據つて見ても、京畿、全羅の二道を除くの外、孰れの各道にも多少づゝ存在して居る、猶ほ柿原氏の調査に據れば、咸鏡道の甲山には金山の外、銅山もあつて、其產額は一ヶ年約五萬圓ばかりに達すると言ふことである、而して是等は孰れも既に採掘に從事しつゝあるものゝみで、若し更に精密に詮索すれば、幾多の新坑があるかも知れない

但し最も名高い雲山、順安、殷山並に稷山などが、一ヶ年の產額三十萬圓から五六十

萬圓乃至一百萬圓に過ぎない所を見れば、餘り大仕掛けて騷るに足らないことは自から分明であらう、前の調査表の最後に掲げた遂安の金坑などは、一時エラク有名に爲つて遂に日英米三國人の協同で着手することゝ爲つたが、結果は左ほど思はしからないで、今では手持不沙汰――と言ふよりも寧ろ我れは手を引くことに爲つたさうだ、歸國の途上、農商務省から派遣されて鑛山の視察に從事した人々の話に據つて見ても、小さな金坑、砂金脈は到る處に在るが、大仕掛けて着手すべきほどのものは、別に見當らなかつたと言ふことであつた

猶ほ前に掲げた金坑中、多數は韓人の經營に係つて居るが、其中の重なる雲山は米人、殷山は英人、金城は獨人の經營する所と爲つて居るさうだ、肝腎の日本人は韓國鑛業に關して、何處で何を仕て居るだらう

韓國の漁業

韓國の漁業は鑛業に次ぐべき、イヤ、手の盡しやう次第に依りては鑛業にも優るべき有望の事業である

漁業中にても產額の多大なのは咸鏡道の明太魚、江原道の鰮、全羅、慶尙兩道の鯛、鰆石首魚で、之を韓海の五大漁業とか稱するさうである

曾て朝鮮協會の調査委員を仕て居り、今では京城居留民役所に就職して居る岩永重華と言ふ人が、熱心に韓國の實業に就て調査した結果、公表した所に據れば、韓の沿海並に江河に於ける水產物の重要なるものは、以上の五大漁業の外

鰮肭臍獸、海驢、眞海豚、スナメリ(別名ナメウヲ、デゴン)鯨族、海鰐魚族、鱸魚、鱚、鯖、鰊、勒魚、鮪、鰆、鰤、鱈、比目魚、鰈、鮭、鱒、海鰻、鰡、鱧、章魚、穴章魚、ヤリイカ、柔魚、鮑、蛤蜊、貽貝、海鼠、海膽、海扇、牡蠣、紫菜、石花菜、海羅、昆布、鯰、香魚、鮒、鯉等で、是等の水產物を漁獲すべき漁業地の重なる場所は

慶尙道の部

豆毛浦、西生浦、蔚山灣、迎日灣、浦項、丑山浦、洛東江、加德島、巨濟島、主要地は竹林浦、永登浦、七川島、臥島、鎭海灣、統營、蛇梁島、三千里、欲知島、鳥島

全羅道の部

河東江、新城浦、麗水邑、突山島、全鰲島、雁島、釜島、巨文島、濟州島、主要地は鐵山浦、方頭浦、牛島、飛楊島、香山島、珍島邑、右水營、七山島、獄子島、所安島、法聖浦、古群山島

江原道の部

鬱陵島、ヤンコ島、厚利浦、竹濱、長僧里、漢津、注文津、鵝也津、長箭津灣、致弓

咸鏡道の部

松田港、西湖、執三里、前津、新浦、馬養島、新昌灣、遮湖、梨湖、葛馬浦、獨津、楡津、欄津灣、羅津灣、雄基灣

忠清道の部

竹島、烟島

等であると言ふことだ、尤も右は忠清、黄海、平安三道の沿海漁業權が本邦人の手に落ちない以前の調査であるから、當時、現に許されてあつた慶尙、全羅、江原、咸鏡四道の重要なる漁業地を數へ上げたものに過ぎないが、其の後、時局の變轉に連れて忠清、黄海、平安三道の沿海漁業權も許さるゝことゝ爲つたから、本邦人の韓國に對する漁業は一生面を開くべきは勿論、右の三道にも少なからざる漁業の好適地があるであらうと思ふ

岩永氏の調査は各般の産業に渉つて居るため、孰れも其の概要を示したものに過ぎないが、夫れでも、韓國の漁業が如何に有望であるかは、同氏が重要のものとして數へ上げられた水産物の種類の夥しきこと、漁業地の地點の多きと等に依つて推察せらるゝであらう、但し以上の地點ならば何處へ行つても以上の種類の水産物が獲られると言ふ譯ではなく、其の地點に由りて水産物の種類を異にし、場所〳〵で夫れ夫れ違つた特種の種類を有して居ることは、素より言ふまでもない

漁業の方法及び其の仕掛等が今日までの處、尙ほ甚だ不十分であることは、又素より言ふまでもない、何れ大に改良を加ふるやうに仕なければならぬ、馬山浦の領事三浦彌五郎氏の語られた所に據ると、本邦人の組織に係る朝鮮海水産組合なども、追々其の點に着目し、昨年來、巨濟島長承浦に漁村設立の計畫を爲し、組合の費用で家屋を建て、移住して漁業に從事するものに之を貸與するとして、既に夫れ〳〵實行中であるが、頗る好結果であると言ふことだ、其の家數は都合五十戸ばかり、其處で罐詰まで拵らへ上げる仕掛けに爲つて居るとやら――コンなやうな計畫を韓國沿海の重なる漁業地點に實行されることに爲れば、韓國の漁業も著しく發達するに違ひない、是れまで毎年二百萬圓から三百萬圓に過ぎなかつた收獲が、其の二倍若くは三倍に達するやうに爲るのは、餘り困難の業でもなく、又遠き將來の事でもあるまい

漁業とは事變れど、韓國には禽鳥の類も亦頗る多い、最も多いのは、雁、鴨、白鳥、夫れから鶴、雉、山鳩、鳴等である、韓人は重に網、撲、又は罠を用ひて之を狩るが、銃を用ふれば

暦効が多い、獵期は十一月、十二月より翌年の一月にかゝつた頃が最も好期であるが、されば、とて別に禁獵期、禁獵區、若くは禁鳥類の制限がないから、何時にても出獵することが出來る、遊樂にも、本業にも、都合よき好獵場であると言ふことだ

對韓シンヂケート

韓國の土地――其の土地を基礎として經營すべき諸般の實業にして、是れまで說明した通り有望であるとすれば之に着手するものは必らず自然に多くなるであらうが、我れ〳〵は其の有望なる事業に對する經營を完からしめんが爲めに、對韓シンヂケートを組織する必要があることを主張する

尤も今日までの處では、韓國人民の衣食住の程度が如何にも低くて、總べての事業も至つて小規模であるから、別段、大きな資本を投ずる必要がない、餘り大規模な計畫を立てゝ大きな資本を注込むやうなことをすれば、却つて意外な失敗を招く虞れがある、濱口吉右衛門氏が二百萬圓の大資本で釀造會社を設け、韓國の釀造業を一手專賣に仕やうと言ふ計畫を立てゝ、自身に韓國に渡航して實地視察を遂げられた所が右の事情の爲めに自己の計畫が餘りに大規模に過ぐるを覺りて、斯いて遂げて歸られたのも決して無理ではない、併し、是れは今日までのことで今日以後、何時までも斯うとばかり極まつたものでは無い、一面には本邦人が段々餘計に這入り込み、一面には韓國人民の衣食住の程度が漸く進むに隨つて、自然に大規模な計畫を要するやうに爲るに相違ない

のみならず、韓國の事業とても、小農制の農業や、現在の韓國人民の生活程度に副ふべき工業や製造業などこそ、孰れも小規模の計畫の上に經營するの外はないが、是等以外の事業の中で、今日とても、隨分可なりの大資本を投じて經營すべき事業が無いではない、早い話が一ヶ年の產額一百萬圓內外にも達する雲山の金鑛や敷設資本に對して一割以上の收益ありと稱せらるゝ京城の電氣鐵道などは、韓國の既往並に現在では比較的に大規模の大事業で之が元資には各々數十萬圓を投じたるものに違ひないが、當時、若し我國に韓國の事業經營を目的とする資本家の組合が有り、セメて五十萬圓から百萬圓ぐらゐの資金を何時でも放下することの出來る對韓シンジケートが成り立つて居つたならば、是等の有利事業は外人の手に委ねずとも、必らず本邦人の手で經營することが出來たであらう、イヤ卅七年の春夏の交とやら、京城の電氣鐵道を經營して居る米人コールブラン及びポストウヰックが、其鐵道を日本人に

賣渡す存念が有り、林公使も之が爲めには少なからず周旋の勞を執られたさうであるが、賣渡直段が一百萬圓ほどで、本邦人の力には餘つたとか、直段の折合が着かなかつたとかで、遂に破談に歸したさうだ、當時若し資本家の組合が有り、對韓シンヂケートが組織されて居つたならば、其の賣買の相談は輙すく成り立つたであらうものを、是れが無かつたばつかりに、可惜有利の事業を――シカモ我保護權下の首都の電氣鐵道を、依然外人の管理經營に委することゝ爲つて仕舞つた、開けば今日と爲つては百萬圓は愚か、百五十萬圓でも容易に之を手放す模樣がないとか言ふ話、夫れに着けても當時の破談は惜しい限りだ

雲山の金鑛や、京城の電氣鐵道などのことは、今更悔んでも甲斐はないが、其他にも稍ゝ大資本を要し、大規模の計畫を立てゝ經營すべき事業はイクラもある、例令へば、港灣の浚渫であるとか、築港であるとか、埋立であるとか又は鐵道支線の敷設であるとか、瓦斯であるとか、電燈であるとか若くは水道であるとか、數へ來れば決して少くないが、若し之を自然に放任して置いたならば例の雲山金鑛や、京城電氣鐵道などゝ同じく其の多くは必らず外人の手に落ちるに相違ない、我れ〳〵は韓國の實業界から外人を排斥しやうとする舊弊の攘夷的思想などは寸毫も有せないが、歴史から、地勢から、最も我れと利害の關係が深く、殊には愈ゝ我が保護國と爲りたる韓國の有ゆる事業に對し、本邦人の手を染めることが少なく、却つて主として之を外人の經營に委するがごときは決して好ましき現象でないと思ふ、兎も角も本邦人は常に主と爲りて之を經營し、外人にも其の利益に霑はせ、時宜に依りては何時でも之と共同し、若くは之と競爭するだけの覺悟と準備とが必要であると信ずる、而して其の覺悟と準備とは言ふまでもなく資本家の組合を作り對韓シンヂケートを組織して置くことに外ならぬのである

處が其の對韓シンヂケートは韓國在留の邦人のみではトテも滿足に出來ない、韓國に在留して相應の資産を作り上げたものも隨分有りはあるが、されば扨て何か大規模の事業を計畫しやうとする場合に、一度に五萬圓も投げ出し得るほどのものは幾人も無い、とは林公使から晩餐の饗應に預かつた席上、林公使や他の列席者から聽いた實話である、成程、夫れに相違ないから、先づ本邦内地の有力なる資本家で、相應なシンヂケートを組織し、之に韓國在留の邦人をも加へて、早速に有望の事業に着手し、且何時でも必要に應じて經營の資金を放下し得るだけの用意を整へて置いて貰ひたきものである、韓國を我れの勢力範圍、利益發展の地域とするには、是れが何よりの

急務で、保護國たるの實を完うするの途を、一に政治上にのみ委するは、決して其の宜しきを得たるものでない

對韓經營上の注意

京城の電氣鐵道を、始めより本邦人の手で經營することも出來ず、其の經營者が之を手放さうと仕た場合に本邦人の力で引受くることも出來ず、見す〳〵有利の事業を依然外人の手に委することゝ爲つたのは、前にも言つた通り、如何にも遺憾な次第であるが、此の電氣事業に關聯して聊か面白い一珍談があるから話の序でに之を記して置かう

一躰、京城に於ける電氣事業は、電氣鐵道の敷設許可と同時に、凡べて米人の手に特許せらるゝことゝ爲つて居る、乃ちコールブランとポストウヰックと云ふ兩名が合名會社を組織して、韓廷より京城に於ける一切の電氣事業を經營するの特許を受け電氣鐵道も其の特許を受けた電氣事業の一部として經營しつゝあるのだ、されば、右の兩名は電氣鐵道は勿論、電燈も、電話も、凡べて電氣に關係ある事業は、一切、其の聯合組織に係る合名會社で經營する積りで居り、且當然其の權利も有して居ることであるから他より之を侵すことは出來ず、他にて之を企てやうとすれば、兩名は其の權利を楯に之を遮ぎつたこともあるほどである、處が、或時、意外の一事變が湧いて出て、自然に其の權利の一部を我れの手に割與するやうな結果に爲つた

頃は去る三十六年の十月であつたと覺えて居るが、當時、右の合名會社に關係があり、今も尙ほ其の第二席とかに居る米人でエリオットと言ふ人が或る行違ひから、京城の街道で韓人の一群と衝突を始めた、如何に意氣强い外人でも多勢に無勢では敵しやうがなく、見る〳〵韓人原の包圍に陷つて袋叩きに遭ひかけた、折柄通りかゝつた日本郵便電信局の配達夫が、見るに見兼ねて其の乘つて居つた自轉車からヒラリと飛び下りて群集の中に分け入り、エリオットを九死の危難より救はうと努めた、之が爲めに群集の耳目が幾分か外に反れた其の隙に乘じて、エリオットは包圍を脫し、我が配達夫が其の附近に立てかけて置いた自轉車に得たり賢しと飛び乘りて跡をも見ずに逃げ去つた――韓人の一群は之を見て、サアー其の配達夫逃すな、必らず彼の外人の同類に違ひない、夫れを袋叩きにせよ、と飛んだ處に怒りを移して滅多打ちに打つて騷つたから、配達夫も溜らず、或る本邦人の商店に逃げ込む、韓人の一群は更に之を追掛けて其の商店の硝子戸などを打ち壞すと言ふまでの騷ぎが起つた――

尤も直ちに其の事情が明白に爲つたから、韓廷から詫を入れて配達夫の負傷及び商店の損害に對して相當の賠償を爲し、それで其の落着を告げたことがある

コンなことは韓國では素より珍らしい話ではないが、此の一事變があつた爲めに、京城在留の米人、就中、右の合名會社の人々は大に恐慌を起した、何時、如何なることがあつて韓人原の襲擊に遭ふかも知れぬと言ふ恐怖の念に打れた、其の結果、日本居留地の警察――他國は警察を有せないのみならず、日本の警察が其當時でも最も信用があつたから、之に保護を依賴し、何時でも急變あれば直ちに之を急報して救ひを乞ふことが出來るやうに、双互の間に電話の架設――日本居留地内は元と〳〵米人の特許權以外で、本邦人の手で勝手に電話を架設することが出來て、現に之を架設してあつたから、夫れをドウぞ延長して加盟させて呉れいと言ふことを要求して來た――サアー、そこが好い着込み處で、我が電信電話事業の管理者は猶豫なく、成程御尤もの要求ではあるが、大分、程遠いアナタの處まで別に電話柱を建て增す譯には行かぬ、アナタ自身の所有に係る電燈柱に添架して宜しければ之に應じましやう、又アナタの處一軒だけの爲に之を延長することも困る、其附近に在住して居る重なる日本人の宅にも通ずるやうに仕て宜しければ、早速に延長工事に取り懸りましやうと返答した、米人等は痛く恐怖の念に打れて居つた時であるものだから、何事も我が要求通りに唯々諾々と承知して、其の結果、電話線を我が日本居留地以外にも延長架設することゝ爲り、コールプラン、及びポストウヰック兩人へ特許せられて居る電氣事業も斯くして其の一部は自然に本邦人の手に劃與せらるゝことゝ爲つた

面白い一珍談と言ふのは、即はち是れであるが、是れは單に面白いと言ふよりも、寧ろ今後、事に當るものゝ大に注意すべき價値がある出來事であると思ふ、活眼活識の士が種々の業務、就中、對外經營の業務に就て、其の進取的企圖を遂げやうとして注意に注意を加ふれば、機會は常に眼前細微の事物の間にも存して居る、如何なる細微の事物でも巧みに之を利用すれば、自から大なる効果を奏することの出來る機會に爲るのである――京城の街道に於ける米人危難の一事變が、米人の專有に屬する電氣事業の一部を本邦人の手に劃與する動機と爲らうとは、誰れも思ひ寄らなかつたらうが、機會をハヅさずして巧みに之を利用すれば、得べからざるものを得ることが出來るやうに爲ることは、是れて了解せられたてあらう、而して是れは獨り韓國の事業に止まらない、孰れに於ける事業に對しても素より同樣である

因に記して置く、右の機會を甘く捉へて電氣事業の一部を劃與させるに至つた主

なる働き手は、今も尙ほ引續き京城郵便電信局長を仕て居る田中次郎と言ふ人だ、同人は帝國大學の出身であるが、大學出には似合はしからぬ剛氣を持つて居る年若き敏腕家だ、同人の管理の下に在る通信事業と、丸山警務顧問の監督の下に在る警察事務とが對韓事業中、比較的に其の功を奏しつゝあるのは、誰れも疑を容れない處で、此の一事、粗ぼ兩人の人物を推想するに足るではないか

韓國の幣制

田中京城郵便電信局長の管理の下にある通信事業、及び丸山警務顧問の監督の下にある警察事務の外、近頃、更に內外の注目を牽いて居るものは所謂白銅貨引換の問題である、乃ち韓國幣制の一端を改革せんとする者で、目賀田財務顧問が頗る心力を傾注して居られる事業である

韓國の白銅貨は實に粗雜を極めたものである、其の粗雜を極めた原因は、公鑄の外、韓國の皇室が市井小人の密請を容れ、幾干かの納付金を徵して私鑄を許したのが一ツ、其の亂脈に乘じて別に外國に於て僞造した惡質の白銅貨を、或は炭俵の中に隱し、或は味噌樽の底に潛め、巧に稅關の目を掠めて密輸入を爲したのが一ツで、是れが爲めに韓國の白銅貨は著しく其の信用を落し、同額面の日本貨に對して半分の價格だも保たないことに爲つた、其の信用薄弱の結果は更に種々の事情と搦み合つて、斷えず價格の變動を來たし、之が爲めに日韓間の通商貿易の上に少なからざる不便を及ぼしたことは、一たび足を韓國に入れたものゝ能く熟知して居る事實である、目賀田顧問が先づ目を此點に注がれ、斷然白銅貨の引換に着手されたのは、流石に多年の智識經驗から割出された結果で、誠に其の當を得たる處置である、只其の實行に着手すると間もなく、準備の不足より引換を中止し、之れが爲めに左なきだに驚動せる韓民をして益す其の疑惧と紛擾とを增長せしむるに至つたのは、如何にも遺憾の次第である、成程、韓國の白銅貨は前にも述べた通り、私鑄があり、且つ密輸入が多く、其の流通の現在高は大凡その想像を以つてするより外はないのであるから、引換の準備も到底十分に確實に出來ないことは言ふまでもないが、其の引換の着手後、幾日も經ずして忽ち之を中止し、其の爲め無益の波瀾を惹起して幣制改革の前途に少なからざる不便を及ぼさしめたのは、決して手際な遣方と稱することは出來ぬ、が、今から其の事を咎め立てしても仕方がない、成るべく韓民の困難を減じ、其の疑惧と紛擾とを避くる方法を備へて一日も早く引換事業を結了せしめたきものである

白銅貨の外に流通して居る韓錢は、赤銅貨及び葉錢である、赤銅貨は五文、五分の兩種で、粗ぼ我が內地の五厘銅貨、一錢銅貨と同形であるが、其の鑄造流通高は兩種を通じて二十萬圓の上には出づまじとのことである、葉錢は則ち孔の明いた一文錢(五文錢も多少あるで、我が寛永通寶、文久永寶などゝ能く其の形が似て居るが、是れにも至つて粗製濫造のものが多くて、其の種類も幾通りもあるやうである、其の外に銀貨、黃銅貨等もあるさうだけれど、是等は人民の氣受けも善くなく、其の發行高も殆んど數ふるに足らないほどであると言ふ話だ

一躰、同じ韓錢でも白銅貨は主として京畿道、黃海道、忠淸南道、平安南道の內の平壤及び鎭南浦附近、江原道の內の春川附近に通用し、其他には通用せぬ、近頃に爲つて稍や其の區域が廣がつて忠淸北道、平安北道、及び全羅道の內の全州附近まで通用することに爲つたが、其の外には矢張りマダ行かぬ、乃ち慶尙道、咸鏡道の全部、及び全羅道の大部分は全く白銅貨の流通區域外で、其處に通用するものは、例の孔の明いた葉錢ばかりである、未開國の習慣とは言ひながら、今時に爲つて尙ほ一國內で斯くキツパリと通用貨幣の種類と區域とを異にして居るのは、頗る珍らしい現象と稱すべきではあるまいか

白銅貨の通用する處は別として、孔の明いた葉錢のみ通用する各道の內地を旅行するには、其の葉錢携帶の爲めに頗る不便を感ずるさうである、夫れも其の管、馬一頭の葉錢負擔力が日本貨に換算して二十五圓を超えぬのに、其の馬の駄賃、馬子の賃銀、外に旅客の携帶荷物を運ばせる馬、馬子の賃銀、更に旅客が馬にても乘れば其の馬、馬子の賃銀をも支拂はなければならぬから、馬一頭に力限りの葉錢を負はせても、幾日の旅費にも足りないと言ふ勘定に爲る、不便のほどは是れて想ひ遣らるゝではないか、されば、とて他の貨幣は一切通用せぬから、別にドウすることも出來ぬ——一躰、是等の地方にありては、五厘のマッチ一箱を箱のまゝでは買はぬ、何本づゝかに分けて買ふ、卷煙草とても同じことて箱では買はないで三本とか五本とか分けて買ふ位の程度であるから、葉錢が最も手頃の貨幣て夫れ以上の價格を有する貨幣の種類が餘り必要てない、我國より這入り込む人々の爲めには、誠に不便の至りではあるが、結局、其の地方に於ける韓民の生活程度の向上に伴ふて自然に改進を期するの外はないのである

日本貨幣としては、第一銀行券が盛んに流通して居る、日本銀行の兌換券も一時稍や流通して居つたが、今では大に減少して重に第一銀行券の代用を見るに爲つて

居る、第一銀行と韓國金融界との關係上當然のことではあるが貨幣の本位制が我日本內地と同樣に改められて居る今日、日本銀行兌換券と第一銀行券と二樣の紙幣が行はれ、而して其の第一銀行券は日本內地に持て還つては通用の効能なきことゝ爲つて居つては、矢張り萬事につけて不便に相違ない、今が今と言ふ譯には行くまいけれど、追つては日本銀行兌換券の下に歸一せしむるのが、双互の便利でも有り、貨幣制度の整理統一を完くする所以の途ではあるまいか

癈兵と韓國

望み多い韓國の土地を活用して其の利益を開發するが爲めに、普通の本邦人が續々這入り込むのは素より必要であるが、更に今回の日露戰役で負傷した所謂癈兵を韓國に移住させるのも、亦機宜に適した一舉兩得の方策ではあるまいか

今回の日露戰役で負傷した下士卒の數が、幾干に達するかは未だ明確に明知することが出來ないけれども、少なく見積つても二十萬は下らないであらう、其內、至つて輕微な傷で平癒後、別段、普通の勞働に差支ないものも多いであらうが、或は手を切斷するとか、或は片足を切斷するとか仕て、實際、勞働に堪へない眞の癈兵も決して少なくないであらう——其癈兵中には、健康上の關係から風土の變つた處に移住することの出來ないものもあらうし、又は其の家族が相應の身代を持つて居つて別段暮らし向きに困らないものもあらうが、癈兵と爲つたものゝ大部分は必らず貧窮の人々で其の壯丁を杖とも柱とも賴んで居つた各家族は、今後の日常生活にも困難を感ずるに至るに相違ない、夫等の人々を勸誘もし、幇助もして韓國に移住させたらば、多少にても生活の困難を輕くして遣ることが出來るであらうと想ふ

韓國の土地——中にも其の田畑は重なるステーションの附近、又は古くから開けて居つた都市の附近こそ、日本人が無暗に買煽りて馬鹿げた高價に糶上げて居るけれど、其の外の場所、殊に鐵道線路から遠ざかつた內地に這入れば、尙ほ至つて廉價で買入るゝことが出來る、前にも精しく述べた通り、畑ならば一反六七圓から七八圓、田でも十圓から十五圓、至極の上田で二十圓から二十二三圓、都合善く行けば、日本內地の登記料だけで一反の田畑を手に入れることが出來るのである、斯る事は日本內地では何處の果に行つてもトテも思ひも寄らぬ話である——處が、サテ、今回の戰役で癈兵に爲つたほどのものは、必らず其の戰功に比例して各々相應の一時賜金又は年金を貰ふであらう、其の一時賜金又は年金は日本內地では幾干の田畑をも買ふこと

が出來ないけれども、之を韓國に持つて行けば相應の地面を買入るゝことの出來る資本と爲るのである、例之へば、一反平均七圓の畑であれば五百圓の資本で七町以上を買入るゝことが出來、十五圓の田ならば三町以上を買入るゝことが出來るのである、三町以上の田、又は七町以上の畑を持つて居るものは日本内地でも一廉の地主樣で、其の收獲で優に――優にとまでは行かずとも、兎に角、左したる困難なしに一家族の生計を立てることが出來るに相違ない

夫れに、韓國では移住者自身に鋤鍬を取らずとも――取る覺悟あるに越したことはないけれども……――是迄の地主兼農夫であつた韓人を小作人に使ひ、頤で指圖を仕て居るだけで收入を得ることが出來る、片手や、片足を無くした癈兵の生計的事業としては、誠に恰好な、持つて來いの仕事である――夫れに日露戰役で名譽の負傷を仕た日本人であると言ふからには、事大主義の、柔順な韓人連は一層之を尊敬して、行く〳〵は各鄕閭の長老とも崇むるに至るであらう、又移住した各人各箇の心懸け次第と、我が當路者の指導督勵如何に由つては、其の所在々々の治安を保つ一重鎭と爲ることも出來るであらう、斯くして一面には多くの本邦人を移住せしめて韓國内地の利益を開發することが出來、一面には負傷したる癈兵を其の貧困より救ひて自活の基礎を立てしめ、以て其の名譽を完うせしむることが出來るのみか、之に依つて韓國各僻邑の治安を保つ基と爲すことが出來るとすれば、一舉兩得どころか一舉三得の方策とも言ふべきではないか

尤も癈兵を韓國に移住せしむるには、移住せしむるに必要なる經費がかゝる、旅費も必要である、韓國向きの日用什器も必要である、住家の建築も必要である、農業の改良などに關する資本も必要である、唯、田又は畑を買入れたばかりでは素より仕方がないが、田畑の買入れ資本は一時賜金又は年金(年金を引當に相當の資本を借出すことは出來やう)に依るとして、其他の費用は各鄕黨若くは自治團體等の補助に待つことに仕たらば、ドウやらコウやら其の運びの着かぬこともあるまい、各鄕黨若くは自治團體等にても、其の土地より出だした戰功者に今後の生活的事業を得せしめ、永く其の名譽を完うせしむる爲めには、其の位の補助は奮發しても宜からう、イヤ、各鄕黨若くは自治團體等とばかり言はず、直接、國家の事業として之を補助するのも必要であらう

憂國愛民の士は、戰後經營の一としては勿論、癈兵に同情を寄する上からも、十分之を講究し、助成して貰ひたい

韓國居留民の增加

近年、韓國に入込む本邦人が日に月に多きを加ふるは言ふまでもない、殊に日露開戰以來は其の勢が一層凄まじい、單に京城だけに就て見ても日本領事館の公簿に上つた調べが左表の通りに爲つて居る

月次	京城居留人口
卅六年二月	三、四六〇人
卅七年二月	三、六四四
〃　三月	三、五〇八
〃　四月	三、六七一
〃　五月	四、〇〇六
〃　六月	四、二二九
〃　七月	四、二七六
〃　八月	四、四四四
〃　九月	四、六六六
〃　十月	四、六六四
〃　十一月	五、〇九四
〃　十二月	五、三二三
卅八年一月	五、五〇七
〃　二月	五、六九二
〃　三月	五、八六一
〃　四月	六、二九六
〃　五月	六、八九一

三十六年の二月から卅七年の二月に至る一ヶ年間の增加は百八十人ばかりで平均一ヶ月十五人內外の增加であつたが、日露開戰後――殊に鴨綠江の第一戰に大勝利を占めて彼我勝敗の形勢を一定してからは、毎月二百、三百、四百と言ふ大變の增加で、卅八年の五月には六千八百九十一人の多きに達し、三十六年、三十七年の初めに比しては殆んど二倍の巨數に達して居る

尤も右は前にも言つた通り、在京城日本領事館の公簿に上つたものだけで、此の外、出入、去留共に公然の屆けを仕ないで這入り込んで居るものが少くない、イヤ却つて

其の方が多いほどで、實際、京城に在留せる本邦人の總數は一萬五千人にも達して居るであらうと言ふことである

仁川では居留民の總數が三十八年四月末の調べで一萬二千百八十五人と爲つて居り、釜山では頗る古いが三十六年十二月末の調べで一萬七百七十六人と言ふ數に爲つて居る、其後、著しく增加したことは勿論であるが、是等も皆其地の領事館公簿に上つた調べで、公簿に上らない屆け漏れの居留民まで加へて計算すれば、必らず右の數より著しく多いに相違ない、其の土地に慣れた人の話に據ると、釜山、仁川とも慨かに二萬以上の實數に達して居るであらうと言ふことである

右の樣に本邦より這入込む人は多く、さうして住屋の建築は仲々之に伴はないから、家賃や、貸間料は案外に高く、仁川あたりでは壓一壓の貸料が一圓近く若くは一圓以上にも達し、十五圓ほども懸ければ出來上る寢床付の屋臺店見たやうなものが二十五圓も貸料を出さなければならぬと言ふ有樣ださうだ

居留民の府縣別

韓國居留民の增加は斯の如き有樣であるが、サテ、其の居留民の原籍地を取調べ、之を府縣別にして見るも亦一興であらう

京城の分はツツカリして手に入れなかつたが、釜山及び仁川の領事館で取調べた結果に據ると、全地に於ける居留民の府縣別並に男女の區別は、左の通りであるさうだ

府縣名	釜山 男	釜山 女	釜山 計	仁川 男	仁川 女	仁川 計
東京府	一〇八人	七〇人	一七八人	一五九人	一〇〇人	二五九人
京都府	三九	二五	六四	一一二	四九	一六一
大阪府	二一四	一九二	四〇六	四五〇	四五一	九〇一
神奈川縣	一三	八	二一	三八	二二	六〇
兵庫縣	一一一	七五	一八六	二八七	二三七	五二四
長崎縣	一、〇四三	九四六	一、九八九	九五〇	九〇〇	一、八五〇
新潟縣	一七	七	二四	四九	一四	六三
埼玉府	七	五	一二	六	七	一三
群馬縣	一〇	六	一六	六	二	八
千葉縣	二三	一八	四一	一八	一三	三一

茨城縣	一四	六	二〇	三六	九	四五	一六
栃木縣	一五	八	二三	二八	八	三六	一九
奈良縣	一六	一一	二七	七九	三一	一一〇	七
三重縣	三四	二五	五九	九四	四二	一三六	三
愛知縣	六五	三六	一〇一	八〇	二六	一〇六	四
靜岡縣	二八	一八	四六	六六	二八	九四	一
山梨縣	四	一	五	一七	二	一九	一七
滋賀縣	三九	九	四八	一三九	四四	一八三	九
岐阜縣	三四	一五	四九	六九	三〇	九九	一六
長野縣	一八	六	二四	二〇	五	二五	二四
宮城縣	六	三	九	二一	三	二四	一三
福島縣	二八	二〇	四八	二一	一一	三二	七
岩手縣	〇	〇	〇	四	一	五	九
青森縣	一	二	三	三	四	七	一六
山形縣	一一	八	一九	七	九	一六	一八

秋田縣	六	三	九	一二	一二	二四	一二
福井縣	一三	〇	一三	四九	一七	六六	一七
石川縣	三二	二三	五五	四七	二〇	六七	一七
富山縣	一八	六	二四	一三	九	二三	一七
鳥取縣	一九	一七	三六	六二	一七	七九	一七
島根縣	一七四	八一	二五五	一四一	六三	二〇四	一四
岡山縣	一三四	六三	一九七	一一八	四五	一六三	一一
廣島縣	三七四	二八六	六六〇	二七一	二七二	五四三	二七
山口縣	一、四五一	一、四五三	二、九〇四	一、〇九九	一、〇四八	二、一四七	一、〇二〇
和歌山縣	六二	三六	九八	一三〇	八六	二一六	四三
德島縣	四九	三〇	七九	二二七	一二八	三五五	一一〇
香川縣	一一〇	一二〇	二三〇	一二二	六二	一八四	一二〇
愛媛縣	一六一	八七	二四八	二二一	一二〇	三四一	二二
高知縣	二二	一一	三三	四一	三二	七三	四四〇
福岡縣	四三七	三一〇	七四七	五八〇	四四〇	一、〇二〇	一、〇二〇

大分縣	四九六	四七四	九七〇	五一九	三六〇	八七九
佐賀縣	一七七	九八	二七五	一九八	七八	二七六
熊本縣	一九二	一三一	三二三	二四六	一六九	四一五
宮崎縣	一〇	五	一五	二四	一八	四二
鹿兒島縣	一〇八	五七	一六五	一六一	五五	二一六
冲繩縣	〇	〇	〇	五	二	七
北海道	一七	五	二二	二六	二一	三七
臺灣	〇	〇	〇	一	一	二
合計	五、九六〇	四、八一六	一〇、七七六	七、〇七二	五、一二三	二、一八五

釜山の分は明治三十六年十二月末の調べ仁川の分は三十八年四月末の調べであるが、大勢は今に至つても變る所はあるまい、又、釜山、仁川以外に於ける居留民の府縣別も大凡そは之に依て推されるであらう

右の表に據て見れば、流石に地勢上の便利から九州、中國あたりよりの移住者が割合に多い、中にも山口縣、長崎縣より出たものが最も多いが、韓國の利益は何も是等方面の人々の專占に歸すべき譯は無い、今日以後は是れまで移住するものが少なかつた府縣よりもドシ〳〵出かけて行くべきである

韓國居留民の希望

韓國に居留する本邦人の個々の希望を擧れば果て限りもあるまいが、一の居留民團として本邦の助成を待ちたいと希望して居る事業はドンなものであるかを知る必要があると思つて、京城、仁川、釜山等の居留民長若くは其の重なる人々に就て聽糺した所が、各所共に一致した第一の希望とも稱すべきものは、水道の敷設と言ふに在つた、

韓國は前にも言つた通り、一躰に水に乏しい處である、殊に良い水に乏しい處である、分けて京城は一層ヒドい、我れ〳〵が京城に入りて同地に滯在したのは前後八九日間ばかりであつたが、時候が丁度夏の初めで、其の間斷へず晴れ切つた天氣が續いた爲め、到る處の井戸の水は大に其の量を減じ、入京當時には水浴も出來る、風呂にも思ふまゝに這入れたものが、後ちにはソンな勝手な眞似が出來ないやうに爲つた、僅か八九日間の天氣續きで其の通りであるから、夏の眞ッ盛りに十數日乃至數十日も照り續いたならば、水に對する京城市民の難義のほどは誠に想ひ遣らるゝではない

か――猶ほ我れ〳〵の宿泊して居つた小田柿氏の邸宅は、京城全市を見渡す南山半腹の高い場所であるから、其の井水も比較的に良い方であつたが、所謂下町で、例の不潔な朝鮮人が雜居し、若くは盛んに往來する場所の邊りに爲ると、其の水質も至つて惡い、現に我れ〳〵が入京の當夜、一泊した大東館と言へる旅館などにても、一躰の事には努めて清潔を期して居るやうであるが、其の用水に至つては頗ぶる惡ひ、口を嗽いで見ても鹽氣を感ずる、茶を飲んで見ても辛味がある、ドウ言ふ譯であるかと糺して見た處が、來合せて居つた朝鮮通の本邦人が、夫れは溝と言はず、大道と言はず、例の大小便を垂れ流すものであるから、自然、其の餘臭が井戸の水にまで、浸み込みて鹽辛い味がするやうに爲るのであると說明した、成程、海には程遠く隔てゝ居る京城のことであるから、海水の餘波を受け、鹹味を生ずる譯はない、矢張り大小便の垂れ流しの結果でゞもあらうかと思つた時は、遽かに胸が惡くなつて嘔吐を催したいやうな心持に爲つた――何處も〳〵其の通りと言ふほどではなからうけれど、水の惡いこと、水の乏しいことはドウしても爭はれぬ事實である、是れでは日常の生活に難義するのみならず、之が爲めに益々衛生が行屆かないて、自然に惡疫の流行も盛んに爲ると言ふ結果に爲る、今後、益々本邦人が入り込むにつけては、愈々之を救濟する方法、乃ち言ふまでもなく水道の敷設を實行する必要がある、居留民團が之を以て重なる、イヤ、寧ろ第一の希望と爲して居るのは決して無理でない

右は專ぱら京城の事に就て說明したが、獨り京城ばかりではない、仁川、釜山とても大躰に於ては同じ事である、矢張り水が惡い、矢張り水が乏しい、ドウしても京城と同樣に水道敷設の急要を感じて居る、實に水道敷設は京城、仁川、釜山等に共通した我が居留民團一致の希望であると言つて宜しい、其他、元山、平壤等を始めとし、本邦人の澤山這入り込んで居る重要の場所は、實地に行つて見ることは出來なかつたけれども、大抵は似た樣な事情であらうと想像する

サテ、水道を敷設すると爲れば、京城では勿論、數哩の東南に在る漢江の水を引くことに爲るであらう、漢江の水を引くことに爲れば、仕掛け次第で如何ほどでも給水することが出來る、京城の水道敷設權は矢張り彼のコールブラン等の手に特許されて居るから、他の計畫に對しては故障を挾はさまうとする模樣があると言ふことであるけれども、日本人が日本居留地のみの專用に水道を敷設するのは彼の專用電話架設と同じく我れの隨意で必らずしも彼等の干涉を受くるに及ぶまい――仁川に至つては、給水調査委員六名を設けて給水方法の調査中であるが、近處に適當の水源が

無いため、ドウしても十七八哩も隔てた漢江の上流から水を引くの外はないと言ふ考案に爲つて居るさうだ、漢江の上流から水を引くとすれば其の給水の本源地を京城と同一場所に置くやうにするが便利で、之が經費も割合に少くて濟むだらうと言ふので、兩地の人々は水道敷設に關しては聯合一致の運動を試むる積りのやうである、尤もの事であると思ふ――釜山には既に水道の設備がある、但し現在の設備では極度一萬人までに給水することの出來る仕掛に爲つて居るに過ぎないから、年々居留民の增加する今日以後に於ては、トテも其の需要に應ずることが出來ぬ、夫れゆゑ釜山の民役所では先頃、內務省の藏重技師を聘し、其の調査設計を囑托したが、同技師の考案では甲乙の二樣あつて、甲は現在の水源地を擴張して三萬五千人まで給水することの出來る設計、乙は水源地を新たに設けて五萬人まで給水するとの出來る設計で、釜山市民は目下其の孰れを取るかを思考中であると言ふ話だ

が、水道敷設の事業は、孰れも多大の經費を要することで、京城、仁川の分は聯合事業としても少くとも二、百萬圓以上、釜山の分は甲設計で七十五萬圓、乙設計で八十五萬圓を要すると言ふ豫算である、斯くの如き巨費はトテも居留民の力で負擔することの出來ないのは知れ切つた話であるから、愈々之に着手する場合には、大部分、我が國庫の補助に待つの外はあるまい

水道敷設は京城、仁川、釜山等に共通した居留民一致の希望であるが、其の外にも尙ほ本邦の助成を待ちたいと希望して居る事業は少なくないやうである

先づ京城に就て見るに、同地の居留民團は熱心に陸地稅關並に保稅倉庫の設置を希望して居る、一體、京城に輸入する貨物は、主として仁川港を經由するから、其の輸入貨物は孰れも仁川に在る海關の檢査を受けなければならぬことに爲つて居る、是れは當り前のことではあるけれども、其の海關並に之に伴ふ倉庫の設備が十分で無いために、京城在留の商賈は勿論、一般の需要者までが頗る不便を感ずるやうに爲つて居ると言ふのは、海關並に倉庫の設備が十分でないから、檢査の手續きは自然に遲延する、大事の貨物も風雨に暴露せらるゝ憂ひあるを免かれない、夫れや是れやにて貨物を陸揚げして京城に送り込むまでには少なからざる手數と費用とがかゝる、之が必然の結果として其の貨物の價格は夫れだけ騰貴する、京城の居留民が夫等の不便に堪えずして新たに陸地稅關、並に保稅倉庫の設置を希望するのは誠に尤もな次第である――其の外、京城にては國立尋常中學校、及び國立高等女學校の設置を希望して居る